

STAR

コンビネーションベアラ

取扱説明書

製品コード

K93260

型

式

JCB1500

“必読” 機械の使用前には必ず読んでください。

株式会社IHIスター

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください

このたびは、コンビネーションペーラをお買い上げいただきありがとうございます。ごさいます。

この取扱説明書は、本機の取り扱い方法と、使用上の注意事項について記載しています。

本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。

また、お読みになった後も、この取扱説明書を製品に近接して保存し、必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書を本製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書および安全銘板を、紛失または損傷された場合は、速やかに当社の特販店または JA にご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「1 章安全な作業をするために必ずお守りください」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただいた特販店・JA へご相談ください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容は、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

このコンビネーションペーラは、路上(公道)走行できません。

このコンビネーションペーラは、道路運送車両法の保安基準に適合する装備をしておりませんので、法令により公道を自走することができません。公道を移動する場合は、必ずトラックなどにのせて運搬してください。
※積載するトラックの選定など、道路交通法を守ってください。

説明記号の見方



危険

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。



警告

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。



注意

その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

【重要】

誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

【参考】

作業能率を良くしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

本製品の使用目的について

本製品は、飼料イネや麦、牧草などの作物の刈取、梱包用の作業機としてご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。(詳細は、保証書をご覧ください。)

目次

はじめに..... 1

1章 安全な作業をするために 必ずお守りください 5

1. 作業者の体調・服装について.....5
2. 使用する機械について.....5
3. 運転前・作業前点検をするとき.....6
4. 運転・移動をするとき.....7
5. 運搬するとき.....8
6. 作業をするとき.....9
7. 作業後の手入れ・格納をするとき.....11
8. 点検・整備をするとき.....11
9. 安全銘板の貼り付け位置.....14
- 10.安全銘板の手入れについて.....18

2章 保証とサービスについて..... 19

- 保証書は大切に保管してください..... 19
アフターサービスをお受けになるときは..... 19

3章 各部のなまえ 20

1. 外観.....20
2. 運転操作部.....22

4章 各操作部のはたらき 23

- エンジンコントロール関係..... 23
作業関係..... 24
走行関係..... 27
電装関係..... 29
液晶コンビネーションメータ..... 30
自動化装置(機体水平制御(UFO)装置)..... 31
刈取オートリフト・刈取オートセット装置..... 32
自動定回転制御装置..... 33
刈取バックアップ装置..... 33
OKリフト..... 33
警報装置..... 34
その他..... 34

5章 運転前・作業前点検のしかた 36

1. 作業者の体調・服装について.....36
2. 本機の点検のしかた.....37

6章 運転・移動のしかた 38

1. 本機への乗降のしかた.....38
2. シート位置の調節のしかた.....38

3. ミラーの調整.....39
4. マルチハンドルの前後調節のしかた.....39
5. エンジンの始動のしかた.....40
6. 暖機運転のしかた.....42
7. エンジンの停止のしかた.....42
8. 発進のしかた.....43
9. 変速のしかた.....45
- 10.旋回のしかた.....45
- 11.停車のしかた.....46
- 12.駐車のしかた.....47
- 13.移動走行のしかた.....48
- 14.トラックでの運搬のしかた.....50

7章 収穫作業前の準備のしかた 53

1. 収穫できる作物の条件について.....53
2. 収穫作業ができるほ場の条件について.....53
3. 刈取方法について.....54
4. 本機の準備のしかた.....57
5. ネットの通しかた.....58
6. ほ場への出入りのしかた.....63

8章 収穫作業のしかた 64

1. ダイレクトカット収穫作業のしかた.....64
2. 予乾収穫作業のしかた.....69
3. 警報装置が作動したときの処置のしかた.....71
4. 自動装置について.....72

9章 作業後の手入れと格納について... 76

1. 機体の洗浄のしかた.....76
2. 各部の掃除のしかた.....77
3. 格納のしかた.....77

10章 点検・整備のしかた..... 78

1. 定期点検・整備の時期について.....78
2. 定期点検一覧表.....79
3. オイル・グリス・不凍液一覧表.....83
4. 給油・給水一覧表.....83
5. エンジンルームカバーのオープンのしかた.....84
6. 燃料の点検・補給のしかた.....84
7. オイルの点検・補給・交換のしかた.....85
8. 冷却水の点検・補給・交換のしかた.....88
9. エンジンオイルエレメントの交換のしかた.....90
- 10.HSTフィルタの交換のしかた.....90
- 11.ウォーターセパレータエレメントの
点検・掃除・交換のしかた.....91
- 12.燃料コシ器エレメントの交換のしかた.....91

13.燃料タンクのドレン抜きのしかた	92
14.燃料の空気(エア)抜きのしかた	92
15.エアクリーナエレメントの 掃除・交換のしかた	93
16.吸気口・ラジエータスクリーン・ ラジエータフィン・オイルクーラフィンの 掃除のしかた	93
17.バッテリーの点検・整備のしかた	95
18.パイプ類の点検のしかた	97
19.電気配線の点検のしかた	97
20.ヒューズ・スローブローヒューズの 点検・交換のしかた	97
21.各部ベルトの点検・調節のしかた	98
22.駐車ブレーキワイヤの点検・調節のしかた ..	101
23.クローラの点検・調節のしかた	101
24.排気ガスの色について	102
25.作業部の点検・調節のしかた	103
26.自動注油装置について	105
27.フレールカッター・受刃の研磨のしかた	107
28.ネットナイフの交換のしかた	109

11章 不調診断のしかた..... 111

1. キースイッチを「始動」位置にしても スタータが回らない場合	111
2. スタータは回るが エンジンが始動しない場合	111
3. 運転中に水温パイロットランプが点灯し、 ブザーが鳴る場合	112
4. 運転中に油圧パイロットランプが 点灯した場合	112
5. 運転中にチャージパイロットランプが 点灯した場合	112
6. 機体が水平にならない(UFO装置)	112
7. 油圧が作動しない場合	113
8. 作業部で下記の現象が出た場合	114
9. エンジンコントローラ自己診断について	117

12章 その他..... 118

1. 主要諸元	118
2. 主要消耗品	119
3. 主要消耗部品の点検・交換時期の目安表	120

上手に作業をするポイント..... 121

1章 安全な作業をするために必ずお守りください

- ここに記載されている注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。
- ここに記載されている注意項目を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

1. 作業者の体調・服装について

⚠ 警告

■ こんなときは、運転しない!

- ・ 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- ・ 酒を飲んだとき。
- ・ 妊娠しているとき。
- ・ 18才未満の人

【守らないと】

思わぬ事故の原因になります。



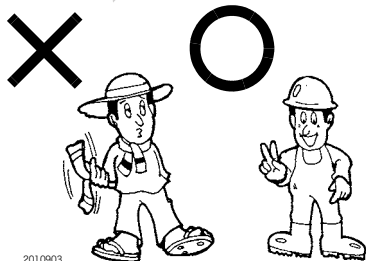
2010902

■ 安全靴・作業帽・ヘルメット・つなぎなどの作業に適した服装をする

サンダル・スリッパ・はち巻き・首巻き・腰タオルだぶついた服の着用は禁止です。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、滑ったりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



2010903

2. 使用する機械について

⚠ 警告

■ 使用する前には、必ず点検を行う

本機を使用するときは、運転前・作業前点検を行い、異常箇所は必ず整備してください。

また、作業終了時にも異常箇所がないか点検してください。

【守らないと】

整備不良による事故、機械の故障を引き起こすおそれがあります。

■ 機械を他人に貸すときは

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

■ 電源取り出し用コネクタ以外から電源を取り出して、電気機器を接続しない

電源取り出し用コネクタを利用して、電気機器を付ける場合にも、制限容量を越えると火災のおそれがあります。

【守らないと】

火災のおそれがあります。

⚠ 注意

■ 必ず定期点検・整備を受ける

1年ごとに定期点検・整備を受け、各部の保守を行ってください。特に、燃料パイプは2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検してください。

【守らないと】

整備不良による事故、機械の故障を引き起こすおそれがあります。

3. 運転前・作業前点検をするとき

⚠ 危険

■ 注油・給油は、エンジンが冷えてから行う

エンジン回転中やエンジンが熱い間は、給油・注油を絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料やオイルに引火して、ヤケドや火災の原因になります。

■ 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料に引火して、ヤケドや火災の原因になります。

⚠ 警告

■ 点検は平坦で安定した場所で行う

点検・整備を行うときは、機械が倒れたり動いたりしない、平坦で安定した場所で行ってください。

【守らないと】

思わぬ事故の原因になります。

■ 燃料を補給した後は、燃料キャップを締め、こぼれた燃料は拭き取る

燃料キャップがゆるんでいると、燃料がこぼれ出ることがありますので、確実に締め込んでください。また、こぼれた燃料は、きれいに拭き取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こし、ヤケドをするおそれがあります。

■ 燃料もれに注意する

燃料パイプが破損していると燃料もれを起こしますので、必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引き起こし、ヤケドをするおそれがあります。

⚠ 警告

■ 電気部品やコードも必ず点検する

毎日の作業前には、配線コードが他の部品のエッジ部に接触していないか、コードの被覆がはがれていないか、コードの固定部がゆるんでいないか点検し、不具合のある場合は購入先に点検を依頼してください。

【守らないと】

ショートして、火災の原因になります。

■ バッテリー液を「下限(LOWER)」以下にしない

バッテリー液は「上限」と「下限」の間にあることを確認し、「下限」以下にしないでください。

【守らないと】

「下限」以下になると、容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。



■ 排気ガスには十分に注意

倉庫や車庫など、閉めきった屋内ではエンジンを始動しないでください。

エンジンを始動するときは、風通しのよい屋外で行ってください。やむを得ず屋内で始動するときは、十分に換気をしてください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

⚠ 警告**■ ブレーキの効きや各レバー類の作動点検を行う**

ブレーキのきき具合や片ききの有無、ステアリングハンドル・各レバー類に著しいガタや遊びがないか点検し、ある場合は必要な処置をしてください。

【守らないと】

正常な走行ができず、死亡や傷害事故、機械の破損を引き起こすおそれがあります。

■ ステアリングハンドルのきき具合を、必ず点検・整備する

ステアリングハンドルの切角と旋回半径（きき具合）が同じか点検し、違う場合は、点検・整備に出してください。

【守らないと】

片ぎきになり、死亡事故や重大な傷害事故の原因になります

⚠ 注意**■ 取り外したカバー類は、必ず取り付ける**

整備・点検で取り外したカバー類は、必ず元通りに取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、傷害事故の原因になります。

■ クローラの摩耗を点検する

クローラが著しく摩耗していたり、キズがついていないか確認してください。

【守らないと】

横滑りや、転倒事故の原因になります。

4. 運転・移動をするとき**⚠ 警告****■ 坂道では駐車禁止**

坂道の途中では駐車しないでください。

【守らないと】

機械が動き出し、事故の原因になります。

■ 道路の端に、寄りすぎないように注意

走行時は、道路の端に寄りすぎないでください。

【守らないと】

路肩がくずれ、横倒しになって、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 溝や高いあぜを渡るときは、アユミ板を使用する

ほ場に入るとき、溝や高いあぜを渡るとき、軟弱な場所を通るときは、必ずアユミ板を使用してください。アユミ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。

【守らないと】

バランスがくずれて転倒し、傷害事故を引き起こす原因になります。

■ 寒冷時には必ず暖機運転を行う

寒冷時に運転する場合は、エンジンを始動してから暖機運転（15分）を必ず行ってください。

【守らないと】

主変速ワイヤー・駐車ブレーキワイヤーなどが凍結していると、誤動作する可能性があります。

■ 登り坂の途中では、副変速レバー操作禁止**【守らないと】**

後退して、思わぬ事故を引き起こす原因になります。

⚠ 警告

■ 傾斜地での斜め走行・旋回禁止

斜面を斜めに突っ切ったり、平行に走行すると、転倒や横滑りの原因になります。また、重なり合った木の葉や枝、鉄板や板の上も滑りやすいので注意してください。

【守らないと】

バランスがくずれて転倒し、傷害事故の原因になります。

■ ベーラ部にボールが入ったままでのあぜ越え、トラックへの積み・降ろし、移動走行、傾斜地作業、急旋回禁止

ベーラ部にボールが入った状態で「あぜ越え」「トラックへの積み・降ろし」や傾斜がある場所での作業および走行は絶対に行わないでください。

【守らないと】

転倒事故のおそれがあります。

⚠ 注意

■ 関係法規を守り、ヘルメットを必ず着用する

走行時は関係法規を守り、安全のためにヘルメットを着用してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故を引き起こす原因になります。

■ 周囲に合図し、ゆっくり発進する

発進するときは、周囲に合図をして、安全を確認しながらゆっくり発進してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 運転者以外の人を乗せない

走行中は、他の人を機械に乗せたり、周囲に近づけたりしないでください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故を引き起こす原因になります。

⚠ 注意

■ 道路走行するときは、旋回モード切替ノブを「標準モード」に切り替える

【守らないと】

「湿田モード」では、旋回時に自動減速しないため、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

■ 刈取作業のとき以外は、エコモードスイッチは「切」位置にする

【守らないと】

「入」位置にしたままでは、アクセルレバーでのエンジン回転調節ができないため、思わぬ事故の原因になります。

5. 運搬するとき

⚠ 警告

■ トラックへの積み・降ろしをするときは、長さ・強度・幅の十分あるアユミ板を使用する

アユミ板は、丈夫ですべり止めのある基準に合ったもので、トラックの荷台に設置したときに、傾斜角度が15度以下になる長さのものを使用してください。

【守らないと】

アユミ板が折れて転倒し、傷害事故を引き起こす原因になります。

■ トラックへの積み・降ろしをするときは、アユミ板の平行や安定を確認する

アユミ板を設置するときは、平行や安定を必ず確認してください。

【守らないと】

バランスがくずれて転倒し、傷害事故を引き起こす原因になります。



3037504

警告

■ 運搬をするときは、本機のエンジンを停止し、駐車ブレーキをかける

トラックに積み込んだら、本機のエンジンを停止し、駐車ブレーキを必ずかけてください。

【守らないと】

運搬中、荷台から機械が転落して、事故を引き起こす原因になります。

■ 機械をトラックに、ロープで確実に固定する

丈夫なロープを本機のロープフックに掛け、トラックと確実に固定してください。

【守らないと】

運搬中、荷台から機械が転落して、事故を引き起こす原因になります。

■ 積み・降ろしは、水平で安定した場所で行う

トラックなどへの積み・降ろしは、周囲に危険物が無く、水平で安定した場所で行ってください。

【守らないと】

転落・転倒事故をまねくおそれがあります。

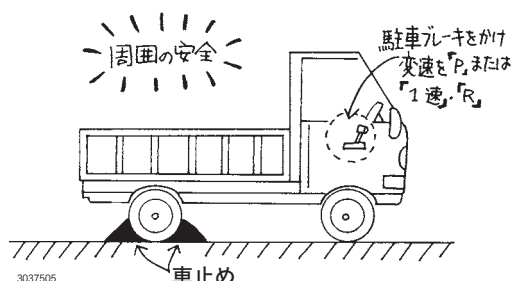
注意

■ 積み込むトラックには、必ず車止めをする

本機を積み込むトラックは、エンジンを停止し、変速を「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけて、タイヤに車止めをしてください。

【守らないと】

トラックが動いて、転落事故を引き起こすおそれがあります。



注意

■ アユミ板とトラックの継ぎ目を越えるときは、最低速にする

【守らないと】

急に重心が変わり、転落・転倒事故をまねくおそれがあります。

■ 積み・降ろし作業は、誘導者を付けて行う

トラックへの積み・降ろし作業は、補助者を付けて、周囲の安全を十分に確認しながら行ってください。また補助者は、機械の直前・直後には立たないでください。

【守らないと】

転落などの事故を引き起こすおそれがあります。

■ 傾斜した荷台やアユミ板の上では、進路変更禁止

【守らないと】

バランスがくずれて、転倒事故を起こすおそれがあります。

6. 作業をするとき

危険

■ 作業中は絶対に人を近づけない

作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。

警告

■ 作業前に、補助者と作業の段取りを打ち合わせる

補助者と組んで作業をするときは、作業の段取りを、補助者とよく打ち合わせしてください。ホーンなどで、お互いに合図を送り合い、作業をしてください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こす原因になります。

警告

■ 詰まり・巻付きを取り除くときは、エンジンを停止する

刈取部、ベアラ部の詰まり・巻付きを取り除くときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。

【守らないと】

回転するフレールカッター、スチールローラに巻き込まれてけがをしたり、本機が急に動きだして、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

■ 手刈りした作物などを刈取部に押し込まない

【守らないと】

回転するフレールカッターに巻き込まれ、重大な事故をまねくおそれがあります。

■ エンジンやマフラー、およびプーリー駆動部の周辺のごみを取り除く

作業中は、エンジンやマフラー、およびプーリー駆動部に付着している茎葉・ゴミ・燃料などを、時々取り除いてください。その場合、必ずエンジンを停止して行ってください。

【守らないと】

付着物が引火して、火災事故を引き起こし、ヤケドをするおそれがあります。

■ ゲートを開閉するときは、後方を確認する

ゲートを開閉するときは、後方に十分注意をし、人を近寄らせないでください。

【守らないと】

壁の間やゲートに挟まれ、けがをするおそれがあります。

■ ベールの排出は後方を確認し、平坦な場所で行う

ベールを排出するときは、後方に十分注意をはらい、人を近寄らせないで、平坦な場所で行ってください。

【守らないと】

ベールが転がり、巻き込まれてけがをするおそれがあります。

警告

■ 刈取部の下に入るときは、必ず下がらないように固定する。

刈取部は、必ず刈取部昇降ロックレバーを『閉』にするとともに、歯止めをし、下がらないように固定してください。

【守らないと】

刈取部の下敷きになり、重大な傷害事故をまねくおそれがあります。

■ 梱包部の中に入るときは、必ずゲートが下がらないように固定する。

ゲートは、必ずゲート開閉ロックレバーを『閉』にするとともに、歯止めをし、閉じないように固定してください。

【守らないと】

ゲートに挟まれて、重大な傷害事故をまねくおそれがあります。

注意

■ 畦畔を乗り越えるときは、最低速度で、畦畔に対して直角に渡る

畦畔を乗り越えるときは、斜めに渡らないでください。必ず、畦畔に対して直角に渡ってください。

【守らないと】

バランスをくずし、転倒などによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 夜間作業をするときは、作業灯を使用する

夜間作業をするときは、作業灯を点灯し周囲が確認できる状態で作業してください。

【守らないと】

周囲の状況がわかりにくく、思わぬトラブルを引き起こします。

7. 作業後の手入れ・格納をするとき

⚠ 警告

■ 作業終了後は、各部の掃除をする

作業が終わったら、必ず点検・整備を行い、各部の掃除をして、ゴミなどを完全に取り除いてください。その場合、必ずエンジンを停止して行ってください。

【守らないと】

火災の原因になります。

■ 平坦な場所に機械を保管する

機械は、平坦な場所に刈取部を接地させ、駐車ブレーキをかけて保管してください。

【守らないと】

機械が動き出し、思わぬ事故の原因になります。

■ エンジンが熱いときは、シートをかけない

エンジンが過熱している間は、絶対にシートをかけないでください。

【守らないと】

火災の原因になります。



■ 高い場所の整備や手入れを行う場合は、脚立などを使用する

【守らないと】

エンジンルームの上などは高温となっているためヤケドを負ったり、高いところから落ちてけがをするおそれがあります。

8. 点検・整備をするとき

⚠ 危険

■ ラジエータが熱いときは、ラジエータキャップを外さない

ラジエータが過熱しているときは、ラジエータキャップを絶対に外さないでください。

【守らないと】

熱湯が吹き出して、ヤケドをするおそれがあります。



■ バッテリ点検時は火気厳禁

液槽キャップを開けると、バッテリーの液槽口から爆発性のあるガスがでます。バッテリーを点検するときや液槽キャップを開けるときは、火気を近付けないでください。

【守らないと】

ガスに引火して、ヤケドや火災を引き起こすおそれがあります。



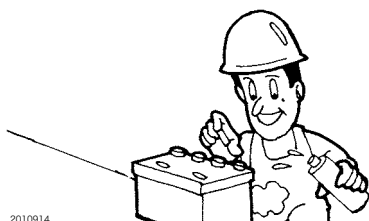
警告

■ バッテリー液を体や衣服に付けないように

バッテリー液を体や衣服に付けないように注意してください。万一、付着したときは、すぐに水で洗い流してください。また、目に入ったときや飲み込んだときは、すぐ水でよく洗った後、必ず医師の治療を受けてください。

【守らないと】

バッテリー液は希硫酸です。衣服が破れたり、失明やヤケドをします。



2010914

■ バッテリーの取り付け・取り外しは、正しい手順です

バッテリー端子は、取り付けるときは側を先に取り付け、取り外すときは側から取り外してください。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災の原因になります。



2010917

■ 必ず指定のバッテリーを使用する

バッテリーを交換するときは、必ず取扱説明書で指定された容量のバッテリーを使用してください。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災の原因になります。

■ 点検・整備を行うときは、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかける

点検・整備は、平坦な場所でエンジンを停止させ、刈取部昇降ロックを行い、駐車ブレーキをかけて、クローラに歯止めをしてから行ってください。

【守らないと】

機械が動き出し、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

警告

■ ブレーキの点検・整備は必ず行う

ブレーキのききが悪かったり、片ききになるとたいへん危険です。必ず点検・整備を行ってください。

【守らないと】

死亡や傷害事故、機械の破損を引き起こすおそれがあります。

■ ステアリングハンドルや操作レバー類は、必ず点検・整備をする

ステアリングハンドルや各操作レバー類に、著しいガタや遊びがないか点検し、ある場合は必要な処置をしてください。

【守らないと】

正常な走行ができず、死亡や傷害事故、機械の破損を引き起こすおそれがあります。

■ ステアリングハンドルのきき具合を、必ず点検・整備する

ステアリングハンドルの切角と旋回半径（きき具合）が同じか点検し、違う場合は、点検・整備に出してください。

【守らないと】

片ききになり、死亡事故や重大な傷害事故の原因になります。

■ 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは、厚紙や板などを使って点検する。

高圧噴油に直接、手や体が触れないようにしてください。もし、触れた場合は、直ちに医者への診断を受けてください。

【守らないと】

油が皮膚に浸入した場合、数時間以内に取り除かないと壊疽（えそ）にかかるおそれがあります。

警告

■ 刈取部を上げて点検・整備するときは、必ず下がらないように固定する

刈取部は、必ず刈取部昇降ロックレバーを『閉』にするとともに、歯止めをし、下がらないように固定してください。

【守らないと】

下敷きになり、重大な傷害事故をまねくおそれがあります。

■ ゲートを開けて点検・整備するときは、必ずゲートが下がらないように固定する

ゲートは、必ずゲート開閉ロックレバーを『閉』にするとともに、歯止めをし、閉じないように固定してください。

【守らないと】

ゲートに挟まれて、重大な傷害事故をまねくおそれがあります。

注意

■ 取り外したカバー類は、必ず取り付ける

点検・整備で取り外したカバー類は、必ず元通りに取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、回転部にふれてケガをする原因になります。

■ クローラの摩耗やキズを点検する

クローラが著しく摩耗していたり、キズが付いていないか点検し、ある場合は新しいクローラと交換してください。

【守らないと】

横滑りや、転倒事故の原因になります。

■ ネット巻付装置を点検・調整するときは、ネットフレーム内には手を入れないでください。

【守らないと】

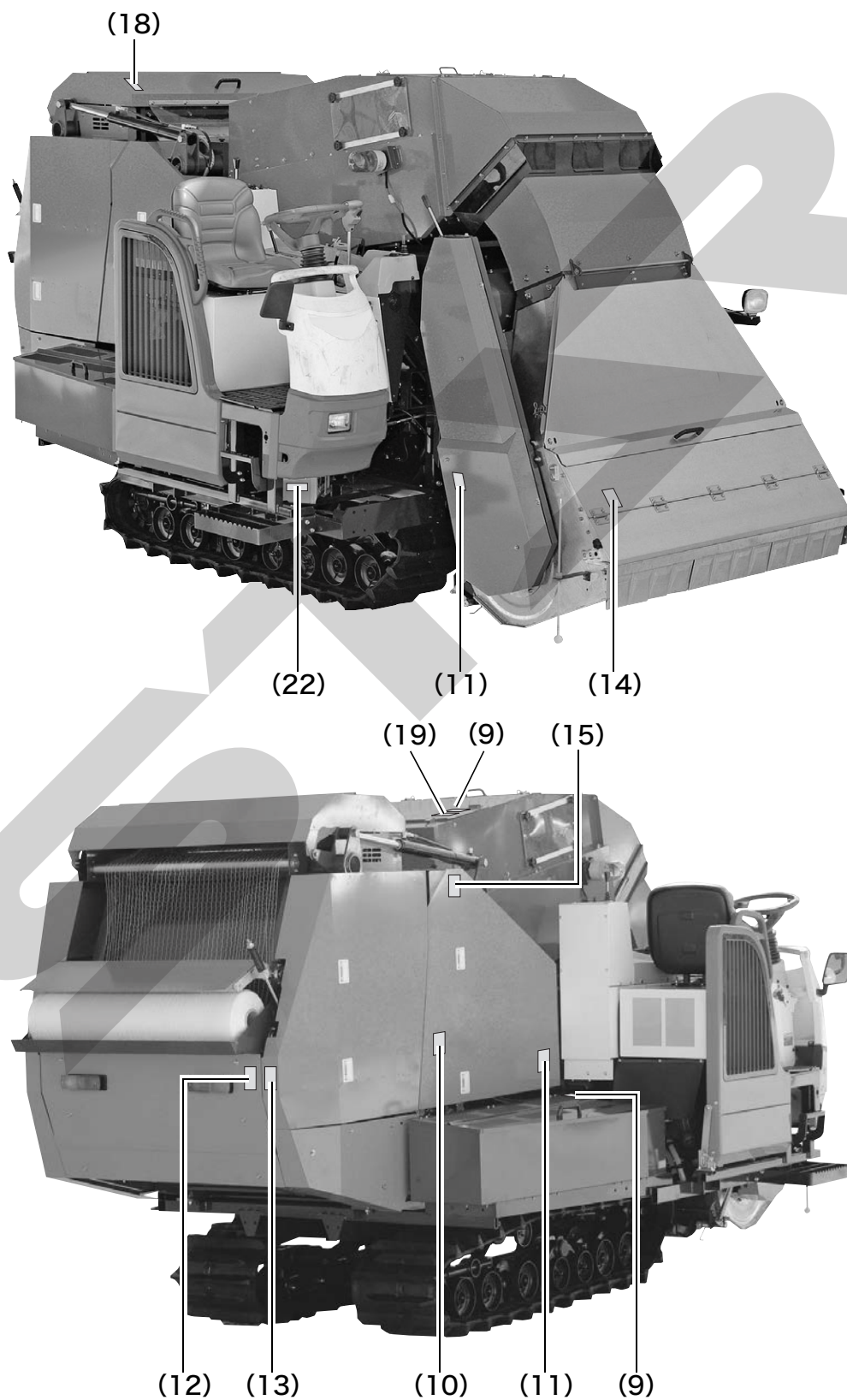
ナイフが動き出し、ケガをするおそれがあります。

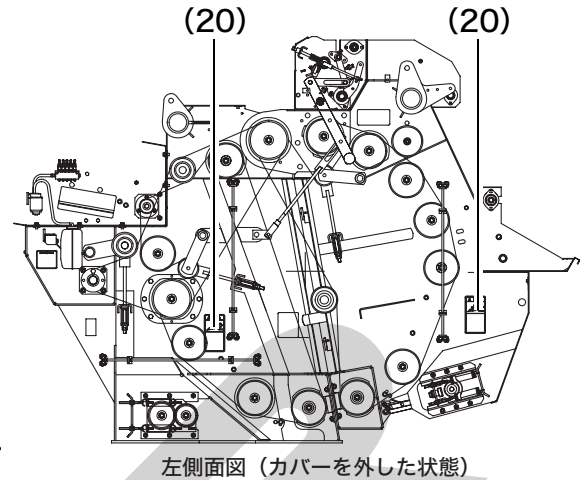
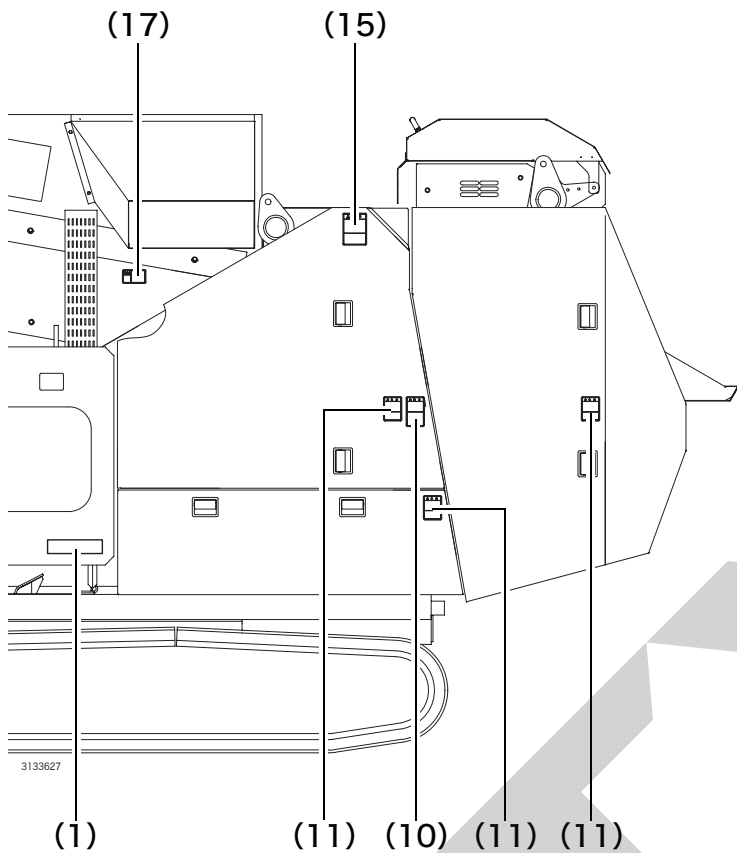
9. 安全銘板の貼り付け位置

安全に作業していただくために安全銘板の貼り位置を示したものです。

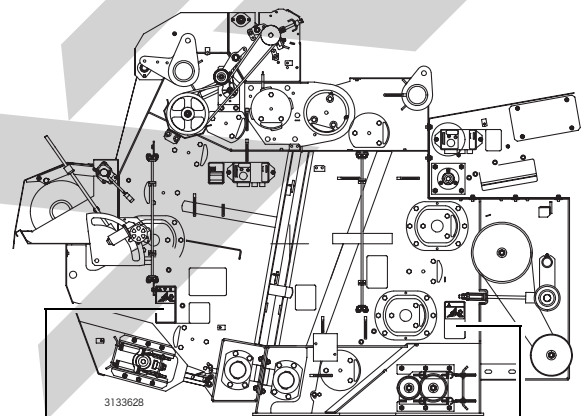
安全銘板は、作業を始める前に必ず読んで、安全に作業を行っていただくための事項が記載されています。

常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。

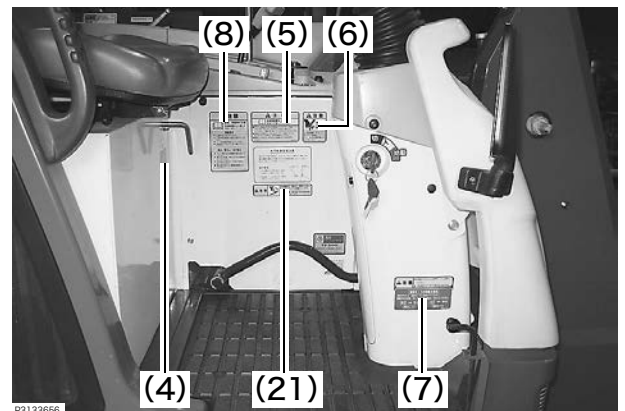
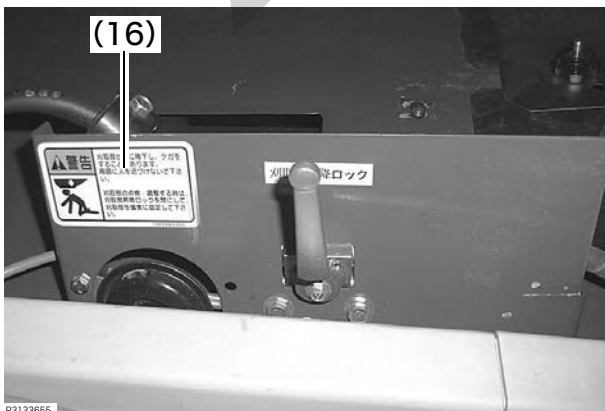
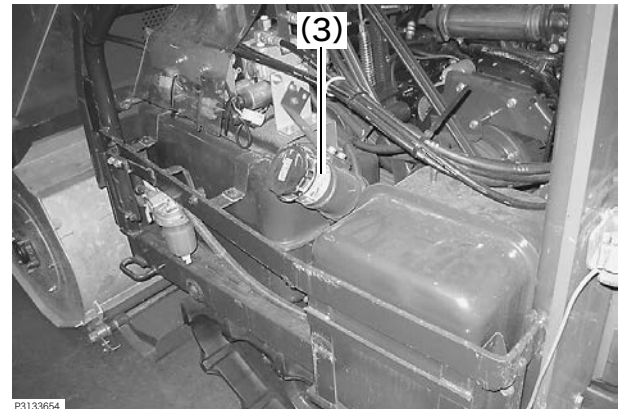
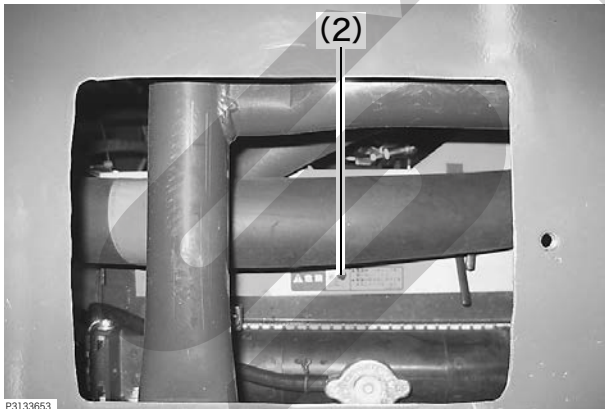




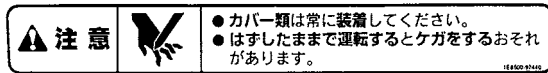
左側面図（カバーを外した状態）



右側面図（カバーを外した状態）



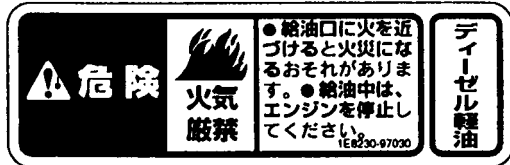
(1) 1E8500-97440 注意(ベルトカバー)



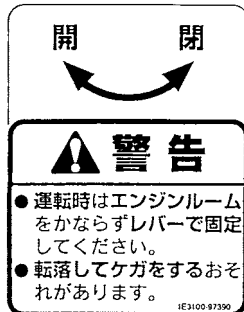
(2) 1E8500-97220 危険(ラジエータ)



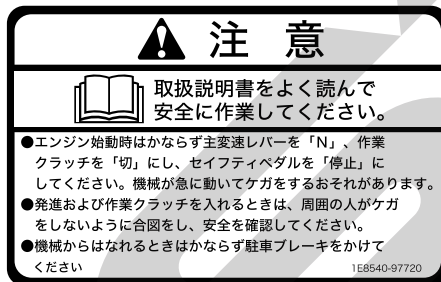
(3) 1E8230-97030 危険(火気厳禁B)



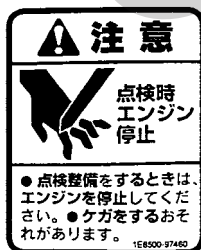
(4) 1E3100-97390 警告(カバーオープン)



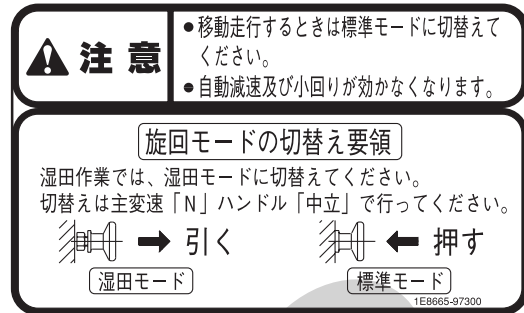
(5) 1E8540-97720 注意(取扱S)



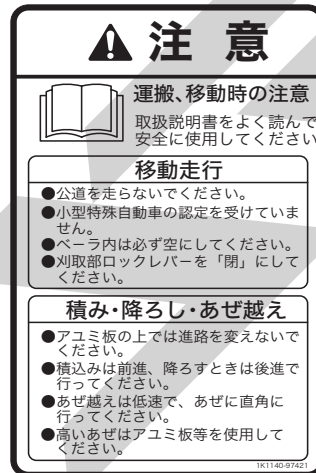
(6) 1E8500-97460 注意(エンジン停止)



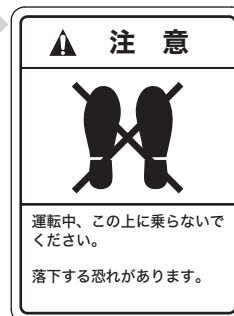
(7) 1E8665-97300 注意(旋回モード)



(8) 1K1140-97421 注意(運搬、移動)



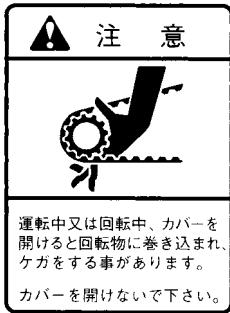
(9) 1K1190-40010 ラベル;警告185



(10) 1K1140-40020 ラベル;警告71



(11) 1K1140-40030 ラベル;警告84



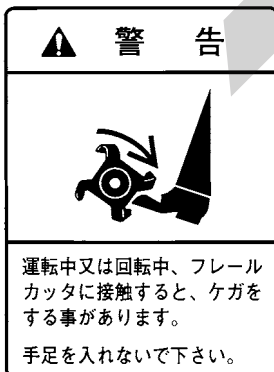
(12) 1K1140-40060 ラベル;警告105



(13) 1K1140-40040 ラベル;警告75



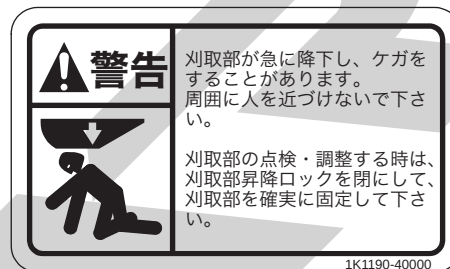
(14) 1K1140-40000 ラベル;警告68



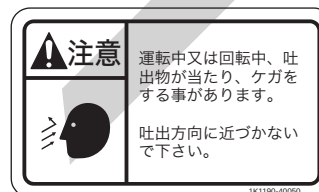
(15) 1K1190-40040 ラベル;警告36



(16) 1K1190-40000 ラベル;警告184



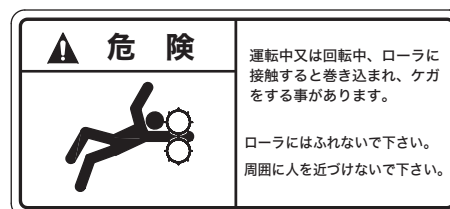
(17) 1K1190-40050 ラベル;警告94



(18) 1K1190-40060 ラベル;警告173



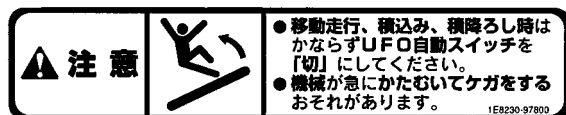
(19) 1K1190-40070 ラベル;警告174



(20) 1K1190-40080 ラベル;警告182



(21) 1E8230-97800 注意(UFO)



(22) 1C6780-95950 危険(バッテリー)



10.安全銘板の手入れについて

- 安全銘板は、いつもきれいにして、傷つけないようにしてください。安全銘板が汚れているときは、石鹼水を付けた布で拭き、やわらかい布で水分を拭き取ってください。
- 高圧洗浄機の高圧水を、安全銘板に当てないでください。剥がれるおそれがあります。
- 安全銘板を破損や紛失したときは、新しい安全銘板を元の位置に貼ってください。安全銘板は、お買い上げの特販店・JAに注文してください。

2章 保証とサービスについて

保証書は大切に保管してください

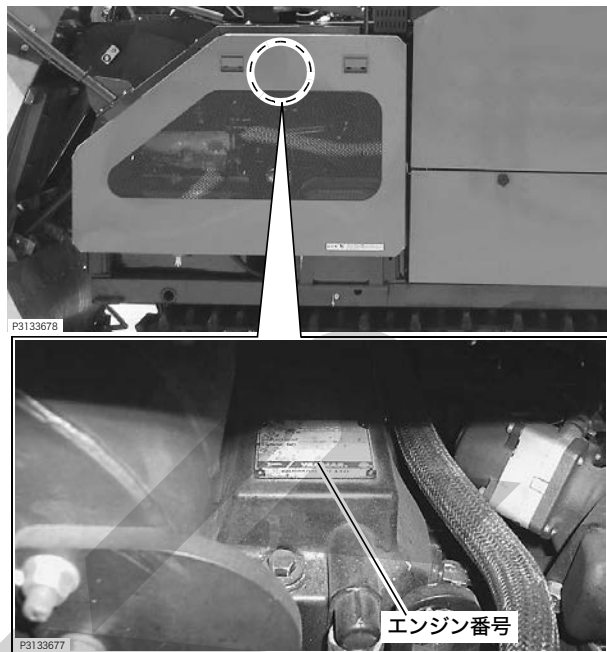
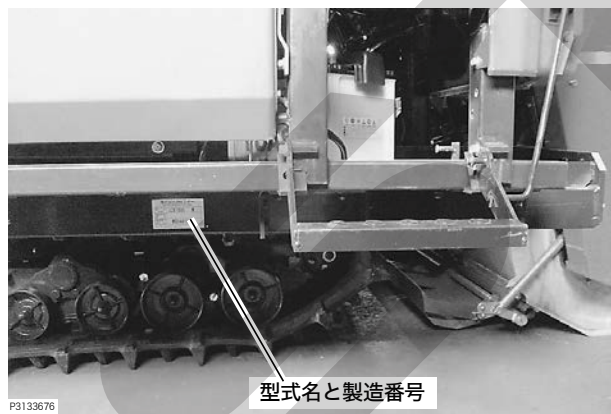
「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

機械の調子が悪いときに111ページの「11章 不調診断のしかた」に従って、点検・処置しても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた特販店・JA までご連絡ください。

《連絡していただきたい内容》

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジン番号
- ご使用状況は？
(何速で、どんな作業をしていたときに)
- どのくらい使用されましたか？
(約□□アールまたは約□□時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えてください。



《補修部品の供給年限について》

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

《メーカー純正部品・オイルについて》

純正部品・純正オイルは、厳密なテストを重ねきびしい品質検査に合格したもので、安心して使用していただけます。

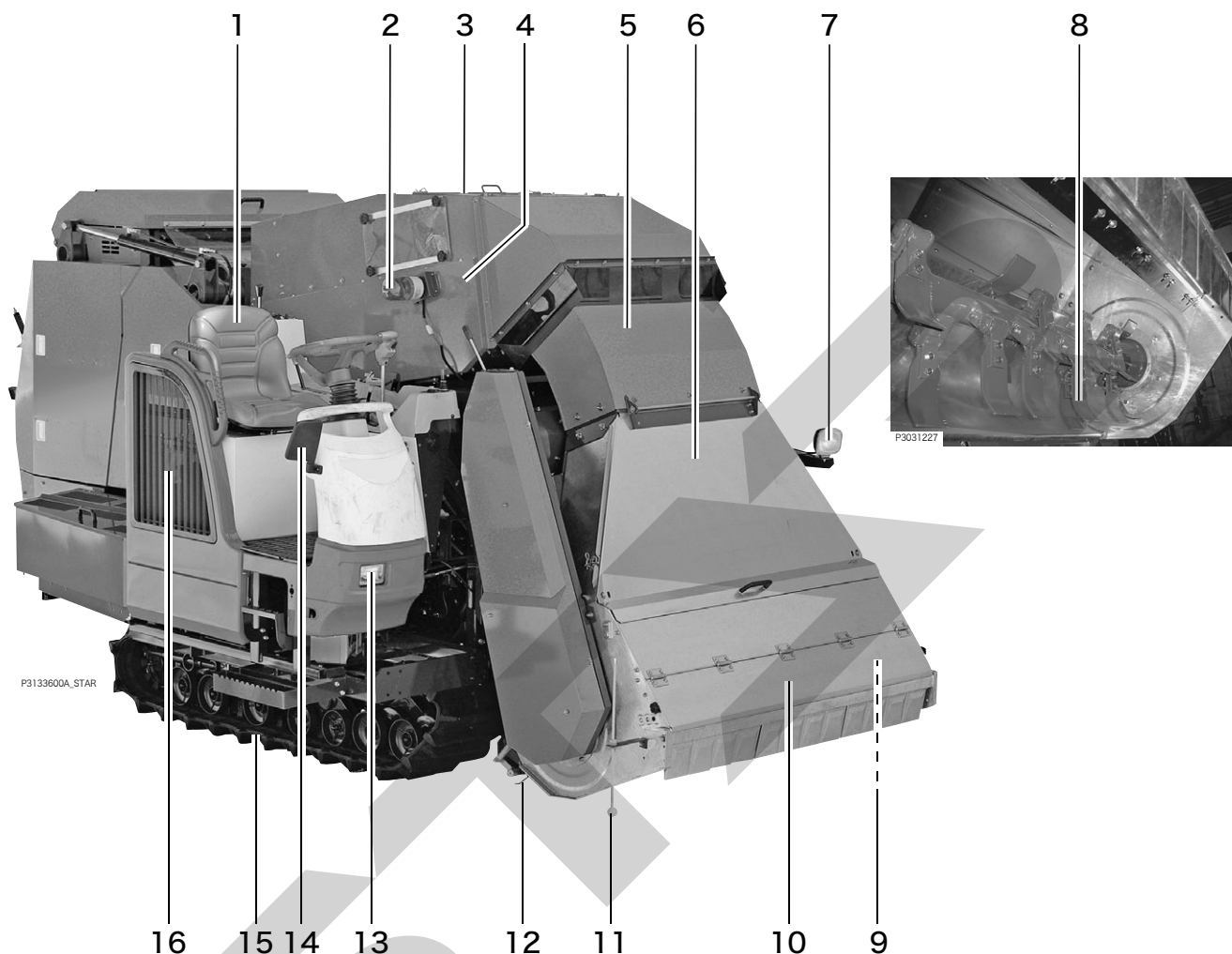
メーカー指定以外の使用による不具合は、保証の対象から除外されます。

部品・オイルを交換する場合には、必ず純正部品・純正オイルとご指定ください。

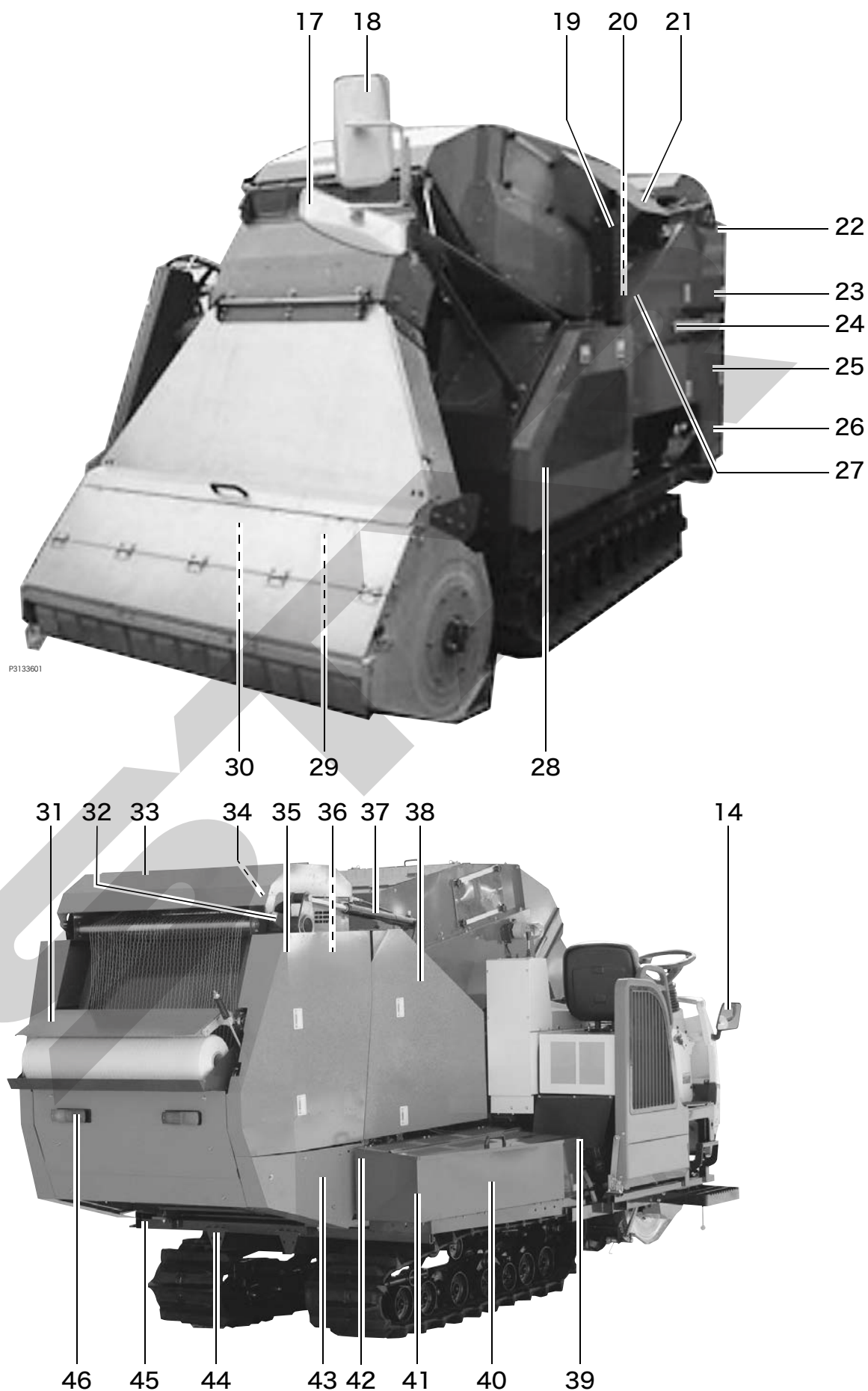


3章 各部のなまえ

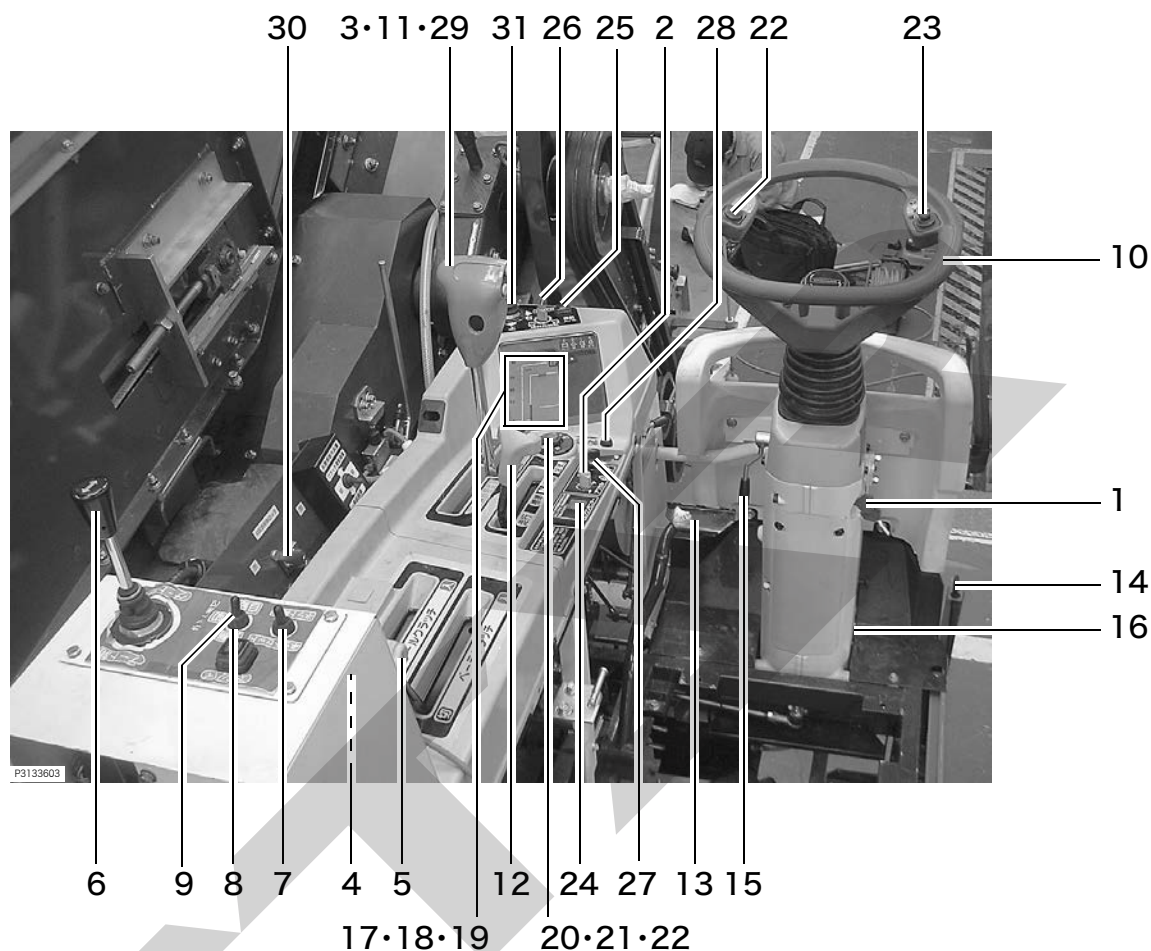
1. 外観



- | | | |
|---------------|----------------|----------------|
| 1 ドライバーシート | 17 サイドアンダーミラー | 33 ネットバインディング |
| 2 バトライト | 18 サイドミラーL | 34 ネット繰出しゴムローラ |
| 3 コンベア掃除口 | 19 マフラ | 35 ゲートカバーR |
| 4 搬送コンベア | 20 自動注油ポンプ・タンク | 36 スチールローラ |
| 5 シュート | 21 排気ダクト | 37 ゲート開閉シリンダ |
| 6 刈取掃除口カバー | 22 ネット巻数切替レバー | 38 フロントカバーR |
| 7 ヘッドライトL | 23 ゲートカバーL | 39 エアクリーナ |
| 8 フレールカッター | 24 シャーボルト | 40 ネットボックス |
| 9 受刃 | 25 フロントカバーL Lo | 41 フロント側成形ベルト |
| 10 受刃カバー | 26 成形ベルトテンション | 42 油圧パッケージ |
| 11 マーカー | 27 フロントカバーL | 43 ゲートカバーR Lo |
| 12 センサソリ | 28 燃料給油口 | 44 ベールイジェクタ |
| 13 ヘッドライトR | 29 刈取下げストッパ | 45 ゲート側成形ベルト |
| 14 サイドミラーR | 30 刈取昇降シリンダ | 46 ウインカ |
| 15 クローラ | 31 ネットケーシング | |
| 16 エンジンルームカバー | 32 リアミラー | |



2. 運転操作部



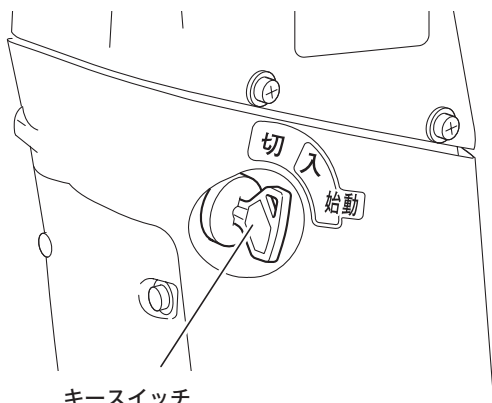
- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1 キースイッチ | 17 回転計 |
| 2 アクセルレバー | 18 アワメータ |
| 3 刈高さ調節レバー | 19 燃料計 |
| 4 フレールクラッチレバー | 20 ウィンカスイッチ |
| 5 ベーラクラッチレバー | 21 ライトスイッチ |
| 6 ゲート開閉レバー | 22 ホーンスイッチ |
| 7 ネットセットスイッチ | 23 フィットステアリング |
| 8 ネットスタンバイスイッチ | 24 モニターランプ |
| 9 ネット繰出しスイッチ | 25 UFO自動スイッチ |
| 10 ステアリングハンドル | 26 傾斜角調節ダイヤル |
| 11 主変速レバー | 27 エコモード切替スイッチ |
| 12 副変速レバー | 28 ブザー停止スイッチ |
| 13 セフティペダル | 29 刈取オートセット・リフトスイッチ |
| 14 駐車ブレーキロックレバー | 30 刈取部昇降ロックレバー |
| 15 チルトレバー | 31 車高調節レバー |
| 16 旋回モード切替ノブ | |

4章 各操作部のはたらき

エンジンコントロール関係

(1) キースイッチ

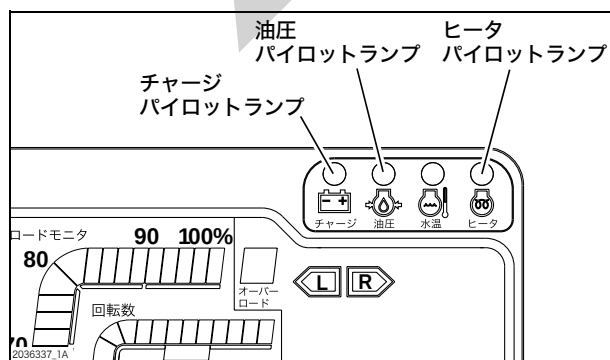
エンジンの始動・停止に使用します。



- 「切」位置……エンジン停止時に使用する。
(電流は流れず、キーを抜き取れる)
- 「入」位置……各電装スイッチに電流が流れる。
エンジンが停止している場合は、液晶コンビネーションメータの油圧パイロットランプとチャージパイロットランプが点灯する。
- 「始動」位置……セルモータが回転し、エンジンが始動する。
エンジンが始動したら、キーから手を離す。キーは自動的に「入」位置に戻り、連続運転に入る。

[参考]

- キースイッチを「入」位置にしてから、15秒間はエアヒータが働き、エンジン始動を容易にします。
(エアヒータが働いているときは、液晶コンビネーションメータのヒータパイロットランプが点灯します。)



(2) アクセルダイヤル

エンジン回転の上げ下げに使用します。



- 右へ回す……エンジンの回転が上がる
- 左へ回す……エンジンの回転が下がる

(3) エンジンモニター

エンジン関係のセンサやコントローラに異常が発生したときに、エンジンモニターの点滅回数により、異常を知らせます。



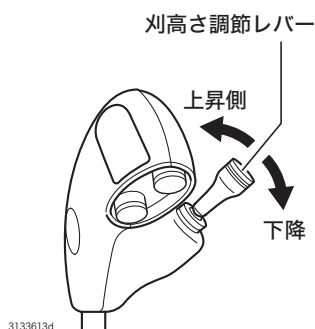
通常（正常時）はキースイッチを「始動」位置にした後、2秒間ランプが点灯してから消灯します。（ランプ切れの確認に利用できます。）

異常が発生した場合は、ランプの点滅回数で異常内容を知らせます。詳細は「エンジンコントローラ自己診断について」（117ページ参照）を参照してください。

作業関係

(1) 刈高さ調節レバー

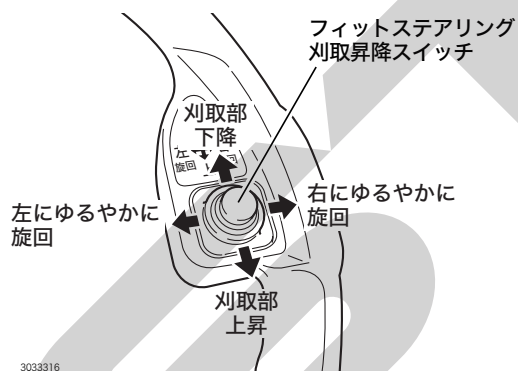
刈取部の上昇・下降に使用します。



- 「上昇」側……刈取部が上がる
- 「下降」側……刈取部が下がる

(2) フィットステアリング刈取昇降スイッチ

ハンドルを握ったままで、刈取部の上昇・下降、および刈取作業時の条合わせなど、ゆるやかに旋回したいときに使用します。



刈取部昇降機能

- 「下」側……刈取部が下降する
- 「上」側……刈取部が上昇する

フィットステアリング機能

- 「右」側……右にゆるやかに旋回する
- 「左」側……左にゆるやかに旋回する

【重要】

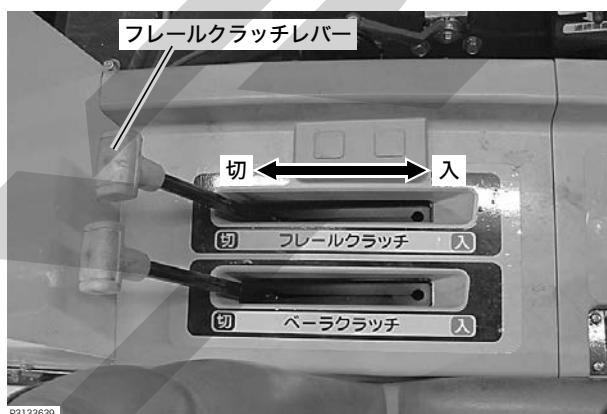
- 主変速レバー部の刈高さ調節レバーとマルチハンドル部のフィットステアリング・刈取昇降スイッチを同時に使用したときには、刈取部の上昇・下降が止まります。

【参考】

- フィットステアリング機能では、急旋回しません。
- 刈取部が駆動しているときにのみ、フィットステアリング機能は作動します。
- マルチハンドル操作と同時に、フィットステアリング機能を使用すると、マルチハンドルの操作が優先されます。

(3) フレールクラッチレバー

刈取部の作動・停止に使用します。



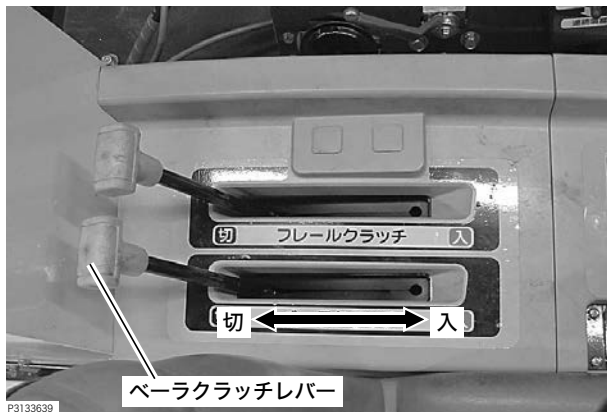
- 「入」位置……刈取部が作動する
- 「切」位置……刈取部が停止する

【参考】

- ペーラクラッチレバー・フレールクラッチレバーが「切」位置のとき、フレールクラッチレバーを「入」位置にすると、ペーラクラッチレバーも連動して、「入」位置になります。

(4) ベーラクラッチレバー

ベーラ部の作動・停止に使用します。



- 「入」位置……ベーラ部が作動する
- 「切」位置……ベーラ部が停止する

【参考】

- ベーラクラッチレバー・フリーククラッチレバーが「入」位置のとき、ベーラクラッチレバーを「切」位置にすると、フリーククラッチレバーも連動して「切」位置になります。

(5) ゲート開閉レバー

ベーラのゲート開閉に使用します。



- 「開」側……ゲートが開く
- 「閉」側……ゲートが閉じる

【重要】

- ゲートの開閉に連動して、ベーラ部駆動チェンへ自動で注油する機構になっていますので、ベーラクラッチレバー「切」状態でのゲート開閉は少なくしてください。注油過剰になります。

(6) ネット繰り出しスイッチ

ネットの繰り出し方を切替えて、ベールの結束方法を選べます。



- 「強制」側…ネットを任意に繰り出し、ベールを結束する
スイッチを倒すと数秒間、繰り出しを行う
スイッチから手を離すと自動的に「切」位置に戻る
- 「切」側……ネットの繰り出しをしない
- 「自動」側…ベーラ部が満量になったとき、自動的にネットを繰り出し、ベールを結束する

【参考】

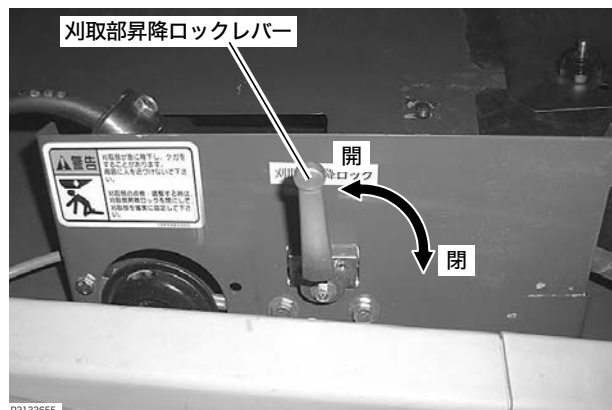
- 「強制」位置にしたとき、パトランプが数秒間点灯します。(ブザーは鳴りません)
- 「自動」「切」位置で作業し、ベーラ部が満量になったときは、ブザーが漸続して鳴り、同時にパトライトが点灯します。

【重要】

- ベールクラッチレバーが「切」位置（ベーラ駆動チェンが停止）のときや刈取量が少なくベールが回転していないときは、結束されません。

(7) 刈取部昇降ロックレバー

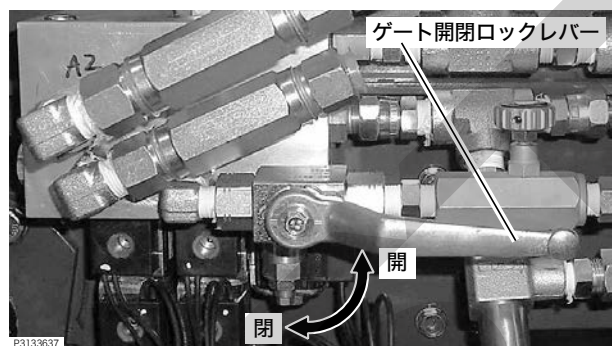
刈取部の上昇・下降の動きを固定します。



- 「開」側……刈取部が上昇・下降できる
- 「閉」側……刈取部の上昇・下降の動きを固定する

(8) ゲート開閉ロックレバー

ゲートの開閉の動きを固定します。



- 「開」側……ゲートの開閉ができる
- 「閉」側……ゲートの開閉の動きを固定する

(9) ネットセットスイッチ

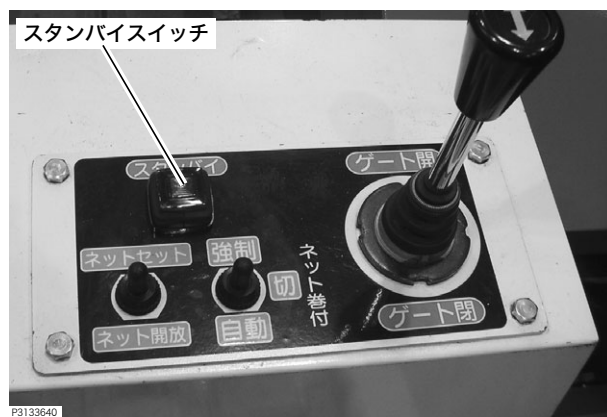


- 「ネットセット」側……ネットブレーキがセットされる
- 「ネット開放」側……ネットブレーキが開放される

(10) スタンバイスイッチ

ベアラ作業部の制御をスタンバイするスイッチです。

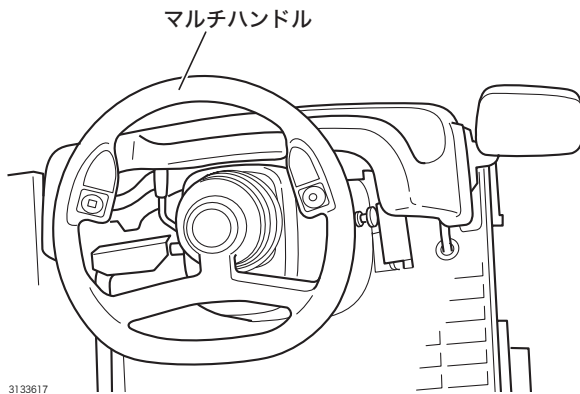
作業はじめ（エンジン始動後）にベアラクラッチレバーを「入」位置にして、スタンバイスイッチを押してスタンバイスイッチが緑色に点灯したのを確認してから、刈取（拾上げ）作業をはじめてください。



走行関係

(1) マルチハンドル

機体を旋回させるときに使用します。

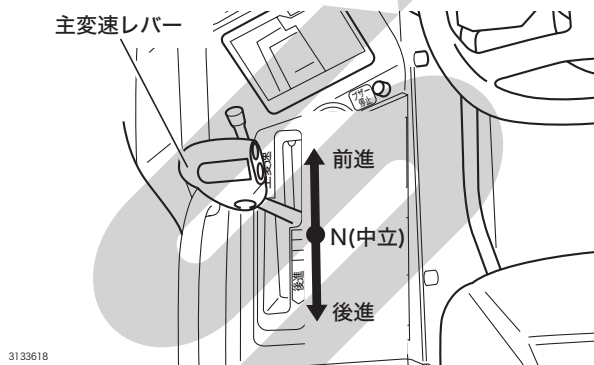


マルチハンドルを右へ回すと機体が右へ旋回し、左へ回すと左へ旋回します。

さらにマルチハンドルを右または左へ回すと、左右のクローラが逆転し、旋回半径が小さくなります。

(2) 主変速レバー (HST)

前進・後進の進行方向と走行速度の調節、および走行の停止に使用します。



- 「前進」側……機体が前進する
- 「後進」側……機体が後進する
- 「N」(中立) 位置……機体が停止する

走行速度は、レバーの操作量によって無段階に選べます。

【重要】

- セフティペダルを踏み込むと、主変速レバーは「N」(中立) に戻り、主変速レバーの操作はできません。

(3) 副変速レバー

使用目的や条件により、「低速」「標準」「走行」の3段階の走行速度が選べます。



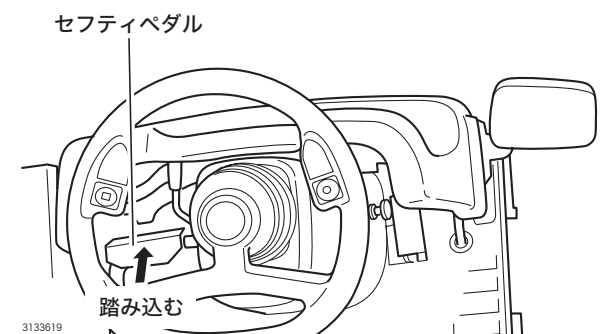
- 「低速」位置……半倒伏や悪条件作物
トラックへの積み、降ろし
ほ場の出入り
- 「N」(中立) 位置……走行しない
- 「標準」位置……標準的な作物
- 「走行」位置……移動走行

【重要】

- 主変速レバーを、必ず「N」(中立) 位置にして、機体を完全に停止してから変速してください。
- セフティペダルを踏み込まない方が、スムーズに変速できます。
- 坂道では変速しないでください。

(4) セフティペダル

エンジン始動時、および走行中の緊急停止時に使用します。



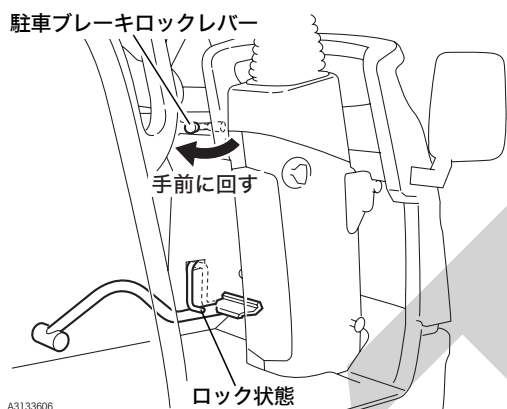
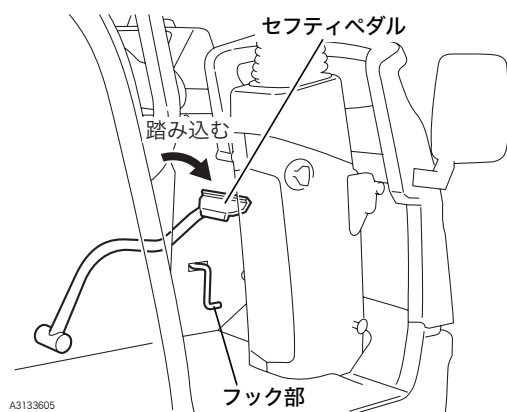
セフティペダルを踏み込むと、主変速レバーが「N」(中立) 位置に戻り、本機が停止し、ブレーキがかかります。

【参考】

- 通常の走行停止は、主変速レバーを「N」(中立) 位置にして行ってください。

(5) 駐車ブレーキロックレバー

ドライバーシートに座って、駐車ブレーキをかけるときに使用します。



セフティペダルをいっばいに踏み込んで、駐車ブレーキロックレバーを手前に回して、セフティペダルにフック部をかけると、駐車ブレーキがかかります。

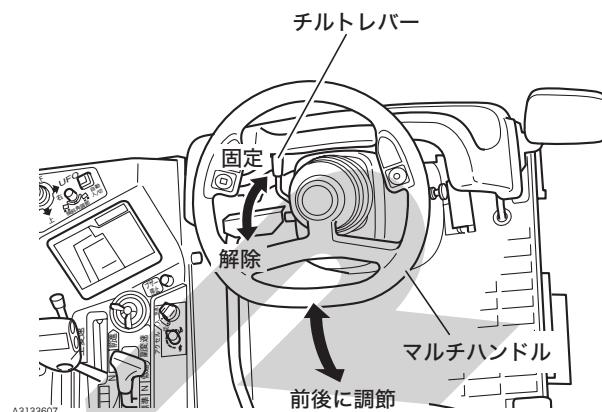
解除するときは、セフティペダルをいっばいまで踏み込むと、駐車ブレーキロックレバーが前方に戻り、フックが外れ解除できます。

【参考】

- 駐車ブレーキをかけると、主変速レバーは「N」（中立）位置に戻ります。

(6) チルトレバー

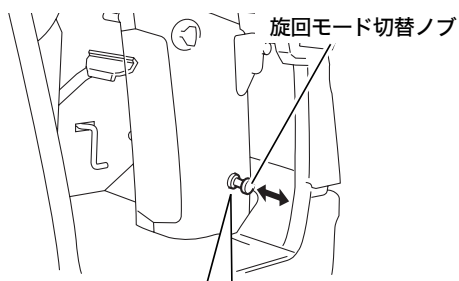
マルチハンドルの前後の角度を調節するときに使用します。



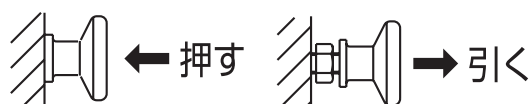
- 「解除」位置……マルチハンドルの固定が解除される
- 「固定」位置……マルチハンドルが固定される
調節後は確実に固定してください

(7) 旋回モード切替ノブ

旋回モードを切り替えるときに使用します。



A3133608



標準モード

湿田モード

※出荷状態は、「標準モード」です。

旋回モード切替ノブは、主変速レバーを「N」(中立)位置、マルチハンドルを「中立」にして操作してください。

- ノブを押し込む…標準モード(スピントーンする)
- ノブを引き出す…湿田モード(スピントーンしない)

【参考】

- 「標準モード」では、旋回時に自動減速が働いて、小回りできますが、「湿田モード」では、自動減速せずに大回りになります。
移動走行するときは、「標準モード」にしてください。
- 乾田作業・移動走行では、「標準モード」を使用してください。湿田作業をする場合は、「標準モード」でも十分に作業は可能ですが機体の沈下が著しい場合には、「湿田モード」に切り替えると、さらに湿田性能が向上します。

	標準モード	湿田モード
旋回時の车速	減速する	減速しない
副変速「標準」での旋回	スピントーンする (小回り)	スピントーンしない (大回り)
乾いたほ場での旋回	◎	○
ぬかるみでの旋回	○ ※ハンドルを切りすぎない	◎ (旋回力大)
牧草地での旋回 ※牧草の再生に影響があるので、ハンドルを切りすぎない	○	◎
移動走行性能	◎	×(使用不可)
車庫入れ性能	◎	×(使用不可)

電装関係

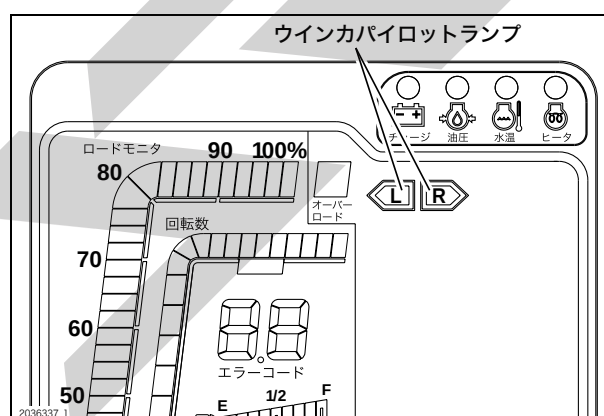
(1) ウインカスイッチ

旋回方向を指示するときに使用します。



ウインカスイッチ

A3033604c

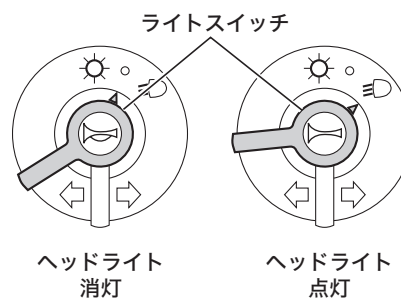


ウインカパイロットランプ

キースイッチを「入」位置にして、旋回する側の矢印方向にスイッチを回すと、方向指示器が点滅します。同時に液晶コンビネーションメータのウインカパイロットランプも点滅します。

(2) ライトスイッチ

ヘッドライトを照射させるときに使用します。

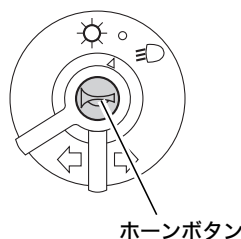
ヘッドライト
消灯ヘッドライト
点灯

A3033604b

キースイッチを「入」位置にして、ライトスイッチを右(点灯)側に回すと、ヘッドライトが照射し、左(消灯)側に回すと消灯します。

(3) ホーンボタン

ホーン（警笛）を鳴らすときに使用します。

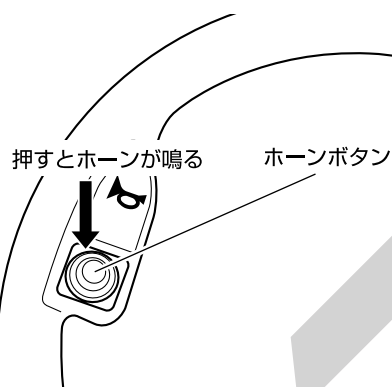


A3033604a

キースイッチを「入」位置にして、ホーンボタンを押すと、ホーンがなります。

●マルチハンドル部

ホーン（警笛）を鳴らすときに使用します。

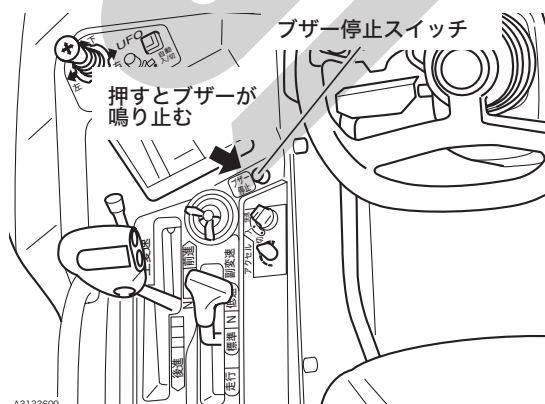


3033329

キースイッチを「入」位置にして、ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

(4) ブザー停止スイッチ

警報ブザーを停止するときに使用します。



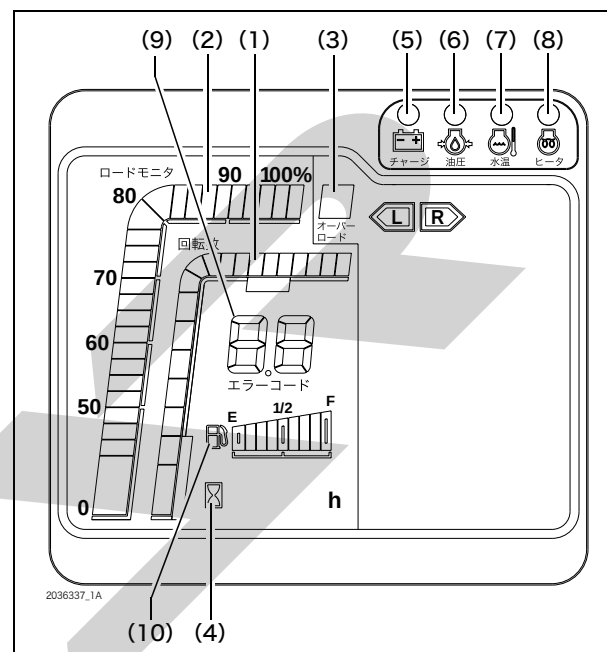
A3133609

次の警報の場合は、ブザー停止スイッチを押すとブザーが鳴り止みます。

- エンジン系統（チャージ・油圧・水温）
- 燃料残量

液晶コンビネーションメータ

運転中の各部の状態や、異常があった場合の警報装置で、異常個所を液晶グラフィックモニターとブザーで知らせます。



- キースイッチを「切」位置にすると、表示をリセットできます。
- キースイッチが「入」位置のときに、水温パイロットランプ以外の全てのランプが数秒間点灯します。ランプ切れのチェックが行えます。

(1) 回転計

エンジン回転数を表示します。

(2) ロードモニター

エンジンの負荷を表します。

(3) オーバーロードモニター

エンジン負荷が過負荷になったときに、黄色のモニターが点滅し、ブザーが断続音で鳴ります。

(4) アワメータ

エンジンの使用時間を表示します。（エンジンを始動すると、カウントを始めます。）

(5) チャージパイロットランプ

エンジン回転中にバッテリーに充電しなくなったときに、赤ランプが点灯し、ブザーが連続で鳴ります。

(6) 油圧パイロットランプ

エンジン潤滑油の油圧が低下したときに、赤ランプが点灯し、ブザーが連続で鳴ります。

(7) 水温パイロットランプ

エンジンの冷却水温が異常に上がったときに、赤ランプが点灯し、ブザーが連続で鳴ります。

(8) ヒータパイロットランプ

グロー作動時に点灯します。

(9) エラーコードモニター

センサやコントローラに異常が生じたときに、「エラーコード」の文字が点滅し、エラーコード表示部にエラーコードを表示します。

(エラーコード表示部にエラーコードを表示させるときは、ブザー停止ボタンを5秒間押してください。)

(10) 燃料残量モニター

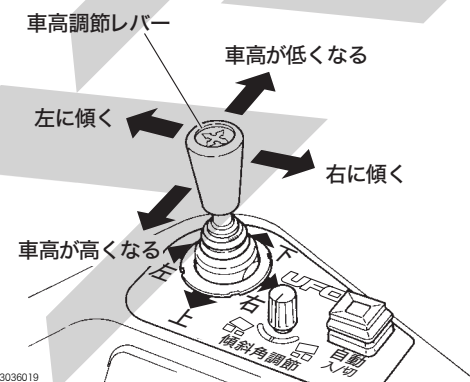
燃料の残量を表示します。また、燃料の残量が少なくなったときに、マークが点滅し、ブザーが断続音で鳴ります。ブザー停止ボタンを押すと、ブザーが鳴り止みます。マークは点滅したままです。

自動化装置〈機体水平制御(UFO)装置〉**⚠ 注意**

- 路上や傾斜地の走行、および積み・降ろしをするときは、車高調節レバーで車高を最も低い位置にセットし、必ずUFO自動スイッチを「切」(ランプ消灯)にしてください。機械が急に傾き転倒し、ケガをするおそれがあります。

(1) 車高調節レバー

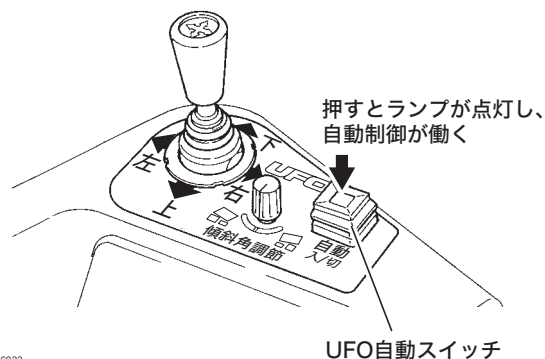
手で車高を調節するときに使用します。



- 前方に倒す……車高が低くなる
- 後方に倒す……車高が高くなる
- 左に倒す……車体が左に傾く
- 右に倒す……車体が右に傾く

(2) UFO自動スイッチ

車体の水平を自動制御するときに使用します。

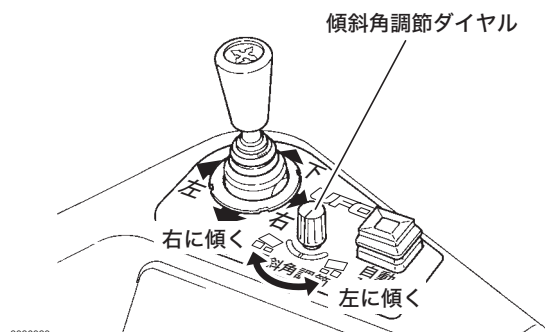


車体水平制御装置は、ベアラクラッチレバーが「入」位置のときに作動します。

- 「入」(ランプ点灯) ……車体水平制御が働く
- 「切」(ランプ消灯) ……車体水平制御が切れる

(3) 傾斜角調節ダイヤル

車体の角度を一定に保ちたいときに使用します。

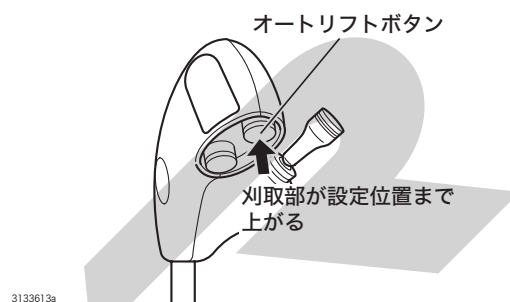


- 中央位置 …………… 車体が水平になる
- 右方向に回す…… 車体が右に傾く
- 左方向に回す…… 車体が左に傾く

刈取オートリフト・刈取オートセット装置

(1) オートリフトボタン

刈取部を、設定している高さに上昇するときに使用します。



フールクラッチレバーが「入」位置のときに、オートリフトボタンを押すと、刈取部が設定位置まで上昇します。

(2) オートセットボタン

刈取部を、設定している刈高さに下降するときに使用します。

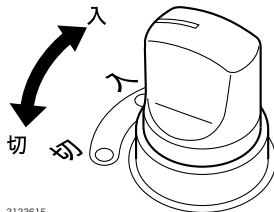


刈取クラッチレバーが「入」位置のときに、オートセットボタンを押すと、刈取部が設定位置まで下降します。

自動定回転制御装置

エンジン回転を自動的に制御したいときに使用します。

エコモード切替スイッチ



3133615

「切」位置……アクセルダイヤルでエンジン回転を調節できる

「入」位置……ベークラッチレバーが「入」位置のとき、自動的にエンジン回転が液晶コンビネーションメータの回転計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置になる。ベークラッチレバーを「切」位置にすると、自動的にエンジン回転が「低回転（アイドリング）」になる

【参考】

- エコモード「入」位置のときは、アクセルダイヤルでのエンジン回転の調節はできません。

刈取バックアップ装置

ベークラッチレバー「入」位置のとき、主変速レバーを後進位置にすると、刈取部が自動で上昇します。

【重要】

- ベークラッチレバー「切」位置で後進するとき、センサーソリが土を引っ掛けないように、必ず刈取部を上げてから行ってください。
- 刈取バックアップが作動中に刈高さ調節レバーを操作すると、調節レバーでの操作（手動操作）が優先されます。

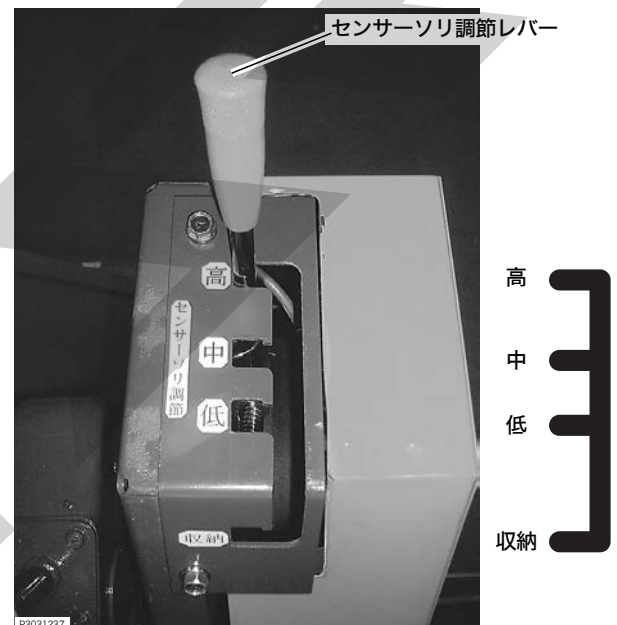
OKリフト

センサーソリ調節レバーで設定された刈高さ以下になったとき、自動的に刈取部を上昇させます。ベークラッチレバーが「入」位置のときに作動します。

センサーソリ調節レバー

OKリフトが働く高さを調節するときに使用します。3段階に調節できます。

- 「収納」位置ではOKリフトが解除になります。



P3031237

【参考】

- センサーソリ調節レバーが「収納」位置のときは、刈高さ調節レバーで調節してください。
- センサーソリ調節レバーを操作するときは、刈取部を地面に接地させた状態で行うと、軽く操作できます。

【重要】

- OKリフトは、上昇のみ作動します。下降は刈高さ調節レバーで下げてください。
- ほ場が柔らかく OK リフトが働きにくいような場合は、センサーソリ調節レバーを希望の刈高さより高い設定、または「収納」位置にし、刈高さ調節レバーで調節してください。

警報装置

(1) ベーラ満量警報

ネット繰出しスイッチ「自動」「切」位置のとき、ベーラ内が満量になると、ブザーの断続音と連動して、パトライトが点灯し、作業補助者などに知らせます。

ゲートを開けて、ベールを放出後、ゲートを閉じるとパトライトが消灯します。

パトライトはマグネット式で自由に設置できます。

【参考】

- ネット繰出しスイッチ「強制」位置にしたときは、パトライトが点灯します。(ブザーは鳴りません)



P3031228

【重要】

- 刈取作業以外のときは、エンジンルームの上に設置してください。エンジンルーム以外では落下して破損するおそれがあります。

(2) オーバーロード警報

作業による負荷が大きくなり、エンジン回転が下がると、ブザーが鳴ります。

【参考】

- 作業速度を下げて、負荷を下げてください。

(3) 傾斜角警報

本機の左右傾斜角度が大きくなると、ブザーが鳴ります。

左右各「17.5度以上」……連続音

【参考】

- ブザーが鳴ったら本機の傾斜角を小さくしてください。

(4) エンジン始動安全警報

エンジン始動時、ベークラッチレバーが「入」位置の時は、キースwitchを「始動」位置にしても警報ブザーが鳴り、エンジンの始動ができません。

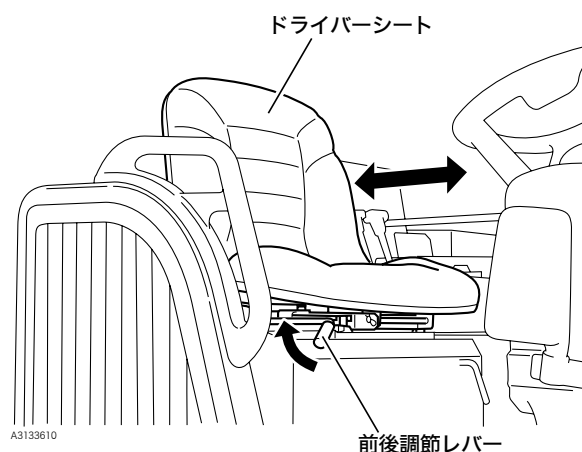
【参考】

- ベークラッチレバーを「切」位置にしてください。

その他

(1) ドライバーシート

運転者の体格に合わせて、前後に調節できます。

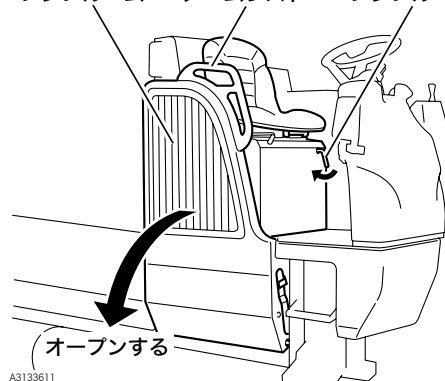


前後調節レバーを矢印の方向に引上げて、ドライバーシートを前後にスライドさせて操作しやすい位置に調節してください。

(2) エンジンルームロックレバー

エンジンルームの開閉に使用します。

エンジンルーム アームレスト エンジンルームロックレバー



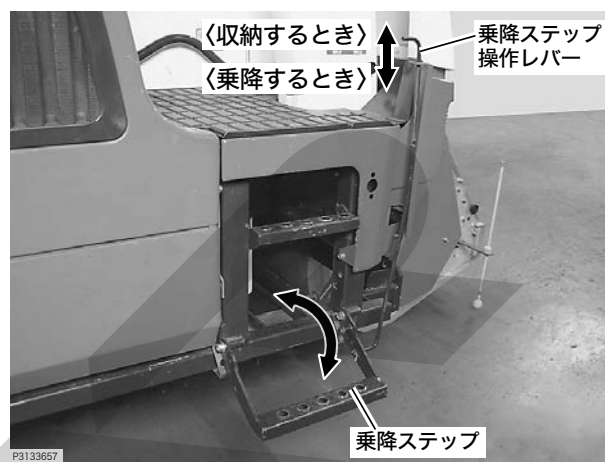
エンジンルームをオープンするときは、エンジンルームロックレバーを「開」(解除)方向に引いてください。

【参考】

- エンジンルームを閉めたときは、サイドコラムとシートコラムの間にすき間が無く、ロックが確実にできているか確認してください。

(3) 乗降ステップ操作レバー

乗降ステップ操作レバーを押し込むと、乗降ステップが出ます。乗降ステップ操作レバーを引上げると、乗降ステップが収納されます。



【重要】

- 移動走行するときは、乗降ステップを収納してください。
- 乗降ステップレバーは、手で操作してください。

【参考】

- 機体から降りたときに、乗降ステップの出し入れをするときは、乗降ステップ自体を手で持って行ってください。
- 乗降ステップは、下段のみ出し入れできます。上段は固定されています。

⚠ 危険

- エンジンが熱い間は、注油・給油を絶対にしないでください。守らないと、ヤケドや火災のおそれがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。守らないと、火災の原因になります。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと、こぼれた燃料に引火して、ヤケドや火災のおそれがあります。

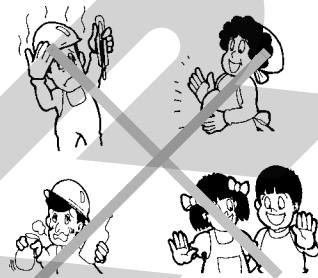
⚠ 警告

- 点検・整備・調節を行うときは、平坦で安定した場所で行ってください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- 点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてください。守らないと、回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因になります。

1. 作業者の体調・服装について

体調について

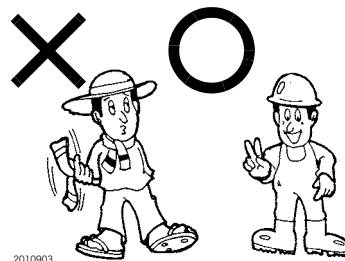
作業を行うときは、健康な状態で行ってください。過労・病気・薬物の影響、その他の理由で作業に集中できないときには、作業を行わないでください。特に、お酒を飲んで酔っている・妊娠している・18才未満の人は作業を行わないでください。



2010902

服装について

- 操作レバーや機械部品に引っかからない、だぶつきのない服装をしてください。
- 安全靴などのすべり止めの付いた靴を着用してください。
- ヘルメットを着用してください。
- 作業によっては、保護メガネ・マスク・手袋などの保護具を必ず着用してください。
- タオルをはち巻き・首巻き・腰にはさんで作業を行わないでください。



2010903

2. 本機の点検のしかた

運転・作業を行う前の点検は、次の順序で行ってください。

点検順序	点検箇所	参照ページ
前日の異常箇所	●前日の作業中に異常を感じたところはありませんか.....	111～116
本機の周りを回ってみて	●各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみはありませんか ●燃料の量と燃料もれはありませんか.....83・84 ●クローラの損傷・ゆるみはありませんか.....101 ●各部注油箇所の油切れはありませんか.....80～82 ●各部ベルト・チェーンのゆるみや折損はありませんか.....98～100・103～104	
エンジンルームカバーおよび ルーム枠カバーを開けてみて	●エンジンオイルの量と汚れ、油もれはありませんか.....83・85 ●燃料の量と燃料もれ、水もれ、オイルもれはありませんか.....84～88 ●冷却水の量と水もれ、ホースの損傷はありませんか.....83・88 ●エアクリーナーの汚れはありませんか.....93 ●冷却ファンベルトの張りや損傷はありませんか.....99 ●エンジン防塵装置のほこりやゴミはありませんか.....93・94 ●配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみはありませんか.....97 ●マフラーおよび連結パイプの亀裂・腐蝕などはありませんか.....97 ●マフラーおよび連結パイプ・カバー内の高温部に可燃物（ワラ屑など）の 堆積や付着はありませんか	
ドライバーシートに座ってみて	●ランプ・メータ・スイッチの作動状態は正常ですか.....29～31 ●ドライバーシートの前後位置は作業しやすい位置になっていますか.....38 ●ステアリングハンドルが、チルト機構により固定されていますか、 また作業しやすい位置になっていますか.....39	
エンジンを始動してみ	●エンジン始動後に異音はありませんか ●排気ガスの色は正常ですか.....102 ●各作業クラッチレバー・スイッチの作動状態は正常ですか.....24～26 ●セフティペダルの作動具合は正常ですか.....27 ●ステアリングハンドルで機体の旋回が行えますか.....27 ●刈高さ調節レバーで刈取部の昇降が行えますか.....24 ●ゲート開閉レバーでベアラ部のゲートの開閉が行えますか.....25 ●フレールクラッチレバーで刈取部の駆動停止が行えますか.....24 ●ベアラクラッチレバーでベアラ部の駆動停止が行えますか.....25	

6章 運転・移動のしかた

1. 本機への乗降のしかた

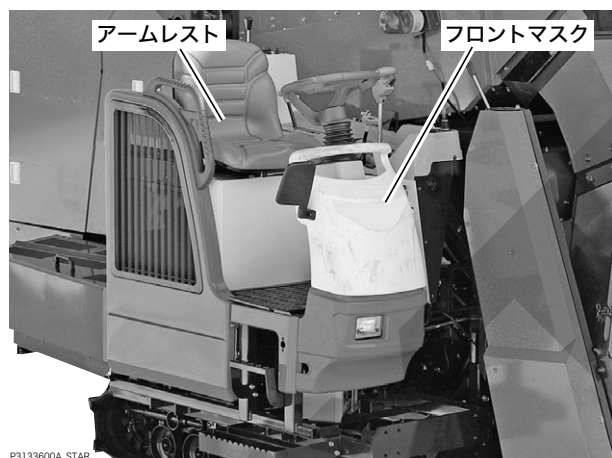
乗降のしかた

⚠ 注意

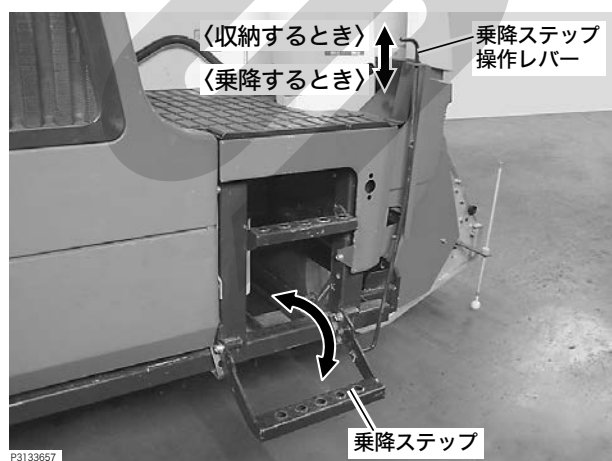
- 本機への飛び乗り、飛び降りは、あぶないので行わないでください。
- エンジンルームがエンジンルームロックレバーで確実に固定されているか確認してください。

運転席右側より乗降してください。

アームレストとフロントマスクを持って行ってください。マルチハンドルを持って乗降しないでください。



乗り降りるときには、必ず乗降ステップを下図のようにセットしてください。



【重要】

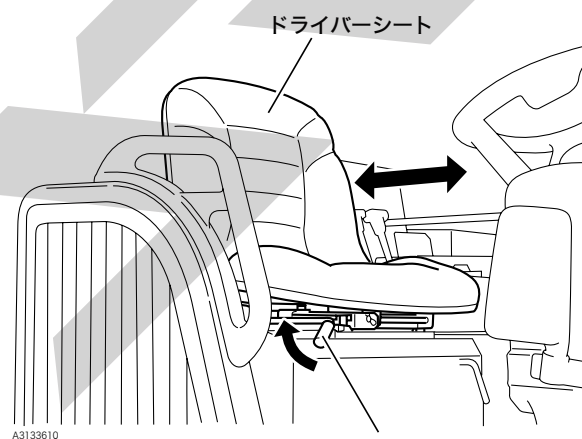
- 移動走行するときや、コンクリート畦畔などの横で作業するときは、ステップを収納してください。ステップの破損・変形を防ぐことができます。

2. シート位置の調節のしかた

ドライバーシートの前後位置を、運転者の体格に合わせて調節してください。

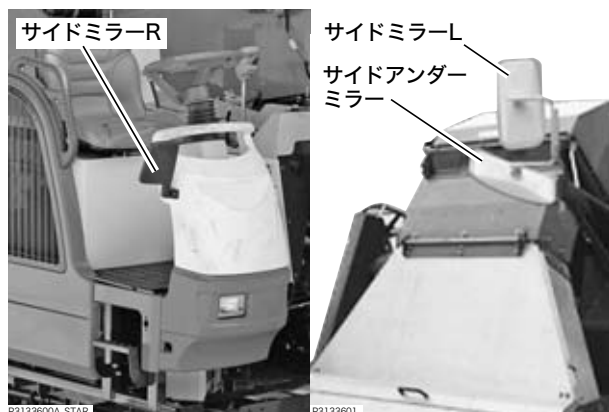
〈調節のしかた〉

1. 前後調節レバーを矢印方向に引き上げてください。
2. ドライバーシートを、作業しやすい位置に前後移動してください。
3. 前後調節レバーから手を離してください。ドライバーシートが固定されます。



3. ミラーの調整

左右の側面、後方および刈取部左側が、十分確認できるように調整してください。

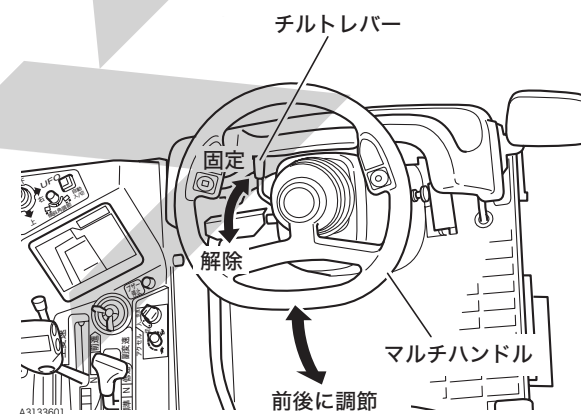


4. マルチハンドルの前後調節のしかた

マルチハンドルの前後角度を、運転者の体格に合わせて調節してください。

〈調節のしかた〉

1. チルトレバーを「解除」位置にしてください。
マルチハンドルの固定がゆるみます。
2. マルチハンドルの前後の角度を、作業しやすい位置に調節してください。
3. チルトレバーを「固定」位置にしてください。
マルチハンドルが固定されます。



【重要】

- マルチハンドルを調節したときは、チルトレバーで確実にハンドルを固定してください。

5. エンジンの始動のしかた

⚠ 警告

- エンジンの始動および暖機運転は、閉めきった屋内で行わないでください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分換気をしてください。排気ガスによる中毒で、死亡事故につながるおそれがあります。
- エンジン始動時は、必ず運転席に座って、スイッチとレバーの位置、および周囲の安全を確認してください。急に機械が動きだして、傷害事故を起こすおそれがあります。

⚠ 注意

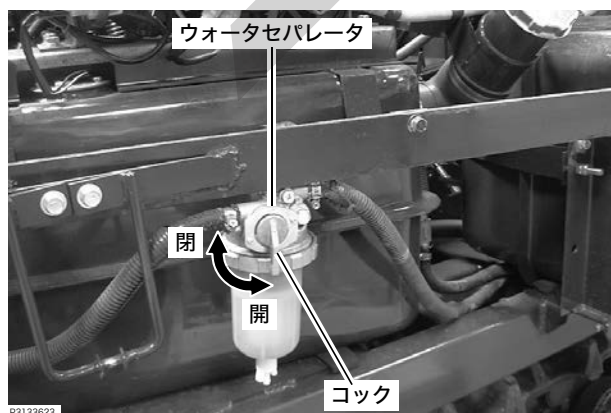
- エンジンを始動する前に、運転前・作業前の点検を行ってください。点検せずにエンジンを始動すると、整備不良のために、傷害事故や機械の故障を引き起こす場合があります。

【重要】

- 走行中または作業中にエンジンが停止したときは、副変速レバーを「N」（中立）位置にしないと、エンジンがかからない場合があります。
- 作業中にエンジンが停止したときは、キースwitchをいったん「切」位置にしてから、再度始動してください。

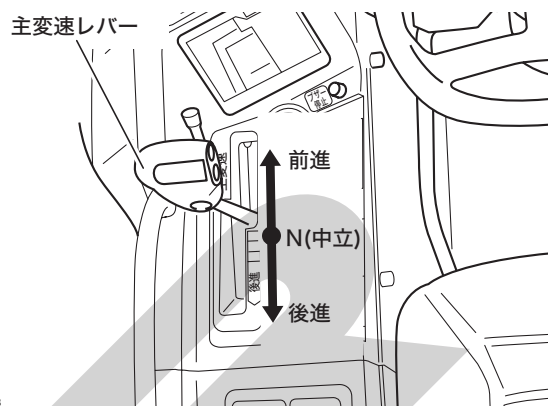
(1) エンジン始動前の確認・準備

1. ルーム枠カバーを外してください。
2. ウォータセパレータのcockを「開」位置にしてください。

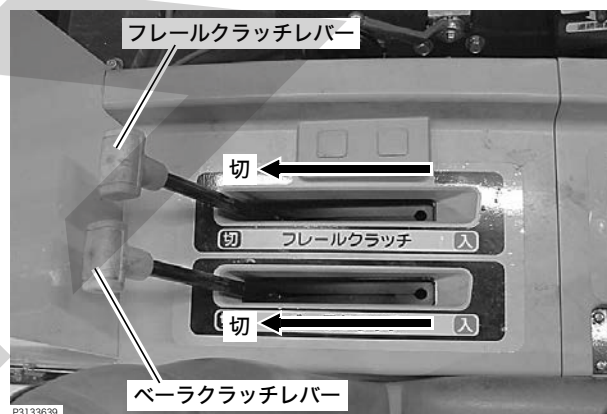


3. ルーム枠カバーを元通りに取り付けてください。

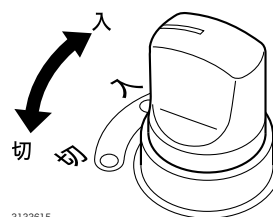
4. ドライバーシートに座ってください。
5. 主変速レバーを「N」（中立）位置にしてください。



6. フレールクラッチレバーとベークラッチレバーを「切」位置にしてください。



7. エコモード切替スイッチを「切」位置にしてください。



【参考】

- エコモード切替スイッチが「入」位置でもエンジンは始動できますが、アクセルダイヤルでエンジン回転の調節ができなくなりますので、「切」位置にしておいてください。

(2) エンジン始動操作のしかた

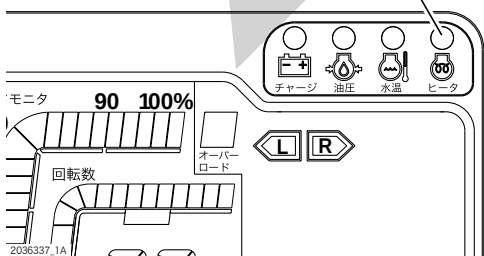
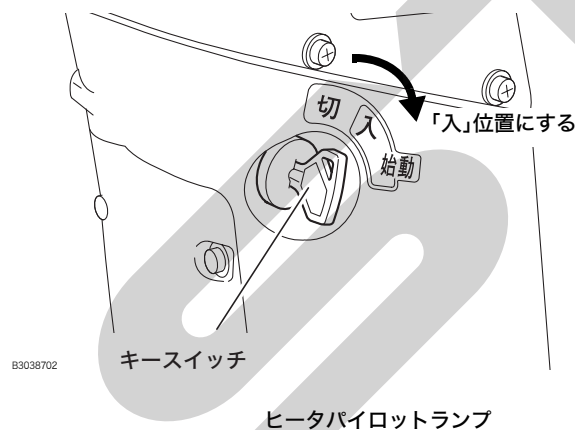
1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。
2. アクセルダイヤルを「高速」位置にしてください。エンジン回転が上がります。



3. キースイッチにキーを差し込んで、「入」位置にしてください。

【重要】

- キースイッチを「入」位置にすると、液晶コンビネーションメータのヒータパイロットランプが点灯します。エンジンが冷えているときは、消灯したことを確認してから、次の操作を行ってください。

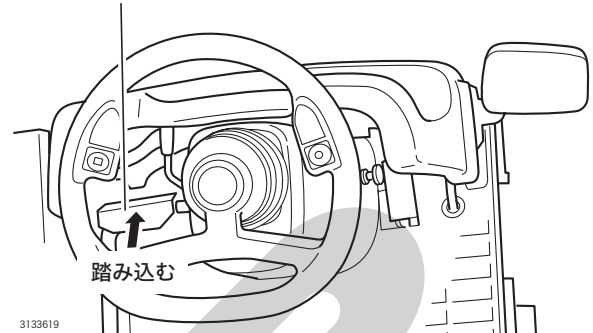


【参考】

- このとき、液晶コンビネーションメータの各ランプが、数秒間点灯します。

4. セフティペダルをいっぱい踏み込んで、キースイッチを「始動」位置に回してください。

セフティペダル



【参考】

- セフティペダルをいっぱい踏み込むと、駐車ブレーキロックレバーが「ブレーキ」位置から「解除」位置に戻ります。

【重要】

- ベーラクラッチレバーを「切」位置にして、セフティペダルをいっぱいまで踏み込まないと、セルモータは回りません。
- セルモータは、大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は絶対にしないでください。10秒以内に始動しなかった場合は、いったんキースイッチを「切」位置に戻し、1分以上経ってから、再び始動してください。

5. エンジンが始動したら、すみやかにキースイッチから手を離してください。キースイッチは、自動的に「入」位置に戻ります。

【重要】

- エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「始動」位置にしないでください。セルモータが破損することがあります。

6. 暖機運転のしかた

⚠ 警告

- 倉庫や車庫など、閉めきった屋内ではエンジンを始動しないでください。

エンジンを始動するときは、風通しのよい屋外で行ってください。やむを得ず屋内で始動するときは、十分に換気をしてください。守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

1. エンジン始動後、駐車ブレーキをかけてください。
2. エコモード切替スイッチを「切」位置にして、アクセルダイヤルを「低速」位置にしてください。エンジン回転が下がります。



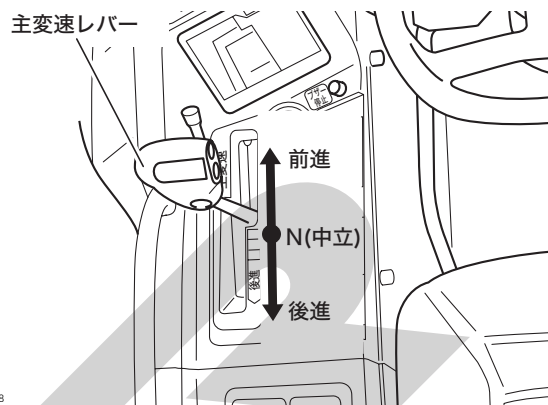
3. 約5分間は作業をせずに、エンジンをかけたままにしておいてください。

【参考】

- 寒冷時は、暖機運転を15分以上行ってください。

7. エンジンの停止のしかた

1. 主変速レバーを「N」(中立)位置にしてください。



2. エコモード切替スイッチを「切」位置にして、アクセルダイヤルを「低速」位置にしてください。エンジン回転が下がります。
3. キースイッチを「切」位置にしてください。エンジンが停止します。
4. キーを抜いてください。



【重要】

- 主変速レバーが「N」(中立)位置でないときは、キースイッチを「切」位置にしないでください。エンジンの再始動が行いにくくなる場合があります。

8. 発進のしかた

⚠ 警告

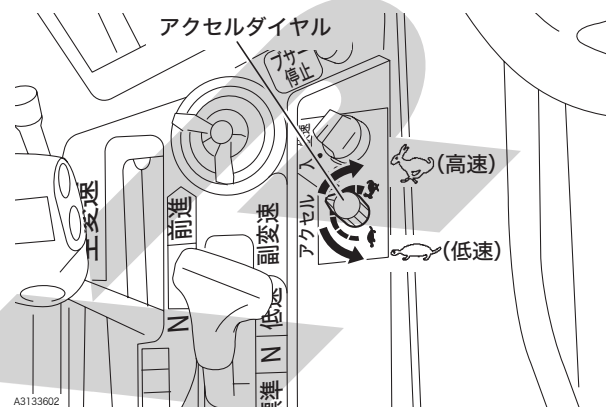
- できるだけ低速で走行し、急発進・急旋回・急停止は絶対にさけてください。
- 坂道や凹凸、カーブの多い道路では、高速運転しないでください。

⚠ 注意

- 発進するときは、周囲に合図をして、安全を確認しながらゆっくり発進してください。
- 作業中および移動時は、安全のためにヘルメットをかぶってください。
- 寒冷時に運転する場合は、エンジン始動後、暖機運転（15分以上）を必ず行ってください。駐車ブレーキワイヤーなどが凍結していると、誤動作する可能性があります。

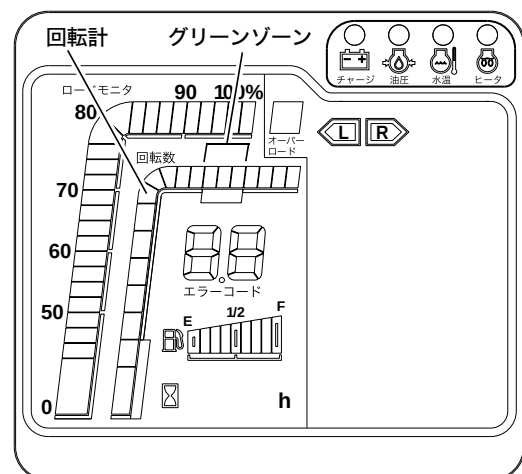
(1) 発進前の準備

1. 駐車ブレーキを解除してください。
(28ページ参照)
2. エンジンを始動してください。
(40ページ参照)
3. アクセルダイヤルを「高速」位置にしてください。エンジン回転が上がります。



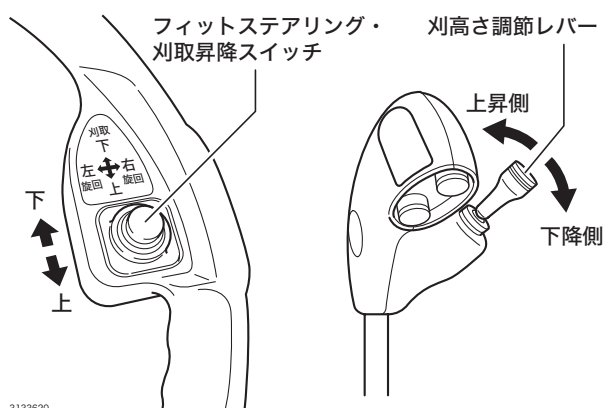
【参考】

- エンジン回転数は、必ず液晶コンビネーションメータの回転計の示す「グリーンゾーン」の回転数にしてください。

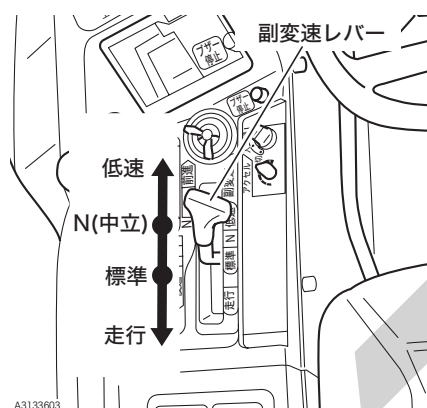


2036337_1A

4. フィットステアリング・刈取昇降スイッチ「上」側、または刈高さ調節レバーを「上昇」側にしてください。刈取部が上昇します。



5. 副変速レバーを希望の位置にしてください。

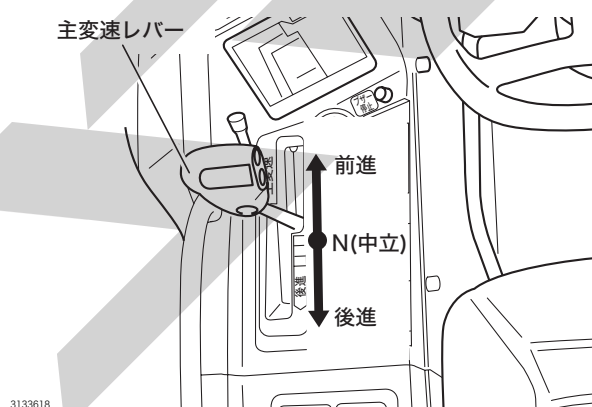


【参考】

- 副変速レバーが変速にくいときは、駐車ブレーキを解除して、セフティペダルから足を離してから変速操作をしてください。

(2) 発進操作のしかた

1. 駐車ブレーキを解除してください。
(28ページ参照)
2. マルチハンドルを右手で持ってください。
3. 左手で主変速レバーをゆっくり前方へ倒してください。機体が発進します。
 - 1) 周囲の安全を十分に確認してください。
 - 2) 主変速レバーをゆっくり前方に倒して発進してください。
 - 3) 発進後、必要に応じて主変速レバーをさらに前方に倒してスピードを上げます。

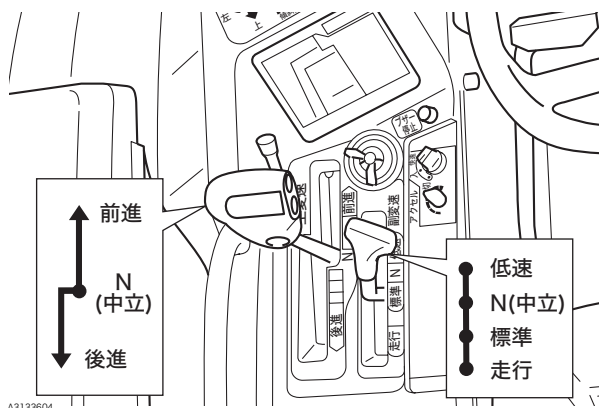


【重要】

- 本機はHSTミッションのため、走行時はエンジン回転数を、液晶コンビネーションメータの回転計が示す「グリーンゾーン」にしてください。
- 主変速レバーは、セフティペダルを踏まずに操作してください。セフティペダルを踏むと、主変速レバーが「N」(中立)位置で固定されます。
- 主変速レバーを「前進」から「後進」、または「後進」から「前進」に操作する場合は、必ず機体が完全に停止してから行ってください。動いているときに行うと、機械が破損することがあります。

9. 変速のしかた

1. 主変速レバーを「N」(中立)位置にしてください。機体が停止したことを確認してください。
2. 副変速レバーを希望の位置にしてください。



【重要】

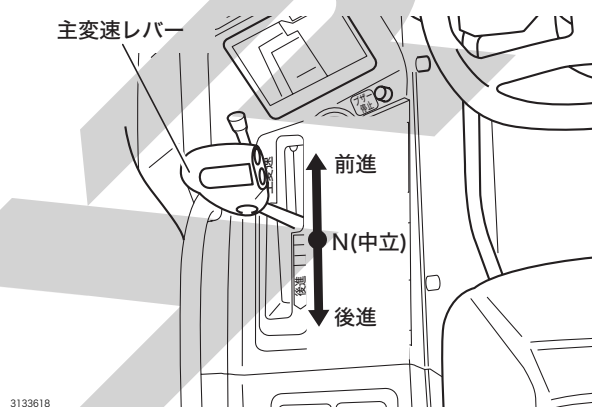
- 副変速レバーを操作する場合は、必ず機体が完全に停止してから行ってください。動いているときに行うと、機械が破損することがあります。
- セフティペダルを踏み込まない方が、スムーズに変速できます。
- 坂道では変速しないでください。

10. 旋回のしかた

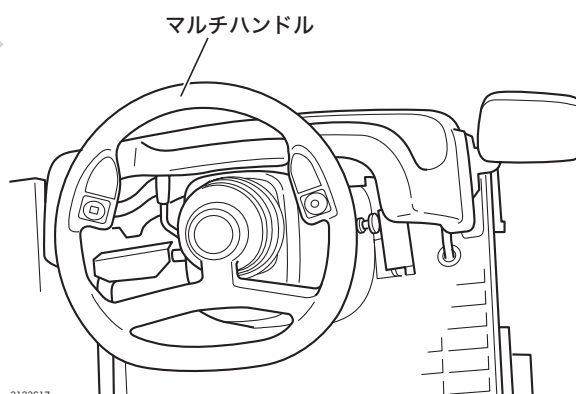
警告

- 副変速レバーを「走行」位置での高速移動時は、急旋回しないでください。必ず速度を落として行ってください。守らないと、接触・転倒事故のおそれがあります。

1. 主変速レバーで走行スピードを下げてください。



2. 旋回したい方向へマルチハンドルを回すと、その方向へ機体が旋回します。

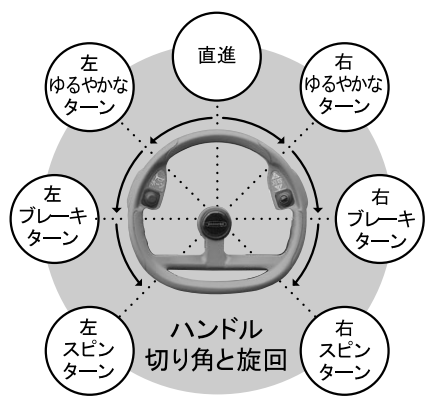


マルチハンドルの操作量と旋回角度について

ハンドルの操作量によって、旋回角度の調節ができます。ハンドルを回した側のクローラが徐々に減速され、約1/4回転で、クローラの速度がゼロになり、ブレーキターンの状態になります。

さらにハンドルを回すと、徐々にクローラが逆転し始め、約135度でスピンターンの状態になります。

〈ハンドル切角と旋回状態〉

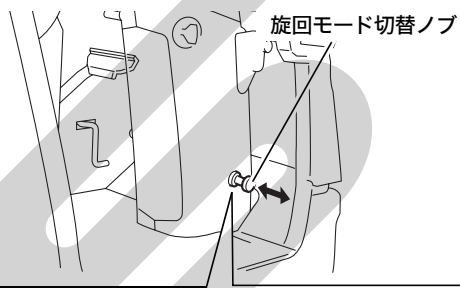


D3031304

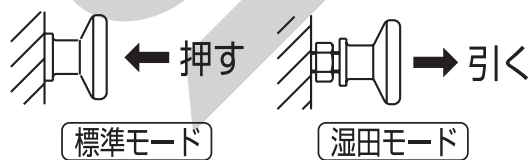
※図は、標準モードの場合です。

〈旋回モードの切り替えについて〉

旋回モード切替ノブで、旋回モードを切り替えることができます。



A3133608



※出荷状態は、「標準モード」です。

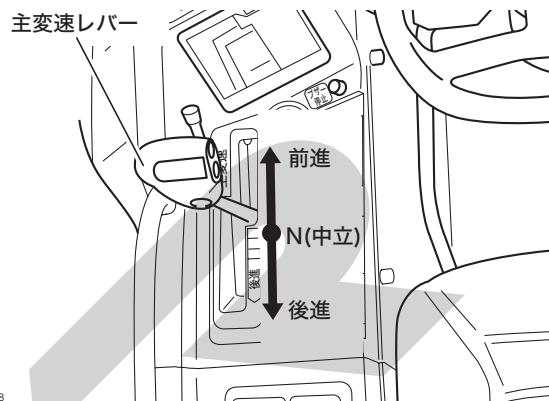
- 「標準モード」位置……乾田作業・移動走行時
- 「湿田モード」位置……牧草地・湿田作業時

【参考】

- 「標準モード」でも十分に作業は可能ですが、機体の沈下が著しい場合は、「湿田モード」に切り替えると、さらに湿田性能が向上します。

11. 停車のしかた

1. 主変速レバーを「N」（中立）位置にしてください。機体が停止したことを確認してください。



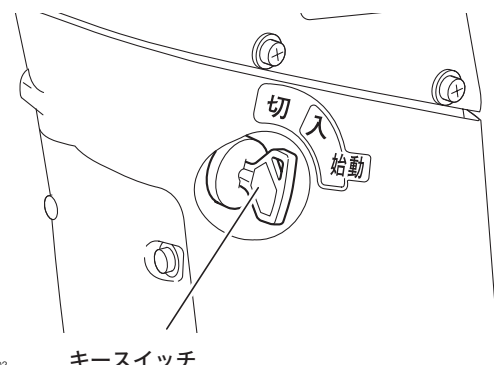
3133618

2. 駐車ブレーキをかけてください。
3. アクセルダイヤルを「低速」位置にしてください。エンジン回転が下がります。



A3133602

4. キースイッチを「切」位置にしてください。エンジンが停止します。

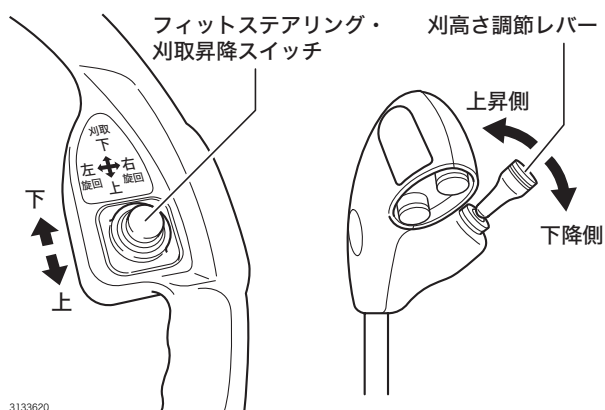


B3038702

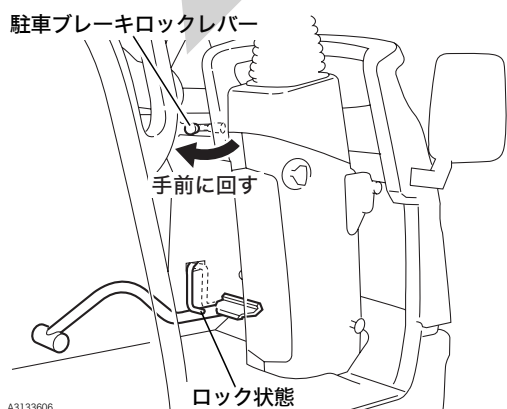
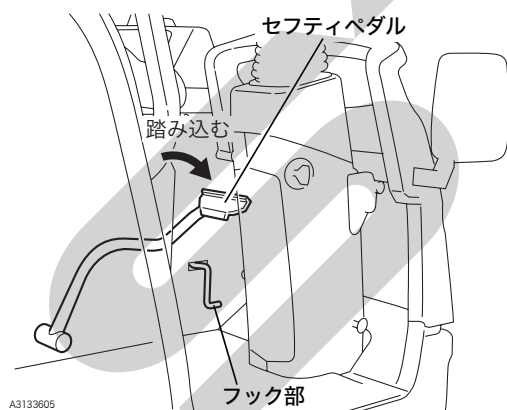
12. 駐車 of しかた

1. 平坦で安全な場所に機体を移動してください。
2. フィットステアリング・刈取昇降スイッチを「下」側、または刈高さ調節レバーを「下降」側にしてください。

刈取部を地面に接地させます。



3. エンジンを停止してください。(42ページ参照)
4. セフティペダルをいっばいに踏み込んでください。
5. 駐車ブレーキロックレバーを手前に引いて、セフティペダルにフック部をかけると、駐車ブレーキがかかります。



6. 運転席から離れる場合は、安全のためにキーを抜いておいてください。

【参考】

- 駐車ブレーキをかけると、主変速レバーは「N」(中立)位置に戻ります。

駐車ブレーキの解除のしかた

駐車ブレーキを解除するときは、セフティペダルをいっばいに踏み込んでください。駐車ブレーキロックレバーが前方に戻り、フック部が外れて解除できます。

13. 移動走行のしかた

⚠ 警告

- 移動走行時はペーラ内部を空にしてください。
- 運転者の他に人を乗せないようにしてください。
- 発進するときは、周囲の安全を確かめて発進してください。
- 傾斜地の斜面を斜めに走行したり、平行に走行すると転倒や横滑りの原因になります。
また、重なり合った木の葉や草、濡れた鉄板や板の上も滑りやすいので、十分注意して走行してください。
- 安全のために、ヘルメットを着用してください。
- 狭い農道や傾斜地、路肩に草がおいしげっている所は、路肩に十分注意して、スピードをおとして走行してください。

⚠ 注意

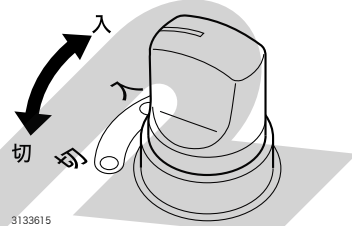
- 傾斜地の走行、および積み・降ろしをするときは、UFO自動スイッチを必ず「切」（ランプ消灯）にしてください。機体が急に傾いて転倒し、ケガをするおそれがあります。
- 車高調節レバーで、車高を最も低い位置にセットしてください。車高が高いと、機体の重心が高くなり、転倒し、ケガをするおそれがあります。
- 移動走行時は、刈取部を最上げにしてください。
- 移動走行するときは、旋回モード切替ノブを「標準モード」に切り換えてください。守らないと、旋回時に自動減速しないため、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 運転席はクローラ全幅より、右側に大きくはみ出していますので、狭い農道や路肩に障害物があるときは、十分注意して走行してください。

【重要】

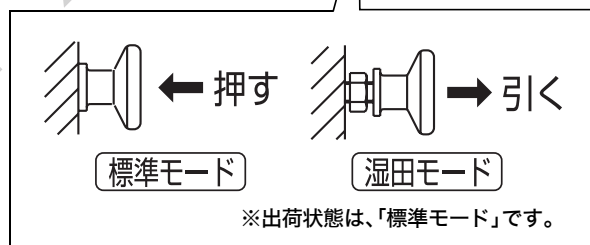
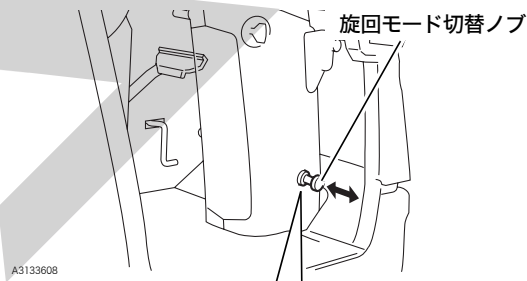
- 移動走行する場合は、乗降ステップを収納してください。ステップの破損・変形を防ぐことができます。

(1) 本機の走行姿勢について

1. ペーラの内部を空にしてください。
2. 車高が最下位置にあることを確認してください。
(車高調節レバーを前方に倒すと、車高は低くなります。(31ページ参照))
3. エコモード切替スイッチを「切」位置にしてください。

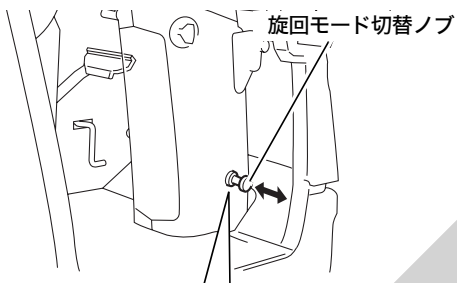


4. 旋回モード切替ノブを「標準モード」にしてください。



(2) 移動走行操作のしかた

1. 乗降ステップを収納してください。
(35ページ参照)
2. エンジンを始動してください。
(40ページ参照)
3. UFO自動スイッチを「切」位置にしてください。
4. 車高調節レバーを前方に倒し、車高を最も低い位置にしてください。
5. パトライトをエンジンルームの上に設置してください。
6. 旋回モード切替ノブを「標準モード」にしてください。



A3133608



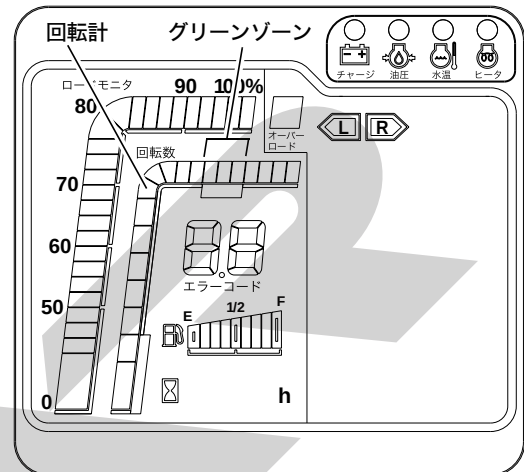
※出荷状態は、「標準モード」です。

7. センサーソリ調節レバーを「収納」位置にしてください。



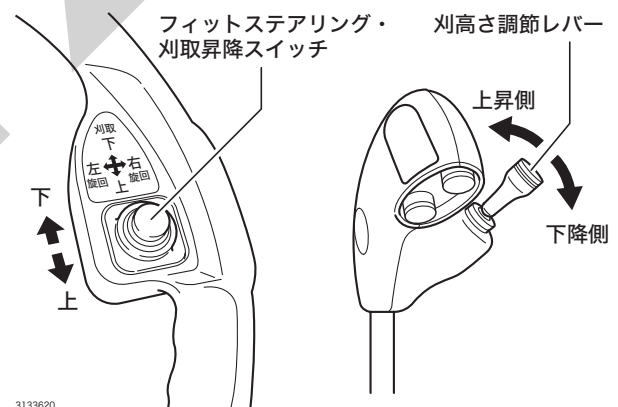
P3031237

8. アクセルダイヤルを「高速」位置にしてください。エンジン回転が上がります。(エンジン回転は、液晶コンビネーションメータの回転計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置に調節してください。)



2036337_1A

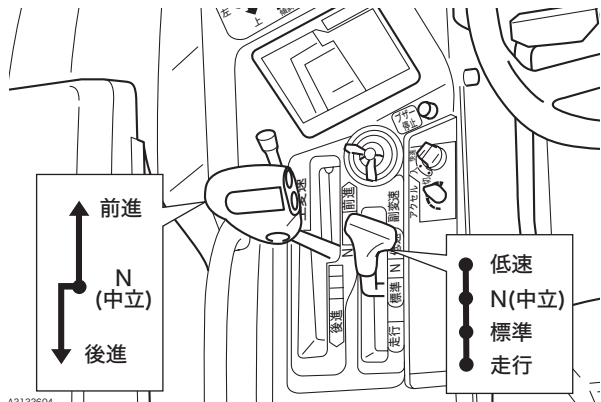
9. フィットステアリング・刈取昇降スイッチを「上」側、または刈高さ調節レバーを「上昇」側に、刈取部を最上げにしてください。



3133620

10. 駐車ブレーキを解除してください。
(28ページ参照)

11.主変速レバーを「N」(中立)位置にして、副変速レバーを希望の位置にしてください。



【参考】

- このとき、セフティペダルを踏み込む必要はありません。セフティペダルを踏み込まないほうが、副変速レバーをスムーズに操作できます。

12.主変速レバーを少しずつ前進方向に倒して、ゆっくりと発進し、徐々にスピードを上げてください。

【重要】

- 走行スピードは主変速レバーで調節してください。
- エンジン回転は、液晶コンビネーションメータの回転計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置を保ってください。
- 進路変更をするときは、ウインカスイッチで方向指示器を点滅させ、旋回方向を他の車に知らせてください。
- バックミラーで後続車に注意して、追い越しの妨害にならないようにしてください。
- 移動走行中は、作業灯を点灯させないでください。他の交通の妨害になります。

14.トラックでの運搬のしかた

⚠ 警告

- 積み・降ろしをする場所は、平坦で安定した、交通などの危険がない場所を選んでください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- 積み込むトラックは、車止めなどで動かないように処置してください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- アユミ板は、基準に合ったものを使用してください。守らないと、転落事故の原因になります。
- 積み・降ろしの機体方向は、積み込みは前進、降ろすときは後進で行ってください。守らないと、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因になります。
- アユミ板の上では、進路変更を絶対に行わないでください。クローラがアユミ板から外れて、転倒するおそれがあります。
- 本機の直前・直後には機械が不意に動いたときにあぶないので、絶対に立たないでください。
- 本機がアユミ板とトラックの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わるので、十分に注意してください。特にスピードの速いときは、転倒のおそれがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。
- トラックの荷台に積み込んだ機体は、エンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。機体は丈夫なロープで確実に固定してください。守らないと、転落事故の原因になります。

(1) アユミ板について

アユミ板は、下記の基準に合ったものを使用してください。

〈アユミ板の基準〉

- 長さ……トラックの荷台高さの4倍以上
- 幅……45cm以上
- 強度……1枚が機械の重量に十分耐えられるもの
(本機質量3767kg)
- 表面……すべらないよう処理してあるもの
- トラックの荷台に引っ掛けるためのフックがついているもの

(2) トラックの準備

- ①トラックは、本機が荷台内幅に十分収まる大きさを準備してください。
- ②トラックは、平坦で安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車してください。
- ③トラックの変速は「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキを掛けてください。
- ④タイヤに車止めをしてください。
- ⑤トラックの荷台にアユミ板のフックを段差ができないように、確実に掛けてください。

(3) 本機の積み込みかた

本機の積み込みは、前進で行ってください。

1. 本機は、移動走行と同じ状態にしてください。

【重要】

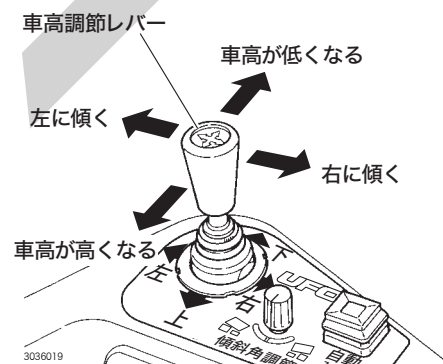
- 乗降ステップは、必ず収納してください。セットしたまま行くと、ステップの破損・変形の原因になります。

2. エンジンを始動してください。
3. エコモード切替スイッチを「切」位置にしてください。

【参考】

- エコモード切替スイッチが「入」位置では、アクセルダイヤルでエンジンの回転の変更ができません。

4. 車高調節レバーを前方に倒して、車高を最下位置にしてください。

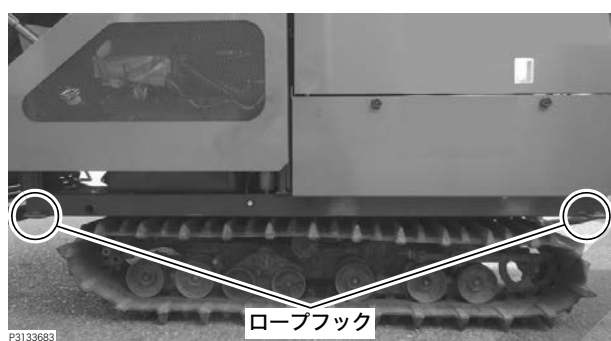


5. 本機は、アユミ板の上で進路変更をしないように、アユミ板に対してまっすぐに方向を定めてください。
6. フィットステアリング・刈取昇降スイッチを「上」側、または刈高さ調節レバーを「上昇」側にして、刈取部がアユミ板に接触しないように、できるだけ上げてください。
7. 副変速レバーを「低速」位置、主変速レバーをゆっくり「前進」側に倒してください。機体はゆっくり動き始めます。
8. 本機がトラックに積み込まれたら、駐車ブレーキを掛けてください。

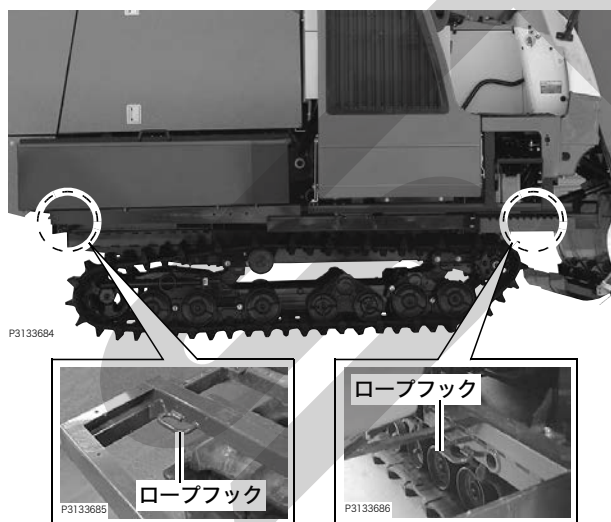
(4) トラックに積み込んだら

1. フィットステアリング・刈取昇降スイッチを「下」側、または刈高さ調節レバーを「下降」側にしてください。
刈取部をトラックの荷台に接地させます。
2. エンジンを停止してください。
(42ページ参照)
3. 機体左右のロープフック (4か所) に、十分強度のあるロープをかけて、機体を確実に固定してください。

機体左側



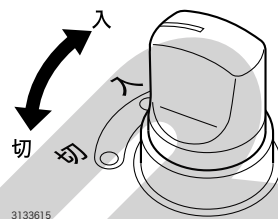
機体右側(フレーム奥側にフックがあります。)

**【重要】**

- ロープフック以外には、ロープを掛けしないでください。
- ロープを強く締めすぎないでください。変形などのおそれがあります。

(5) 本機の降ろしかた

1. 機体を固定しているロープを外してください。
2. エンジンを始動してください。
(40ページ参照)
3. エコモード切替スイッチを「切」位置にしてください。



4. フィットステアリング・刈取昇降スイッチを「上」側、または刈高さ調節レバーを「上昇」側にし、刈取部を最上げにします。

【重要】

- センサーソリが「収納」位置になっていることを確認してください。センサーソリがアユミ板などに引っ掛り、破損するおそれがあります。
5. セフティペダルを踏み込んで、駐車ブレーキを解除してください。
 6. 副変速レバーを「低速」位置にして、主変速レバーを後進「1」位置にしてください。機体がゆっくりと動き始めます。
 7. 本機はアユミ板の上で進路変更をしなくてよいように、アユミ板に対してまっすぐに方向を定めてください。
 8. 本機を完全にトラックから降ろしたら、主変速レバーを「N」(中立)位置にして、駐車ブレーキをかけてください。
 9. エンジンを停止してください。

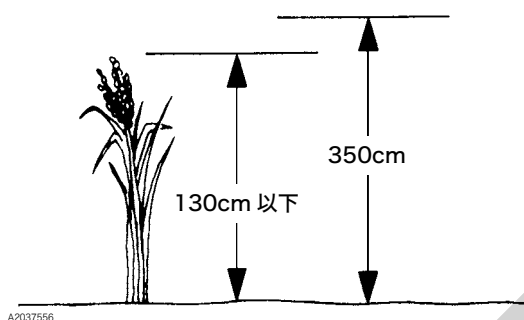
7章 収穫作業前の準備のしかた

1. 収穫できる作物の条件について

作物の状態やほ場の広さなどの条件により、収穫方法が多少異なります。作業に入る前に作物の状態やほ場の広さを確認して、能率よく作業を行ってください。

作物の長さ

刈取りに適する作物の長さは、130cm以下です。作業限度は350cm（ソルゴー）です。



【参考】

- 作物の状態（茎葉の量や作物の長さ）に合わせ、作業速度を調節してください。

作物のぬれ

作物にツユが付いていたり、葉がぬれていると、正常な作業ができないことがあります。ツユが完全に落ち、葉や茎が乾いてから刈取ってください。（手でしごいてぬれない状態）

作物の収穫適期

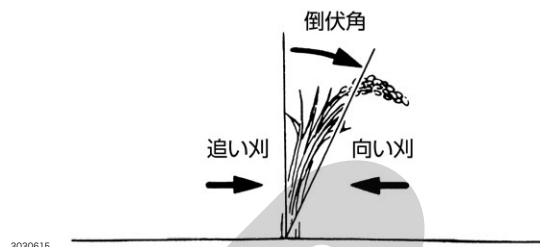
飼料イネの場合は糊熟期～黄熟期です。
水分は65%以下です。（茎葉・子実の全体水分）

【重要】

- 熟期が遅れると脱粒しやすくなり、損失が多くなります。

作物の倒伏状態

- 向刈り…倒伏角 85° 以下
- 追刈り…倒伏角 70° まで



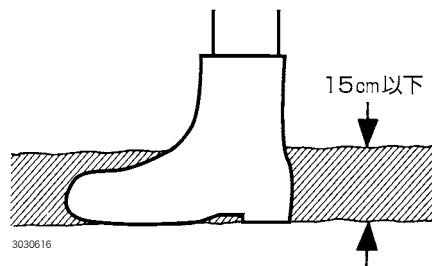
【重要】

- 倒伏した作物に土が付着している場合は、収穫しないでください。サイレージの品質が悪くなります。

2. 収穫作業ができるほ場の条件について

①ぬかるみの度合い

足の沈み（15cm）までのぬかるみであれば作業できますが、一度通ったクローラ跡は、できるだけ通らないようにしてください。



②雑草の状態

雑草が多くても、刈取作業には支障はありませんが、ほ場内に雑草が多いとサイレージの品質が低下する場合があります。ほ場内の除草を定期的に行ってください。

③傾斜角

ほ場の傾斜角度が 5° 以上の場合は収穫作業はしないでください。

3. 刈取方法について

⚠ 危険

- 刈取作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。回転物に巻き込まれたり、旋回時の接触事故など大変危険です。

⚠ 警告

- 後進するときは、後方の安全確認をし、低速で移動してください。
- 異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係レバー・スイッチを全て「切」位置にしてから点検してください。
- フラクスなどを取り除く場合や、作物が詰まった場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係レバー・スイッチ類を全て「切」位置にしてください。
- 二人以上の共同作業では、ホーンなどお互いに合図し合ってから行ってください。思わぬ傷害事故の原因になります。

収穫体系

2通りの収穫体系ができます。
作物やほ場の条件に合わせて選択してください。

1. ダイレクトカット収穫：
刈取り～梱包まで一行程で行う。
2. 予乾収穫：
刈取り～刈落としの後、予乾して、拾い上げ～梱包する。

作物水分	ほ場状態	収穫体系
適 正	乾いている	ダイレクトカット収穫
	湿っている	
多 い	乾いている	予乾収穫
	湿っている	作業できません

【重要】

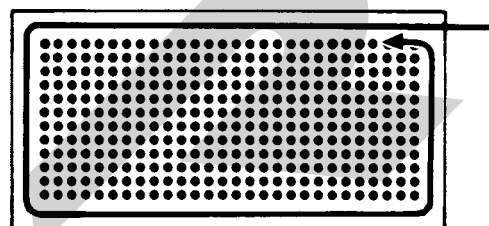
- 飼料イネの場合は、予乾収穫体系は行わないでください。籾の損失率が多くなります。
- 予乾収穫体系の拾い上げのときは、少し拾い残しがあります。

刈取方法

刈取方法は、ダイレクトカット収穫体系・予乾収穫体系とも同じです。

植付け条に沿って刈取るのが原則です。従って2方向刈りを基本とし、次の要領で刈取ってください。

1. あぜぎわから、左回りで低速で刈り取ってください。

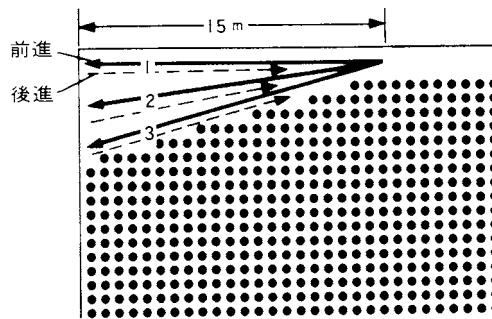


3030617

【参考】

- あぜぎわが刈取れない場合は、周囲3～4条を残して、左回り刈りをしてください。
 - ほ場の出入口の関係で右回り刈りをする場合も、左回り刈りと同じ要領で行ってください。
 - 左回りであぜぎわ1周目を刈り終わったあと、2周目は右回り刈りをする、あぜぎわ刈りで排出したバールを寄せたり、ほ場から搬出しなくてすみ能率的な作業ができます。
- 3周目からは、左回り刈りで行ってください。

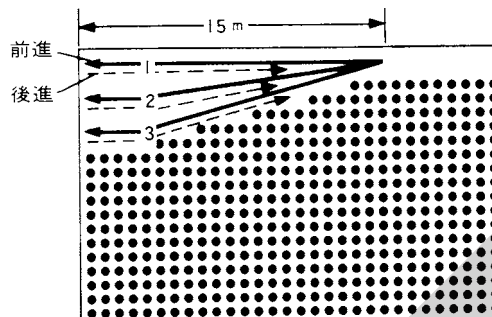
2. ほ場の四隅は3～4回斜め刈りをしてください。



2034409

【参考】

- 本機の取扱いに慣れてきたら
あぜぎわで、刈取部が平行になるように方向修正
をすると、手刈りをしなくて済みます。



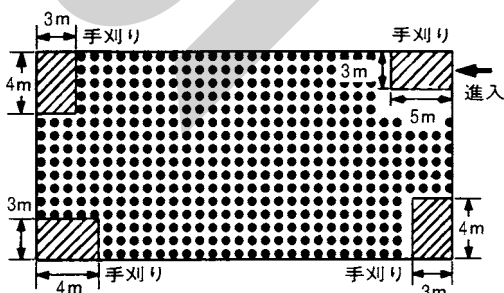
3030618

【重要】

- あぜぎわでは、刈取部が土かみしないように注意
してください。
- 方向修正は、ゆっくり行ってください。また、後
進するときは未刈り株を踏まないように注意して
ください。

【参考】

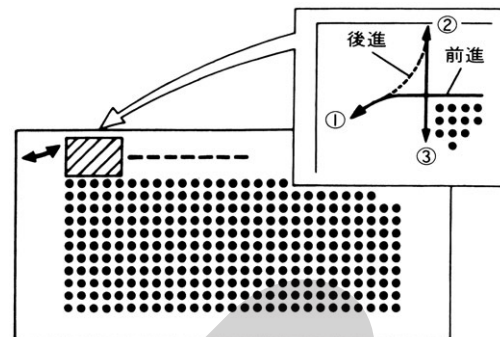
- 四隅を手刈りするときは、下図のようにしてくだ
さい。



3030622

※ 刈始めのみ3m×5mを手刈りしてください。

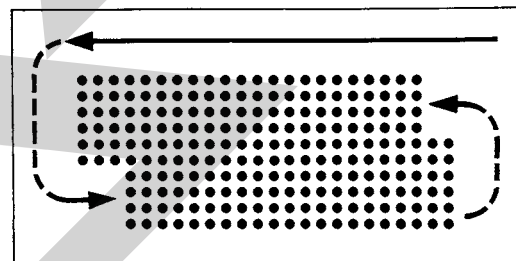
3. 切り返しを行い、左回りで刈り続けてください。



1037010C

4. ほ場の両端で回行できるようになったら、2方向
刈りを行ってください。

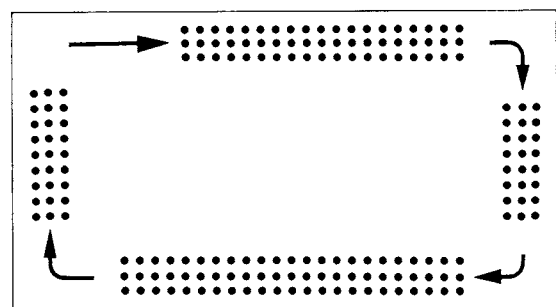
2方向刈り



2037732

5. あぜぎわ3～4条を残した場合は、あぜぎわ刈り
をしてください。あぜぎわ刈りは、低速で右回
りで刈取ります。

あぜぎわ刈り

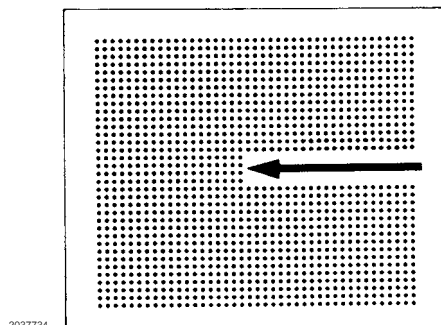


2037733

〈広いほ場の場合〉

能率よく作業するために、広いほ場などは、中割作業をしてください。

中割り



2037734

刈高さの目安

〈ダイレクトカット収穫体系〉

- 乾いたほ場（乾田）…10cm
- 湿ったほ場（湿田）…15cm

【参考】

- 株元は土が付着したり水分が高く、サイレージ品質を低下させるので、高刈りを行ってください。

〈予乾収穫体系〉

- 刈落とし……15cm
- 拾い上げ……10cm

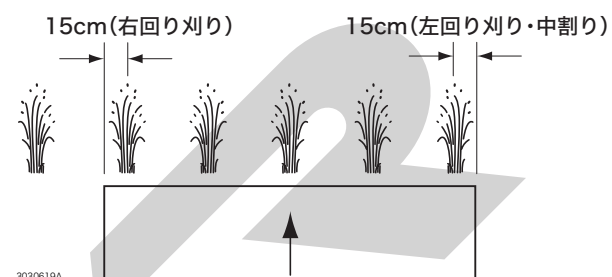
条合わせの目安

条合わせの目安は、ダイレクトカット収穫体系・予乾収穫体系とも同じです。

〈30cm条間の場合〉

回り刈り・中割り

- 刈取部を未刈株の横に合わせてください。

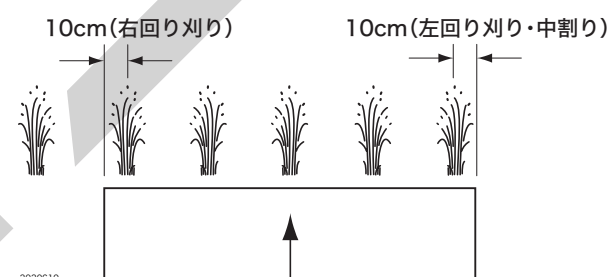


3030619A

〈33cm条間の場合〉

回り刈り・中割り

- 刈取部を未刈株の横に合わせてください。



3030619

【参考】

- 左回り刈りのときは、右の未刈株を残さないように刈取りをしてください。
- 右回り刈りのときは、左の未刈株を残さないように刈取りをしてください。

4. 本機の準備のしかた

ネットの準備

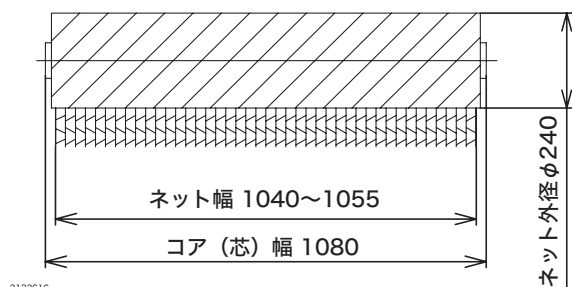
使用できるネット

長さ：2000m

直径：240mm

ネット幅：1040～1055mm

コア（芯）幅：1080mm



3133616

ネットロールは、純正のものを使用してください。

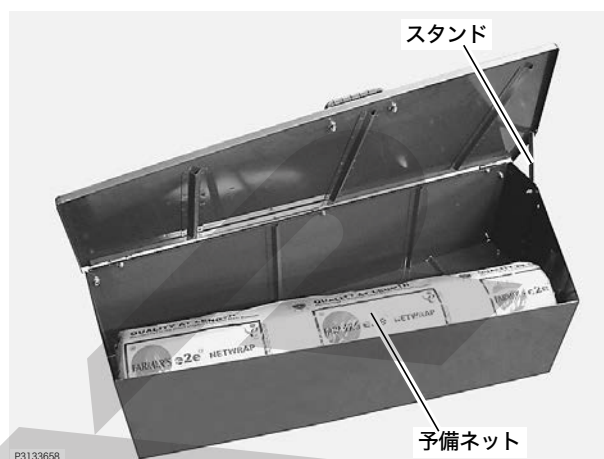
部品名称	部品コード
NET1020	1K1190-45000

【重要】

- 純正品以外を使用した場合、取付不可・切断不良・巻付発生等の原因となり、機械の故障につながるおそれがあります。
- ネットロールは、直射日光を避け、雨などで濡れない場所に保管してください。
濡れてしまうと、繰出不良・巻付発生などの原因となります。

予備ネットの収納のしかた

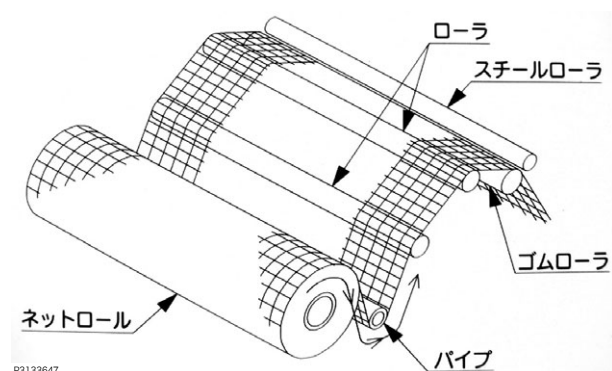
ネットボックスには、予備のネットロールを1本収納できます。ふたを開けて、スタンドを掛け収納してください。



P3133658

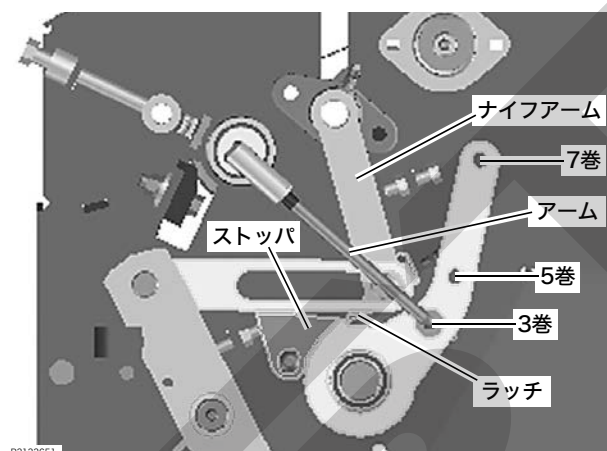
結束バール数目安
3 巻…150 バール
5 巻…100 バール
7 巻…70 バール

5. ネットの通しかた



⚠ 注意

- ネットナイフが不意に作動しないようにナイフアーム先端のラッチがストッパにかかっているか確認するとともに歯止めをし、ナイフが切断状態にならないように固定してください。



【参考】

- ネットの巻数は、アームの取付位置で3巻・5巻・7巻に調整できます。

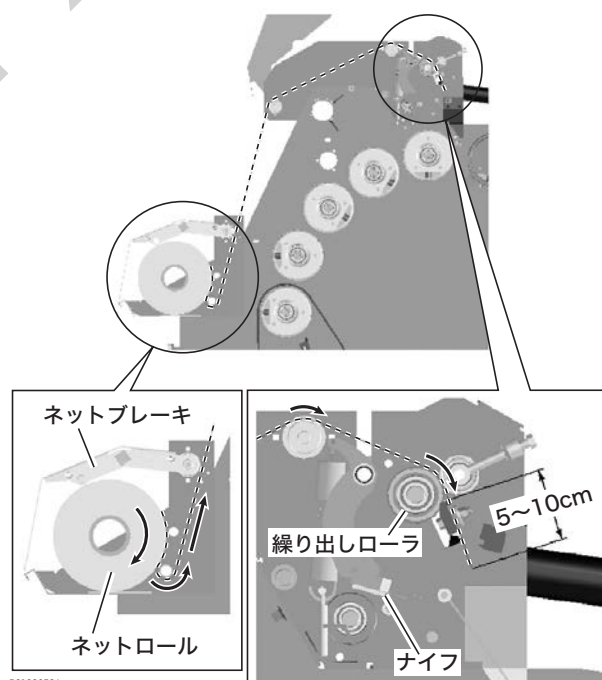
1. エンジンキーを「ON」位置にしてください。
2. ネットセットスイッチを「ネット開放」位置にしてください。



3. ネットロールを図のように通して、繰出しローラへネット先端を挟み、繰出しローラを回して、先端を5～10cm程度出してください。

【重要】

- ネット先端を出しすぎると満了前にネットがベールに引き込まれて結束が始まったり、他の部品に引っかって繰出し出来なかったりする場合があります。



4. ネットセットスイッチを「ネットセット」位置にしてください。



5. エンジンキーを「OFF」にしてください。

【重要】

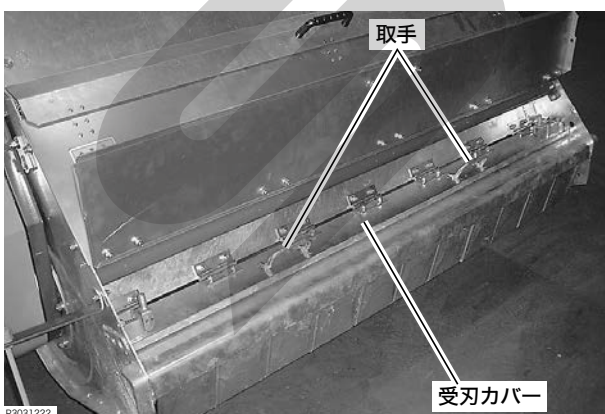
- ゴムローラ下のネット端が長いとベアラ満量前にネットがベールに引き込まれ、結束がはじまる場合があります。

切断長の調節

切断長は受刃のセット位置で調節します。

- 「短」…ダイレクトカット収穫作業
予乾収穫作業の拾い上げ
- 「長」または「中」…予乾収穫体系の刈落とし
(稲ワラの刈落としは「長」にします)

1. 受刃カバーを開けてください。



2. 受刃ロックレバー L・Rを「解除」位置にしてください。



3. 取手を持ち任意の位置で、ロックレバー L・Rを「ロック」位置にしてください。

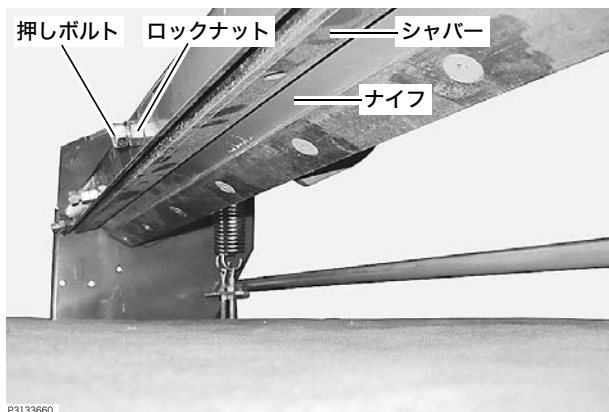
4. 受刃カバーを閉じてください。

【重要】

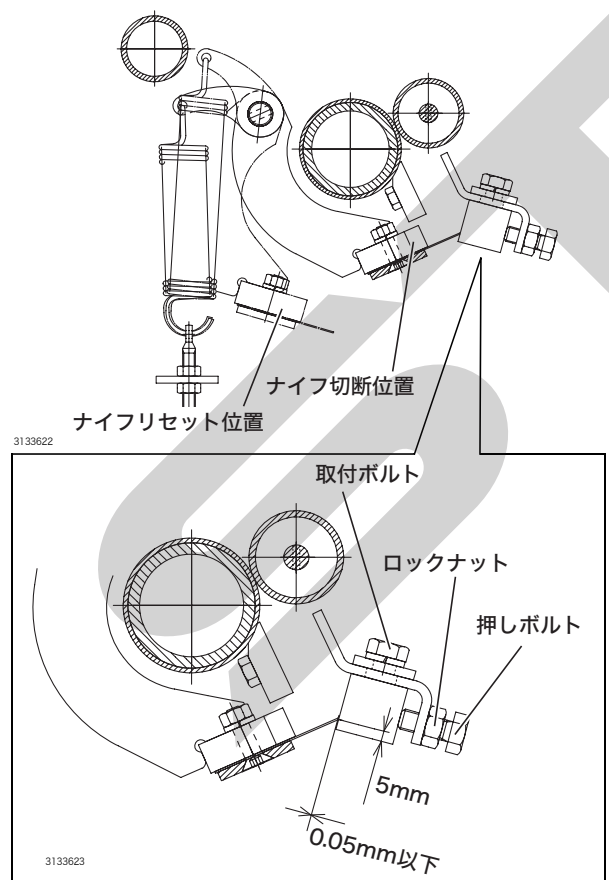
- ロックピンを確実にセットしてください。セットが不十分だと受刃が破損します。
- 予乾収穫体系の刈落としは「長」位置で詰まるような場合、「中」位置にしてください。
- 予乾収穫体系では、コンバインなどによる刈取りも切断長を長く設定してください。
乾燥すると、梱包対象物の重量が軽くなるために拾い上げの勢いが弱くなり、シュートに詰まりやすくなります。特に切断長が短いと、この傾向が顕著になります。

ネットナイフとシャバーの調節

1. ナイフ切断位置で取付ボルトをゆるめて、ナイフの先端がシャバー角部と5mmになるようにシャバーを押しボルトで調節してください。
2. ナイフとシャバーのすき間が0.05mm以下になるように押しボルトで調節してください。



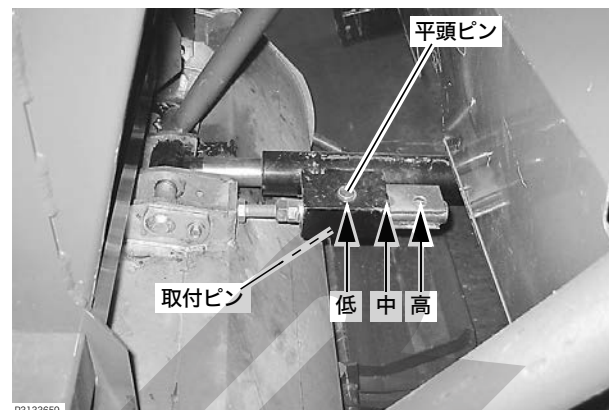
P3133660



3. 調節後、取付ボルト、押しボルトのロックナットを締め付けて固定してください。

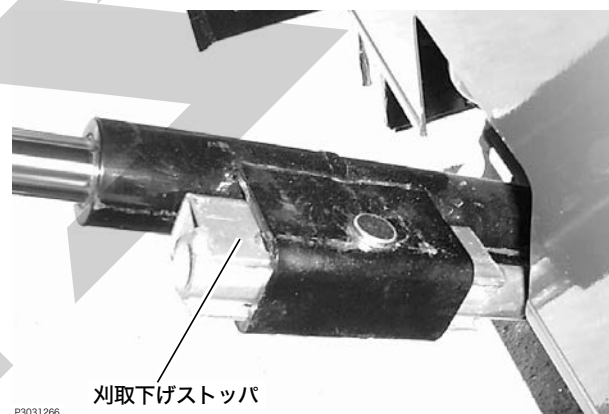
刈り下げストッパの調節

取付ピン・平頭ピンにて「低」位置へ組み付けます。



P3133659

「収納」にするときは、刈り下げストッパを反対向きに取り付けてください。

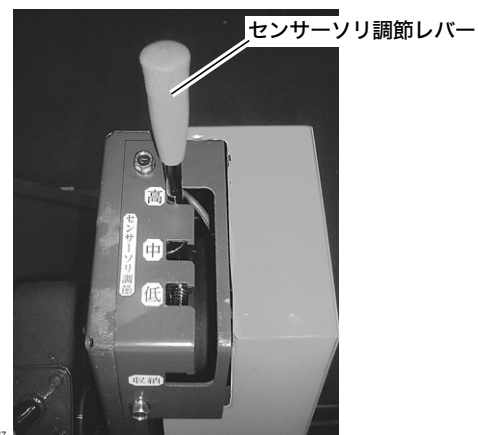


P3031266

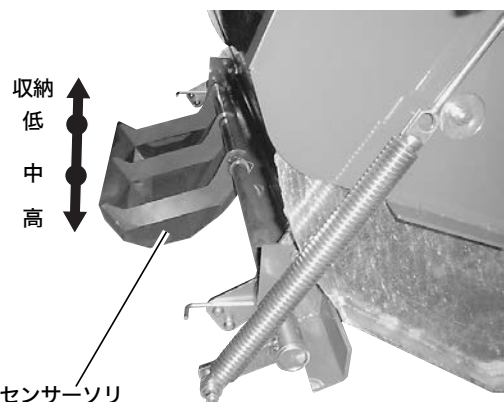
センサーソリの調節

〈センサーソリ調節レバー〉

センサーソリ調節レバーを希望の感知高さに合わせ、オートセット調整レバーや刈り高さ調節レバーで調節してください。



P3031237



P3031271

目安(乾田)

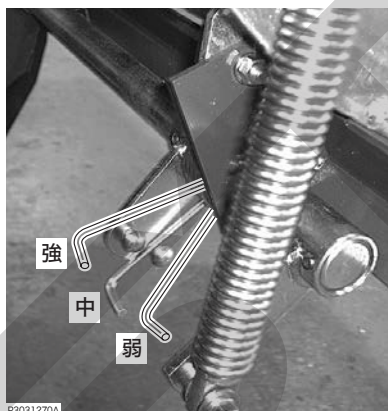
刈高さ(cm)	センサーソリ調節レバー
5	収納
10	中・高
15	低・中・高

〈センサーソリ調節スプリング〉

切株の条件により、センサーソリ調節スプリング（左・右各1か所）の掛け位置を調節してください。

目安

切株	掛け位置
硬い	強
通常	中
軟かい	弱



P3031270A

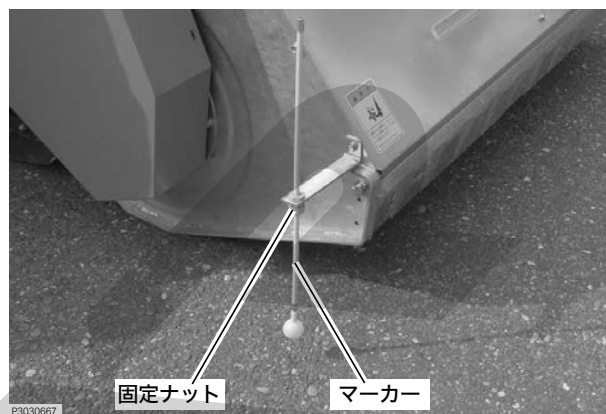
【参考】

- ほ場が軟かく機体が沈下するときは、刈取下げストップを希望の刈高さより、高い設定にしてください。
- 切株が硬く OK リフトが働き続けるときは、センサーソリ調節レバーを「収納」位置にしてください。刈高さが徐々に高くなっていきます。
- ほ場が軟かくて OK リフトが働きにくいような場合は、センサーソリ調節レバーを希望の高さより高い設定、または「収納」位置にし、刈高さ調節レバーで調節してください。

マーカの調節

刈高さの目安として使用してください。

マーカの固定ナットをゆるめて、位置を調節してください。調節後は固定ナットを確実に締付けてください。



P3030667

【参考】

- マーカ下端をフレールカッター下端または、ほ場面に合わせると使いやすくなります。

ネット繰り出しスイッチの切替

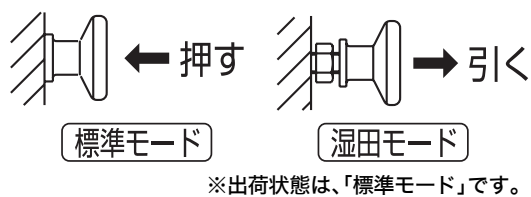
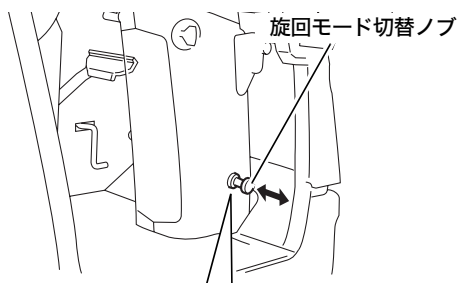
ネット繰り出しスイッチを「自動」位置にしてください。



P3133640

旋回モード切り替え

ほ場の状態に合わせて旋回モードを切り替えてください。



旋回モード切替ノブは、主変速レバーを「N」（中立）位置、ステアリングハンドルを「中立」にして操作してください。

- ノブを押し込む…標準モード（スピントーンする）
- ノブを引き出す…湿田モード（スピントーンしない）

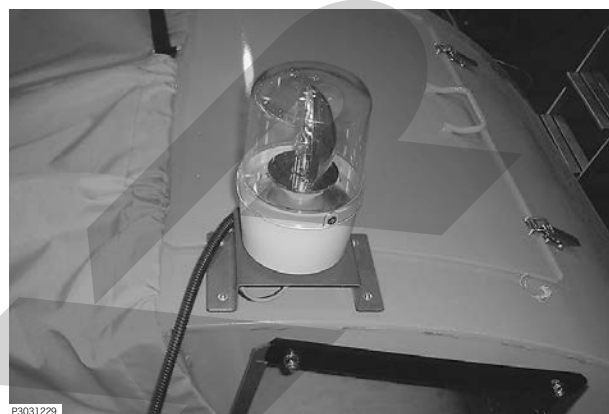
	標準モード	湿田モード
旋回時の车速	減速する	減速しない
副変速「標準」での旋回	スピントーンする（小回り）	スピントーンしない（大回り）
乾いたほ場での旋回	◎	○
ぬかるみでの旋回	※ハンドルを切りすぎない	◎（旋回力大）
牧草地での旋回 ※牧草の再生に影響があるので、ハンドルを切りすぎない	○	◎
移動走行性能	◎	×（使用不可）
車庫入れ性能	◎	×（使用不可）

パトライトの設置

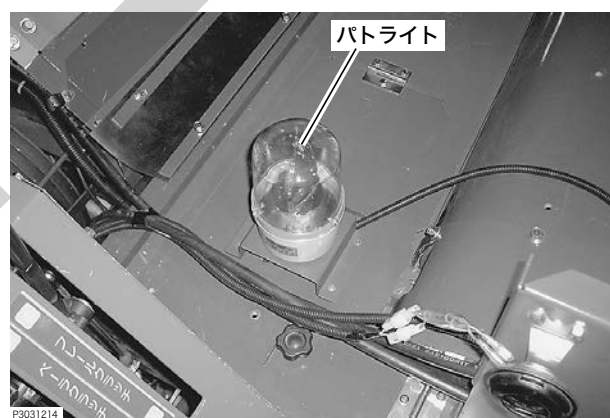
マグネット式になっていますので、ハーネスをはさまないように設置してください。

作業時………エアシュートまたは、シュート右上面。
作業時以外…エンジンルーム右上面。

作業時



作業時以外



【重要】

- シュートに設置するときは、刈取部を上下させても落下しないことを確認してください。
- 運搬・移動時や本機にシートを掛けるときなど作業時以外は、エンジンルーム右上の指定位置に設置してください。指定位置以外では落下して破損するおそれがあります。

6. ほ場への出入りのしかた

- 副変速レバーを「低速」位置、主変速レバーを「1」位置にしてください。
- エコモード切替スイッチを「切」位置にしてください。
- 刈高さ調節レバーまたは、オートリフトスイッチで刈取部を最上げにしてください。
- ペーラクラッチレバーを「切」位置にしてください。
- あぜに対して直角に出入りしてください。
- 10cm以上の高いあぜの場合は、アユミ板を使用してください。

〈急な坂道の場合〉

●進行方向

進行方向	登り	前進
	降り	後進

●移動速度

副変速レバー「低速」位置、主変速レバーは最低速（「N」～「1」）でゆっくり登り降りしてください。

⚠ 警告

- 急な坂道の場合は、進行方向や速度を誤ると、転倒してケガをするおそれがあります。必ず上記の方法に従ってください。

【重要】

- ほ場へ入るときは、必ずフレイルクラッチレバーを「切」位置にしてください。機体が不用意に前傾するとフレイルカッターで土をかみ込むおそれがあります。ペールに土が混入したり、シュート内面に付着し、詰まりの原因になります。

8章 収穫作業のしかた

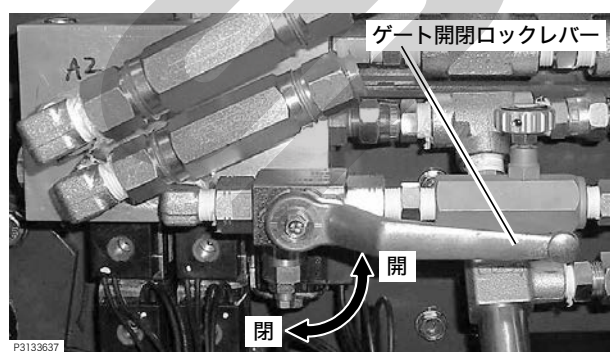
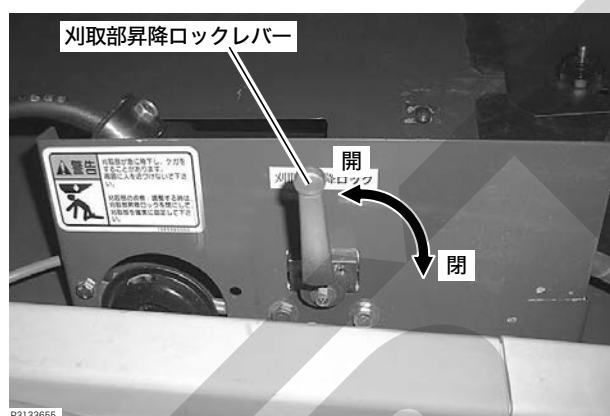
本機によるダイレクト収穫（刈取り～梱包）と予乾収穫（刈取り～刈落とし、乾燥後拾い上げ～梱包）作業の基本的な準備と作業要領を説明しています。

1. ダイレクトカット収穫作業のしかた

【重要】

- 本製品の性能を十分に発揮させるため、雨降り時や雨上がり直後のほ場・ぬかるみのある軟弱なほ場では作業を行わないでください。

1. エンジンを始動してください。
(40ページ参照)
駐車ブレーキを解除してください。
(28ページ参照)
2. 刈取部昇降ロックレバー、ゲート開閉ロックレバーを「開」位置にしてください。



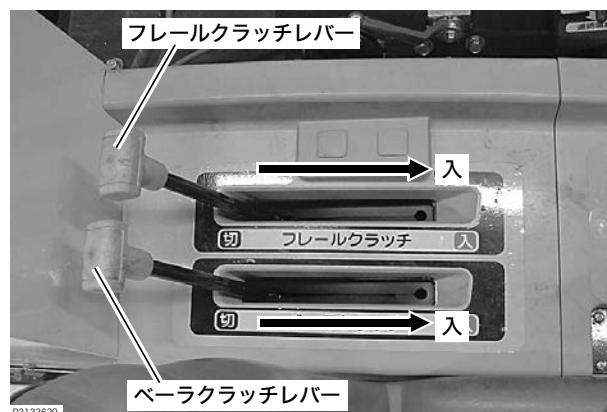
3. 刈高さ調節レバー、またはオートセットスイッチで刈取部を希望の位置に下げてください。
(31・32ページ参照)
4. 副変速レバーを「標準」または「低」位置に入れてください。



5. エコモード切換スイッチを「入」位置、または、アクセルレバーでエンジン回転を 2500rpm に設定してください。

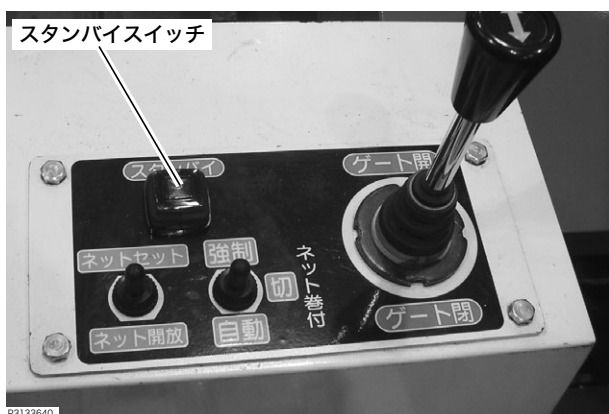


6. ベーラクラッチレバー、フレルクラッチレバーを「入」位置にしてください。



【重要】

- スタンバイスイッチを押して緑色のランプが点灯しているのを確認してください。

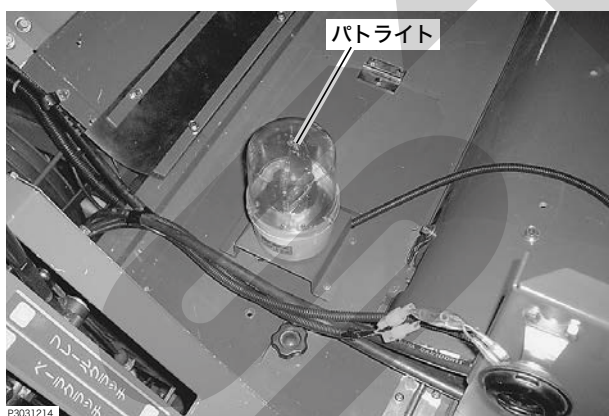


- 主変速レバーをゆっくり前側に倒して、刈り始めてください。

【重要】

- 収量が多いところでは、作業速度を落として作業してください。
作業速度が速いと詰まりの原因となります。

- ペーラが満量になるとブザーが漸続して鳴り、パトライトが点灯します。



- 主変速レバーを「N」位置にして、停止してください。

【参考】

- 次工程の刈取りまで、排出したバールを運搬しないときは、少し後進し機体後方を右に振ってから停止してください。
このとき、刈取バックアップが働き、刈取部が上昇します。
- ブザーが鳴り終わるとネットが繰出され、結束を開始します。

- ネット巻付が終了したことを確認してください。
(ナイフ作動時に音がします)
- 後方の安全を確認し、ゲート開閉レバーを「開」位置にしてバールを排出してください。

**【重要】**

- バールを排出するときは、ゲートをいっぱいまでオープンしてください。
次回結束時にネットが詰まることがあります。

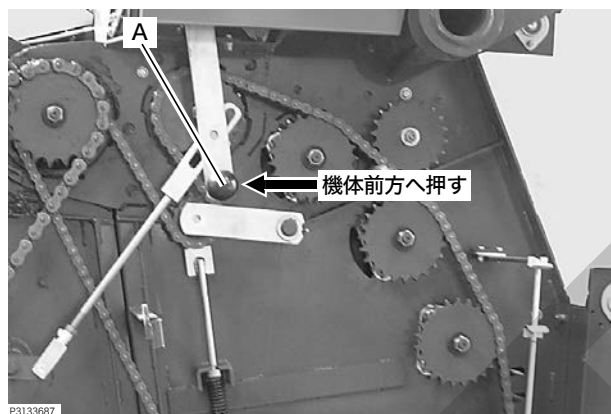
- 排出が終了したら、ゲート開閉レバーを「閉」位置にし、ゲートを閉じて、パトライトが消灯したのを確認して次の刈取をはじめてください。

ナイフ部分にネットが詰まった場合

ゲートをいっぱいまで開けずにベールを排出すると、ナイフがスタンバイ位置に戻らないために、次回結束時にネットがナイフ部分で詰まる場合があります。

その場合には、以下の手順で作業してください。

1. エンジンを停止してください。
2. 本機右後方のカバーを開け、下図の「A」のレバーを突き当たるまで、機体前方へ押してください。ナイフがスタンバイ位置にセットされます。

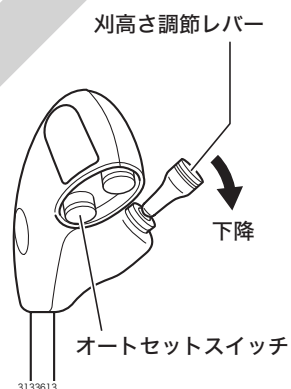
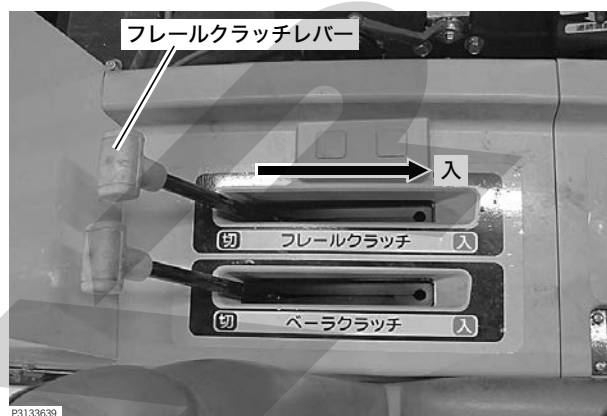


3. 詰まっているネットを取り除いてください。
4. ネットを正規の状態にセットしてください。
5. エンジンを始動し、ベークラッチを「入」位置にし、ネット繰出しスイッチを「強制」側に1～2秒倒してください。ベールの結束が行えます。

引き続き作業を行うとき

【参考】

- ベール排出のとき後進した場合は刈取バックアップ装置が作動し、刈取部が上昇しますので、刈り高さ調節レバーを「下げ」位置または、オートセットスイッチを押して、刈取部を下げて作業を始めてください。



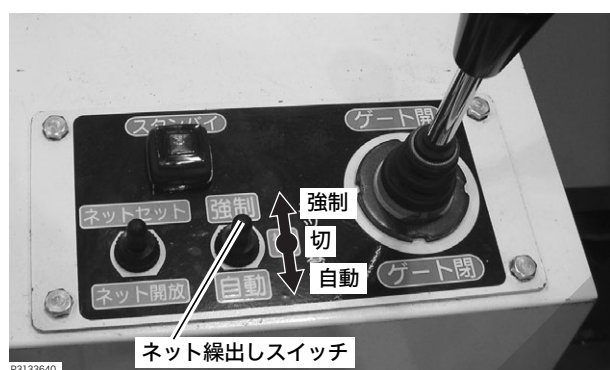
ペーラが満量にならずに刈取りを終了したときの結束のしかた

手動でネットの繰出しをします。

1. ネット繰出しスイッチを「強制」側に1～2秒間倒すと、結束を開始します。
結束が開始できないときは、もう一度1～2秒間倒してください。

【参考】

- 「強制」側に倒したあと手を離すと「切」位置に戻ります。



2. ネット巻付終了を確認してください。(ナイフ作動時に音がある)
3. ベールを排出してください。

【重要】

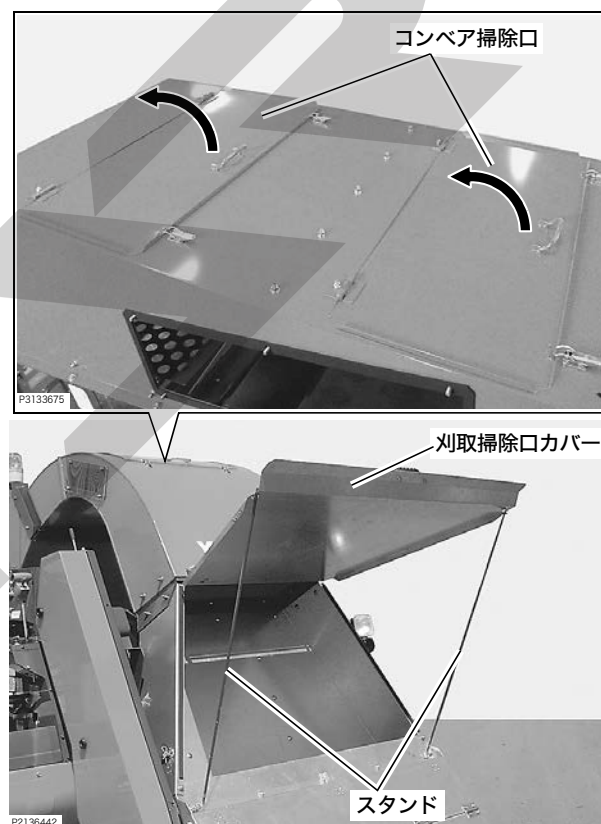
- ペーラクラッチレバーは、「入」位置にして行ってください。
- ベールが回転していないときは、結束できません。

全ての作業が終了したら

フレールクラッチレバー、ペーラクラッチレバーを「切」位置にし、エンジンを停止してください。

刈取部の作物の詰まり・泥かみの場合

1. フレールクラッチレバー、ペーラクラッチレバーを「切」位置にし、1～2m後進して、停止してください。
2. 刈高さ調節レバーを「下降」位置にし、刈取部を下げてください。
3. エンジンを停止してください。
4. 刈取掃除口カバー、コンベア掃除口を開けて掃除をしてください。



〈コンベア部の作物の詰まりの場合〉

1. 1～2m後進して、停止してください。
2. ゲート開閉レバーを「開」位置にして、ゲートを開けてください。
3. フレールクラッチレバー、ペーラクラッチレバーを「切」位置にしてください。
4. ゲート開閉ロックレバーを「閉」位置にしてください。
5. ペーラ内から、コンベア上の草を掃除をしてください。

〈作物が詰まった場合〉

- 取り除いた作物は、まだ作業していない場所にばらまいてください。

〈泥かみの場合〉

- 刈取部、シュート内面に付着した泥をきれいに取り除いてください。

【重要】

- 泥の付着した作物は、再び収穫しないようにしてください。発酵品質が低下します。

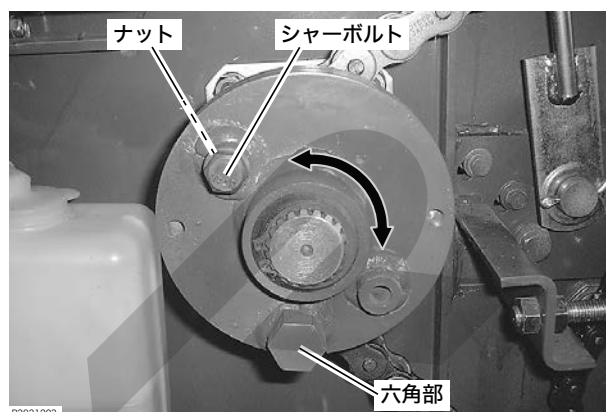
結束途中でネットが無くなった場合

作業中にネットが無くなった場合は、以下の手順で作業してください。

1. エンジンを停止してください。
2. 新しいネットを通しかたに注意して取り付けてください。(58ページ参照)
3. エンジンを始動しベアラクラッチを「入」位置にし、ネット繰出しスイッチを「強制」側に1～2秒倒してください。ベールの結束が行えます。

ベアラ部のシャーボルトが切断した場合

フロントカバー L 内のメインチェン駆動部にあります。切断した場合は、付属または、純正（指定）のシャーボルトに交換してください。



1. フレールクラッチレバー・ベアラクラッチレバーを「切」位置にし、エンジンを停止してください。
2. 切断したシャーボルトが残っている場合は、取り除いてください。
3. 六角部にスパナをかけて、左右どちらかに回転させ2枚の円板のシャーボルト穴を合わせます。
4. シャーボルト（ボルト・ナット）を組み付けます。

【重要】

- 使用するシャーボルトは、必ず純正（指定）のボルトを使用してください。
純正以外のボルトを使用すると、本機が破損したり、故障の原因になります。

【参考】

- シャーボルトがよく切断する場合収穫物の詰まりなどで、負荷が増加していると思われます。
スチールローラ部、成形ベルト部などの詰まりがないか確認し、取り除いてください。
- シャーボルトの予備は、円盤の下側に3セット取り付けできます。

2. 予乾収穫作業のしかた

⚠ 注意

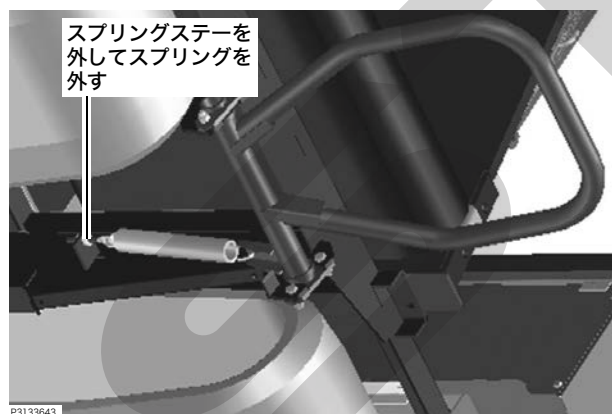
- 予乾して、梱包する作物（牧草）を梱包後にラップしない場合には、水分20%以下で行ってください。20%以上の作物を梱包し、ラップしないで保管すると、自然発火やくん炭化するおそれがあります。

【重要】

- 本機の本来機能は飼料稲のダイレクトカット収穫作業（青刈り）であり、予乾収穫作業はダイレクトカット収穫作業に比べて、作業能力がかなり低下するために、作業方法もかなり限定的なものになります。
特に乾燥した切断長の短い作物（切ワラ）の場合は、下記の作業のしかたに留意して作業を行ってください。

刈取り～刈落とし作業

1. ベールイジェクタを外してください。



2. 切断長の設定を確認してください。
(59ページ参照)
3. 受刃位置を「長」側に調節してください。



4. オートセットの刈高さを「高」位置、センサーソリ調節レバーを「中」または「高」位置に設定してください。

【参考】

- 刈高さを高くすると、乾燥を促進し、拾い上げの効率が良くなります。

5. ゲート開閉レバーを「開」側にし、ゲートを50cm程度開けてください。
6. ゲート開閉ロックレバーを「閉」位置にしてください。

【参考】

- 5m 程度試し刈りをして、作物が詰まるような場合は受刃位置を「中」位置にしてください。

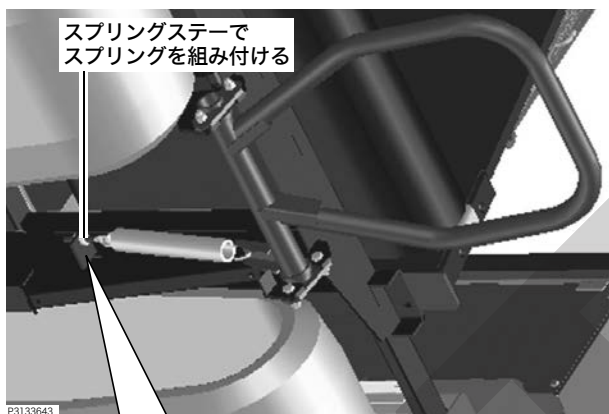
7. 以降の刈取り作業は「1.ダイレクトカット収穫作業のしかた」（64ページ参照）と同じ要領で行ってください。

拾い上げ～梱包作業

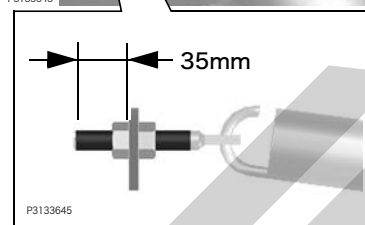
1. ベールイジェクタを組み付けてください。



P3133644



P3133643



P3133645

2. 切断長の設定を確認してください。
(59ページ参照)
3. 受刃位置を「短」側に調節してください。



P3031218

4. オートセットの刈高さを「低」位置、センサーソリ調節レバーを「低」に設定してください。
(拾い上げ高さ10cm)
5. ゲート開閉レバーを「閉」側にし、ゲートを閉じてください。



P3133640

6. シュート内面の泥や付着物を取り除いてください。
(67ページの「刈取部の作物の詰まり・泥かみの場合」参照)

【重要】

- 刈取部を下げ過ぎて土を噛んでしまった場合、搬送部の面に張り付いた土により、梱包対象が搬送部の面を滑れなくなります。その場合、面に張り付いた土をきれいに取り除かないと、必ず詰まります。

7. 作業速度を下げてください。

【重要】

- 刈取作業は副変速「標準」位置・主変速を最大にしても作業可能ですが、拾い上げ作業では副変速「標準」・主変速を低速にして、作業速度をかなり落として作業する必要があります。

8. 以降の作業は「1.ダイレクトカット収穫作業のしかた」(64ページ参照)と同じ要領で行ってください。

【参考】

- 刈落と同じ方向で拾い上げ作業をすると、作業効率が良くなります。

3. 警報装置が作動したときの処置のしかた

警告

● 詰まりなどを除去する場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。

	名 称	警報の方法	処 置	点検・整備
1	オーバーロード	ブザー	エンジン負荷が過負荷になっています。速度を落としてください。	
2	ペーラ満量	ブザー(断続)と同時にパトライト点灯	ペーラ内が満量になっています。収穫を中止してペーラを排出してください。	
3	チャージ	ランプ点灯	キースイッチが「入」位置で点灯し、エンジン始動と共に消えるのが正常です。運転中の点灯は、バッテリーへ充電されていません。充電回路の異常を調べてください。	● バッテリー充電。
4	油圧	◎	キースイッチが「入」位置で点灯し、エンジン始動と共に消えるのが正常です。運転中の点灯は、オイル量が正常か点検をしてください。	● オイル補給。
5	水温	◎	エンジンを停止し、冷却水が不足している場合は、エンジンが冷えてから補水してください。ベルトの状態に応じて、調節または交換してください。	● ラジエータファンベルトのゆるみ。 ● 水もれの有無。 ● エンジン防塵装置のゴミの掃除。

◎はランプ点灯と同時にブザーが鳴ります。

4. 自動装置について

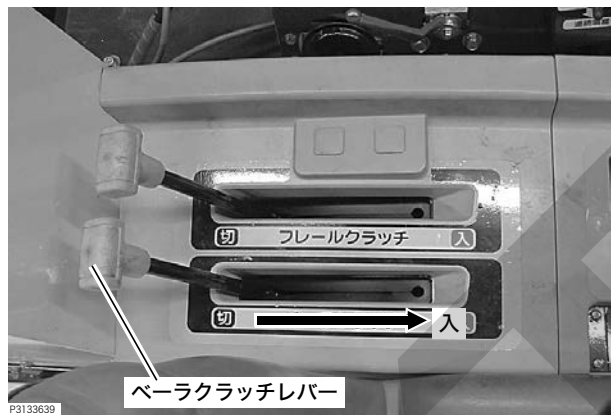
刈取作業を行う前に、自動装置について説明します。
自動装置を使って、能率の良い作業を行ってください。

刈取オートリフト・刈取オートセット装置

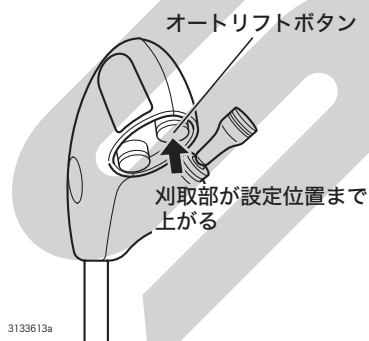
オートリフト・オートセットボタンを押すだけで、
設定している高さに刈取部が上昇・下降します。

〈操作のしかた〉

1. エンジンを始動してください。(40ページ参照)
2. ベーラクラッチレバーを「入」位置にしてください。



3. オートリフトボタンを押してください。
刈取部が設定位置まで上昇します。



【参考】

- 刈取オートリフト装置で刈取部が上昇中に刈高さ調節レバーを操作すると、手動操作が優先します。再度刈取オートリフトを行う場合は、オートリフトボタンを押してください。(自動復帰無し)

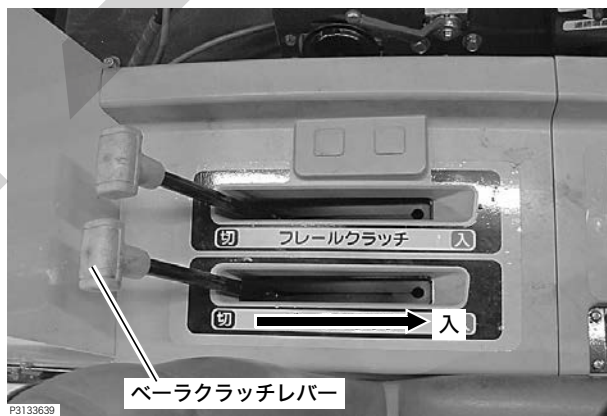
〈刈取オートリフト位置の設定のしかた〉

ボルトを緩め、スイッチベースをスライドさせることによりオートリフト時の高さを調整できます。



〈刈取オートセット装置の操作のしかた〉

1. エンジンを始動してください。(40ページ参照)
2. ベーラクラッチレバーを「入」位置にしてください。

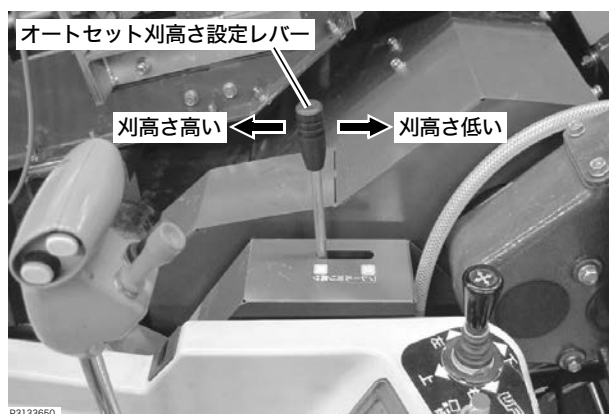


3. オートセットボタンを押してください。



〈刈取オートセット位置の設定のしかた〉

刈高さ設定レバーにより、オートセット位置を調節できます。

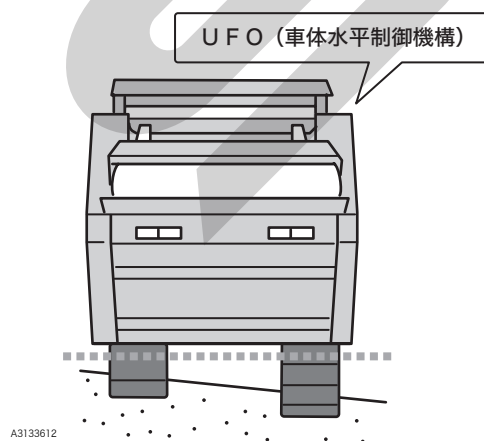


車高水平制御(UFO)装置

車高水平制御装置は、ほ場の条件が変化してもつねに本機を水平に保つ装置のことです。また、傾斜角調整ダイヤルにより、機体を希望の角度に調節できるので、精度の高い刈取作業が行えます。

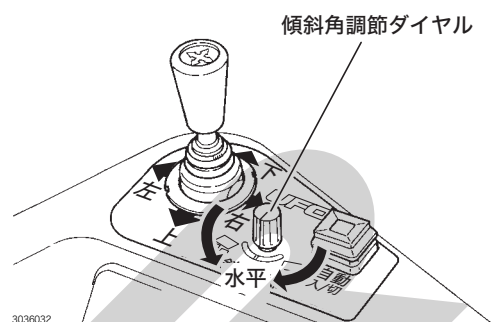
⚠ 注意

- 路上や傾斜地での走行、およびトラックなどへの積み・降ろしをする場合は、必ずペールクラッチレバー・フレールクラッチレバーを「切」位置にして、車高調節レバーで車高を最も低い位置にセットし、UFO自動スイッチを「切」(ランプ消灯)にしてください。機械が急に傾いて点灯し、ケガをするおそれがあります。

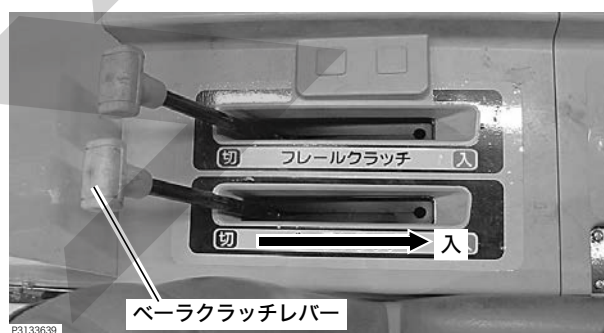


〈操作のしかた〉

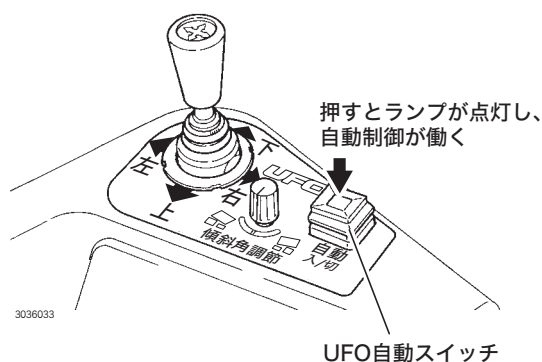
1. エンジンを始動してください。(40ページ参照)
2. 傾斜角調節ダイヤルを「水平」位置にしてください。



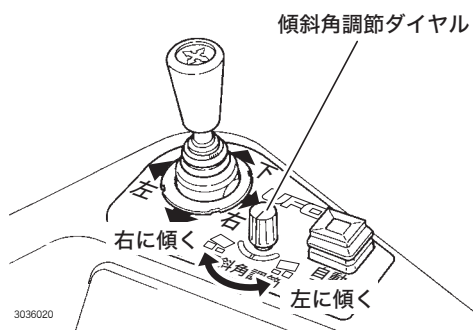
3. ペールクラッチレバーを「入」位置にしてください。



4. UFO自動スイッチを押して「入」(ランプ点灯)にしてください。本機を自動水平制御します。



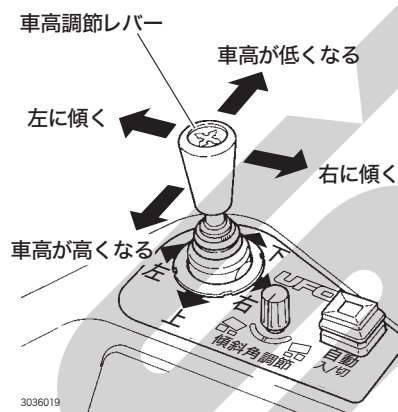
5. 本機を左に傾斜させたいときは、傾斜角調節ダイヤルをゆっくり  側へ回し、右に傾斜させたいときは  側へ回してください。



6. 本機の車高を調節するときは、車高調節レバーを前後に操作してください。
(このとき、水平制御は右側の車高（水平制御の基準高さ）を保持するように行われます。)

【参考】

- 車高水平制御装置には、手動優先回路が組み込まれているので、自動制御中でも車高調節レバーを操作すると、手動で機体の角度変更や昇降が行えます。



- 車高水平制御装置は、自動・手動ともに左右のクローラの高さを上下することで傾きを制御しています。

⚠ 注意

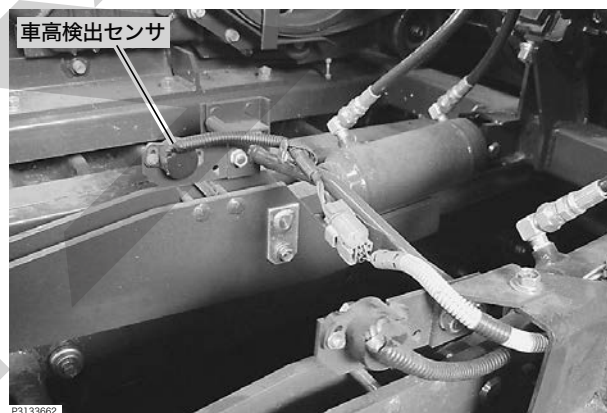
- ベーラクラッチレバーを「入」位置にしたり、UFO自動スイッチを「入」（ランプ点灯）にしたときに、機体が昇降することがあります。周りに障害物がないことを十分に確認してから操作を行ってください。

【参考】

- 車高調節レバーで本機の傾きを変えても、水平制御の基準となる高さは変わりません。

【重要】

- 車高検出センサにワラ・雑草がからんだり、泥が詰まっていると、適正な制御が行われないことがあるので、必ず取り除いてください。



- 本機を水洗いする場合は、スイッチ・パネル・コントローラ付近に水がかからないように注意してください。

自動定回転制御装置

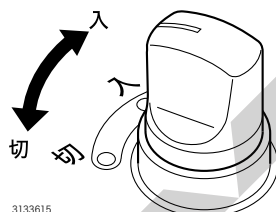
⚠ 注意

- 移動走行時およびトラックなどへの積み・降ろしの場合は、必ずベールクラッチレバー・フレールクラッチレバーを「切」位置にし、エコモード切替スイッチを「切」位置にしてください。車速がかってに変化することがあり、危険です。
- 自動定回転装置は、自動的にエンジン回転を液晶コンビネーションメータの回転計の目盛が「グリーンゾーン」位置（定格回転：2500rpm）に保つ制御装置です。

〈操作のしかた〉

「入」（自動定回転装置）

1. エンジンを始動してください。（40ページ参照）
2. エコモード切替スイッチを「入」位置にしてください。（自動的にエンジン回転が、定格回転（2500rpm）になります。）

**【重要】**

- 本機を水洗いする場合は、スイッチ・パネル・コントローラ付近に水がかからないように注意してください。

⚠ 危険

- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、燃料を抜いたり、注油・給油を絶対にしないでください。燃料などに引火して、火災の原因になります。
- 燃料補給や燃料を抜くときは、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。燃料に引火して、火災を起こすおそれがあります。
- 燃料補給や燃料を抜いた後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと、火災やヤケドの原因になります。
- エンジンが熱い間は、シートなどを絶対にかけないでください。火災の原因になります。

⚠ 警告

- 点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。機械に巻き込まれてケガをするおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、平坦で安定した場所で行ってください。本機が転倒するなど、思わぬ事故の原因になります。

⚠ 注意

- 点検・整備をするときは、過熱部分が十分冷めてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

1. 機体の洗浄のしかた

その日の内に本機を水洗いし、水洗い後は下記に従って、掃除を行ってください。

- 回転部に巻き付いているゴミを取り除く。
- 水分をよくふき取る。
- 油をしみこませた布で清掃する。
- サビやすい所に防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗る。
※ 作物が通過する箇所は、食品機械用潤滑スプレーの使用を推奨します。
- チェン・ワイヤー類、および回転部や摺動部に注油・グリスアップをする。(80～82ページ参照)

【重要】

- 水洗いをするときは、エンジン部・電装品に水をかけないでください。故障の原因になります。
- 冷却水交換で出た廃液は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておく、と、環境汚染につながります。廃液の処分は、特販店、またはJAにご相談ください。

2. 各部の掃除のしかた

- 機械に付着している茎葉・土砂・石などを取り除いてください。
- ボルト・ナット・ピン類のゆるみ・脱落がないか、また、破損部品がないか確認してください。異常があればボルト・ナットの増し締め・部品交換をしてください。
- 作業前または、作業後には必ず「注油箇所一覧表」（80ページ参照）に基づいて注油してください。

ベアラ内の掃除のしかた

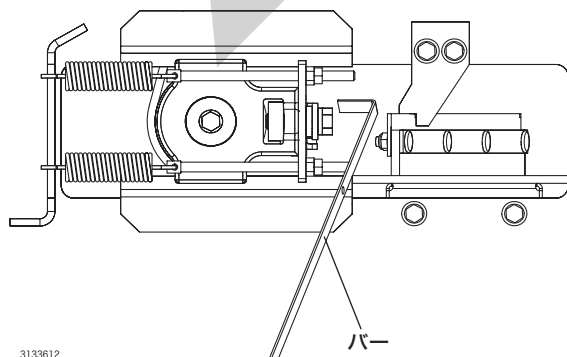
カバーをオープンして掃除してください。掃除が終わったら、本機を元通りにしてください。

〈ベアラ空回しのしかた〉

1. エンジンを始動してください。（40ページ参照）
2. ベアラクラッチレバーを「入」位置にしてください。
3. アクセルレバーを「高」位置にし、エンジン回転を回転計の「2500rpm」にしてください。
4. ゲート開閉ロックレバーを「開」位置にし、ゲート開閉レバーを「開」位置にし、ゲートを開けてください。
5. ゲート開閉ロックレバーを「閉」位置にします。

〈成形ベルト内の掃除のしかた〉

1. エンジンを停止してください。
2. ベアラのフロント側面及びゲート側面の成形ベルトテンション部の穴より、付属のバーを使用してベルト内部に入り込んだ飼料を排出してください。



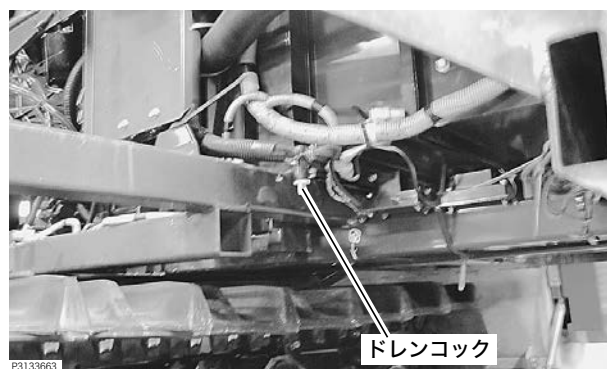
3. 格納のしかた

警告

- 格納するときは、バッテリーを本機から取り外し、キーを抜いて保管してください。守らないと、事故を起こすおそれがあります。

【重要】

- 各部にこく粒やワラクスが残っていると、ネズミの巣になったり、配線部をかじられて、次の年の作業に差し支えますので、きれいに掃除してください。
- 直射日光や雨水のあたらない、風通しのよい屋内に置いてください。
- クローラの下に板を敷いてください。
- 各操作レバーを「切」位置、または「N」（中立）位置にしてください。
- センサソリ調節レバーを「収納」位置にしてください。
- 刈取部をいっぱいに下げてください。
- 外部のサビやすい部分には、防錆油またはエンジンオイル・グリスを塗ってください。
- エアクリーナー・マフラー・エンジンオイル給油口などから湿気が入らないように、ポリエチレンなどの袋で密閉してください。
- 燃料タンクに燃料を満タンにしてください。空にしておきますと水滴ができ、サビの原因になります。
- 冷却水のドレンコックから冷却水を完全に抜き取ってください。



【参考】

- 不凍液を入れた冷却水でも、 -30°C 以下になると凍るおそれがあります。（88・89ページ参照）

⚠ 警告

- 点検・整備・調節をするときは、交通の危険がなく、平坦で安定した場所で行ってください。守らないと、機械が転倒するなど、思わぬ事故の原因になります。
- 点検・整備をするときは、エンジンを停止し、駐車ブレーキを掛け、各レバーを「切」位置にして、回転部の停止を確認して行ってください。守らないと、回転部に巻き込まれたり、重大な事故の原因になります。
- 室内で点検・整備をするときは、換気を十分に行ってください。エンジンの排気ガスで中毒を起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 点検・整備をするときは、高温部分が十分に冷めてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。
- カバーを取り外して点検・整備したときは、必ずカバーを元通りに取り付けてください。元通りに取り付けないと、回転部に巻き込まれたり、傷害事故を起こす原因になります。

【重要】

- 廃油・燃料・冷却水・溶剤・フィルタ・バッテリー・その他有害物の地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃棄するときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
- 複数で作業するときは、安全を確保するために、キースイッチのキーを抜いてください。

1. 定期点検・整備の時期について

シーズン中でも、点検整備が必要な使用時間や状態になったら、定期点検一覧表や主要消耗部品のリストを参考に整備を行ってください。また、定期点検や整備は、農閑期に行われることをお勧めします。農閑期に行いますと、農繁期には機械の性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故を未然に防止するため、1シーズンごとに整備工場での定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。

特に、燃料パイプやラジエータホースなどのゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常に機械を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

2. 定期点検一覧表

下表は、定期点検一覧表を示しています。主要消耗部品を含めた点検・交換時期の目安は、120ページを参照してください。



テンションバネフック長は、両端フックの内寸法を示します。

点検・調節箇所	規定量	内容	点検・交換時期	参照ページ
エンジンオイルエレメントの交換	—	—	1回目:50時間または1シーズン後 2回目以降:オイル交換2回ごと	90
HSTフィルターの交換	—	—	1回目:50時間または1シーズン後 2回目以降:ミッションオイル交換ごと	90
ウォーターセパレータエレメントの点検・洗浄	—	—	毎日(点検) 100時間ごと(洗浄)	91
燃料コシ器エレメントの交換	—	—	100時間ごと(点検) 200時間ごと(交換)	91
エアクリーナーエレメントの掃除と交換	—	—	50時間ごと(掃除) 300時間後と(交換)	93
ロータリースクリーン吸引ファンベルト	73~77mm	テンションバネフック長	—	
冷却ファンベルト (ジェネレータ駆動ベルト)	10~15mm	指で押したときのたわみ量	—	99
ミッション駆動ベルト	256~260mm	コイルバネのセット長	—	100
駐車ブレーキワイヤー	102~106mm	テンションバネフック長	—	101
クローラ	15~20mm	シャーシをジャッキアップしたとき、クローラと転輪のすき間	—	101
各プーリセットボルトの増締	—	スパナで増締	10ヘクタールごと(点検)	
フレール駆動ベルト	159~161mm	テンションバネフック長	—	99
ペーラ駆動ベルト	151~155mm	テンションバネ長		100
フレールカッターの研磨	—	本機より取り外して研磨	5ヘクタールごと(点検)	107
フレール駆動ケースベルト テンションバネ	132~134mm	テンションバネフック長		104
フレール駆動ケースベルト もどしバネ	96~98mm	テンションバネフック長		105
フレールベルト	36~40mm	テンションバネ長		104
メイン駆動チェン	65~70mm	テンションバネ長		103
フロント駆動チェン	65~70mm	テンションバネ長		103
ゲート駆動チェン	65~70mm	テンションバネ長		103
ロールペーラ駆動ベルト	203~207mm	バネフック長		
ネット繰出しベルト	—	テンションバネが少し伸びる状態		

注油箇所

No.	注油箇所	箇所	潤滑油の種類	注油時間	備考
1	ゲート支点	4	グリス	使用ごと	グリスニップル
2	ベアリングユニット	9	グリス	使用ごと	グリスニップル
3	ベアラ駆動チェーン	1	ギヤオイル	使用ごと	注油
4	パッケージ駆動チェーン	1	ギヤオイル	使用ごと	注油
5	メイン駆動チェーン	1	ギヤオイル	使用ごと	注油
6	フロント駆動チェーン	1	ギヤオイル	使用ごと	注油
7	ゲート駆動チェーン	1	ギヤオイル	使用ごと	注油
8	チェーンテンションアーム支点	4	グリス	使用ごと	グリスニップル
9	ベルトテンションアーム支点	2	グリス	使用ごと	グリスニップル
10	テンションレール	12	グリス	使用ごと	注脂
11	テンションギヤ	1	エンジンオイル・ギヤオイル	使用ごと	注油
12	ナイフアーム支点	2	グリス	使用ごと	グリスニップル
13	リセットアーム支点	1	グリス	使用ごと	グリスニップル
14	ストッパ	1	グリス	使用ごと	グリスニップル
15	刈取部回動支点	6	グリス	使用ごと	グリスニップル
16	センサーソリ調節レバー・ロッド支点	7	エンジンオイル・ギヤオイル	使用ごと	注油
17	シャーボルト部スプロケット	1	グリス	使用ごと	グリスニップル
18	ローラ軸端	2	グリス	使用ごと	グリスニップル
19	ネットブレーキロッド	1	グリス	使用ごと	グリスニップル
20	トラックローラ、アイドラ関係	—	グリス	使用ごと	グリスニップル
21	スイングアーム	8	グリス	使用ごと	グリスニップル

※注油箇所については、次項のNo.の位置を参照してください。

グリスアップ箇所は  印、注油箇所は  印で示しています。

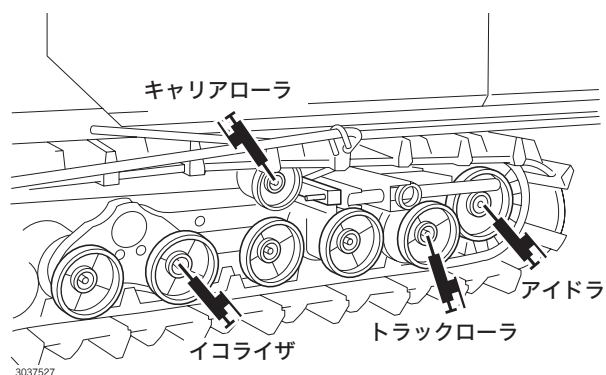
【重要】

- 注油・塗布する油は、清浄なものを使用してください。
- グリスを給脂する場合は、古いグリスが排出され新しいグリスが出るまで行ってください。
- 出荷時には、十分注油してありますが使用前に確認してください。

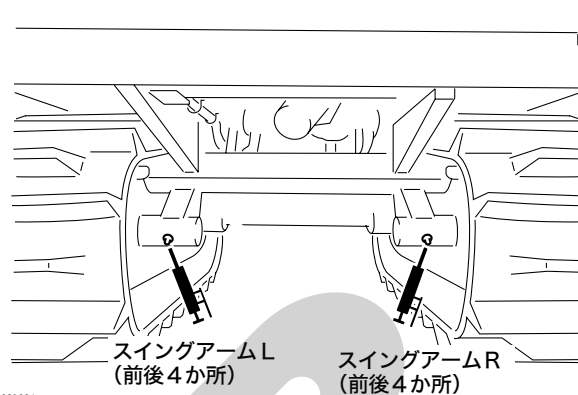
【参考】

- その他、回転・回動支点の摺動部には、適時オイルを適量に注油してください。
- オイルの種類
83ページの表を参照してください。

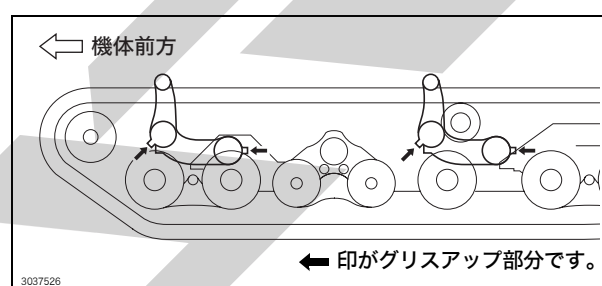
20 トラックローラ・アイドラ関係



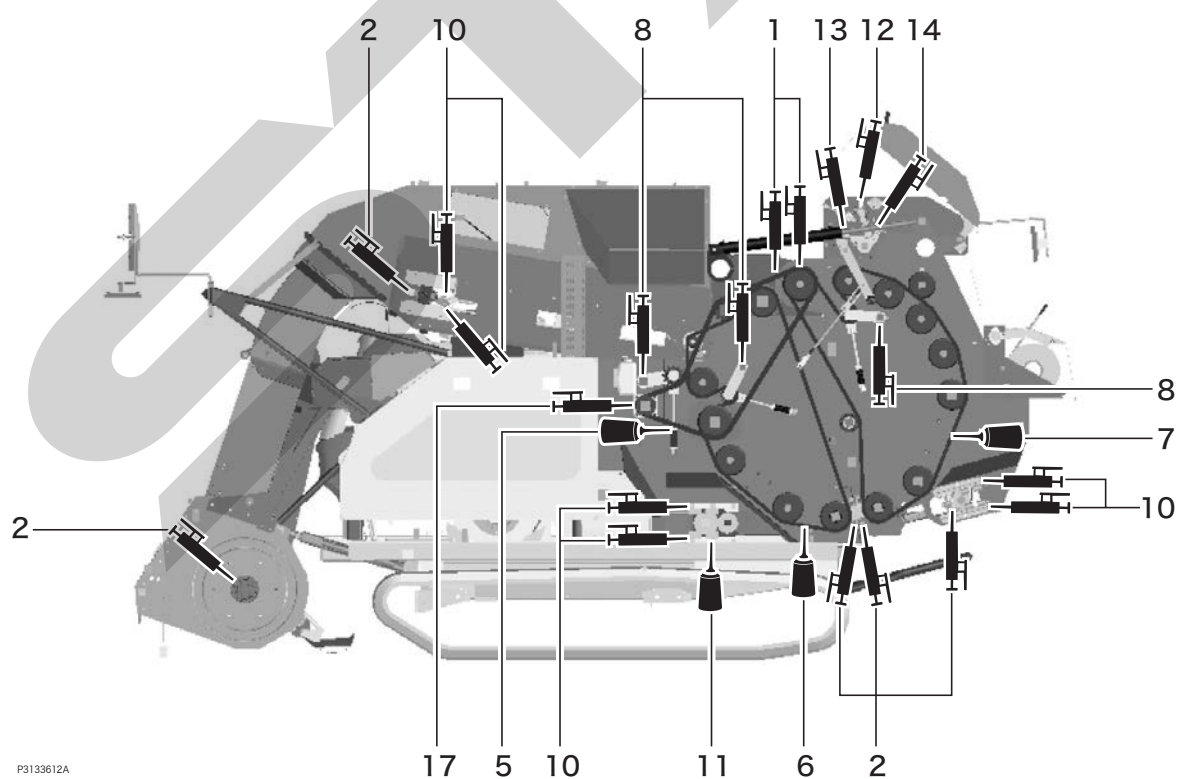
21 スイングアーム



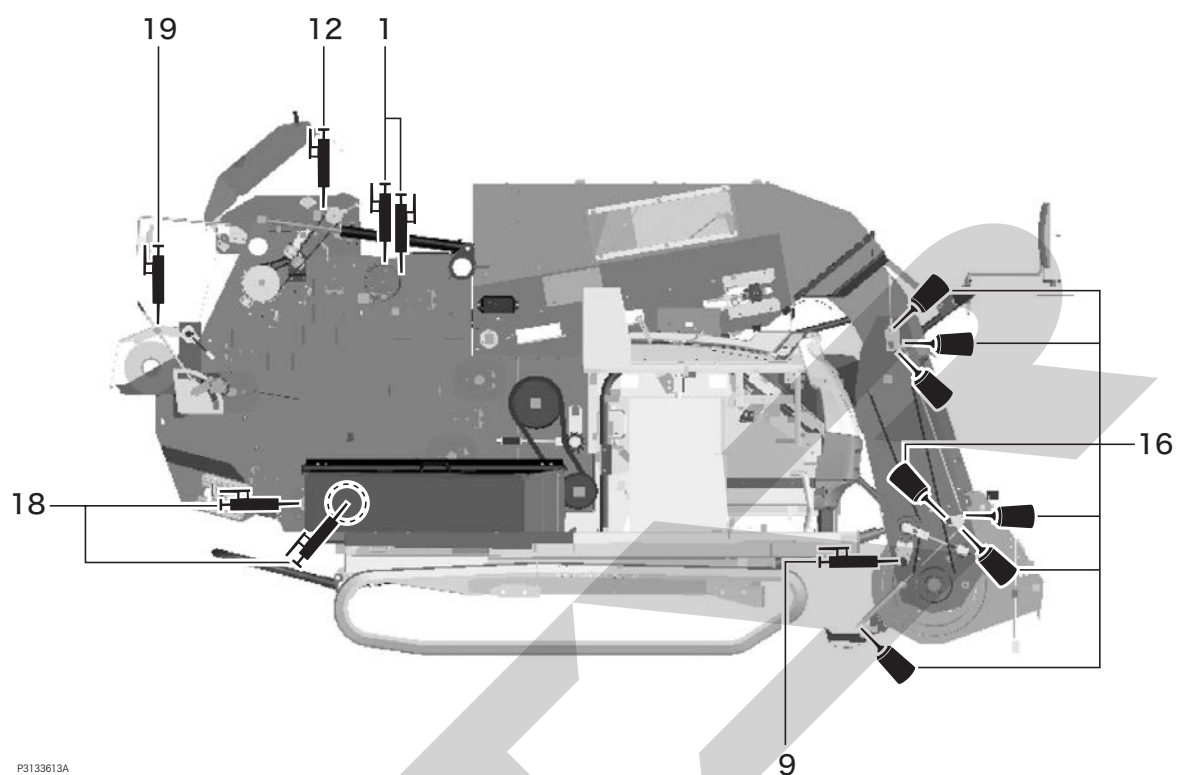
※図は、機体後方から見ています。



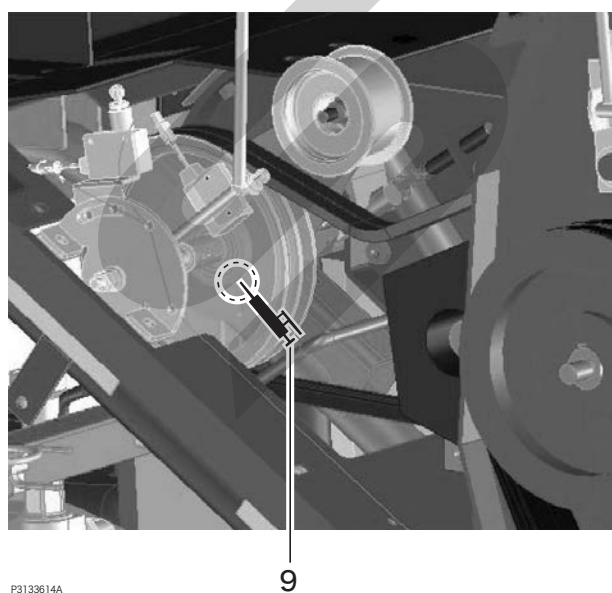
ベアラ部左



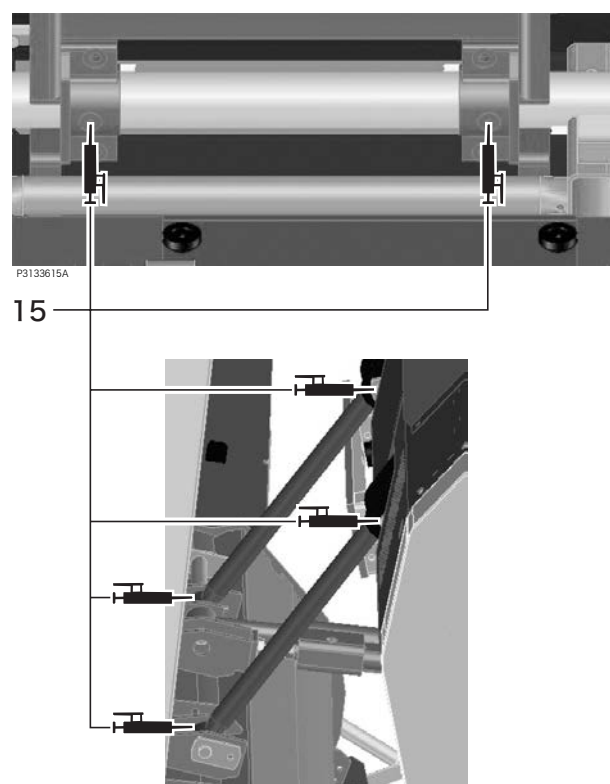
ベアラ部右



刈取部右



エンジン部上



3. オイル・グリス・不凍液一覧表

燃 料	一般販売店の相当オイル	
	ENEOS	コスモ石油
	ディーゼル軽油 (JIS 2号)	
エンジンオイル (API分類CF級以上)	ディーゼルエンジン用 SAE10W-30相当品 (API分類 CF級以上)	
グリス (マルチパーパスタイプ)	エピノックグリス AP2	コスモグリス ダイナマックスEP2
不凍液 (JIS K2234 2種パーマネントタイプ)	アンチフリーズPT	アンチフリーズPT (ゴールド、シルバー)
ミッションオイル (油圧・HSTオイル兼用)	トランスミッションフルードTF-300	
ギヤオイル (ペーラ駆動ケース、フレール駆動ケース、自動注油タンク)	ギヤオイル90番またはVG220	

4. 給油・給水一覧表

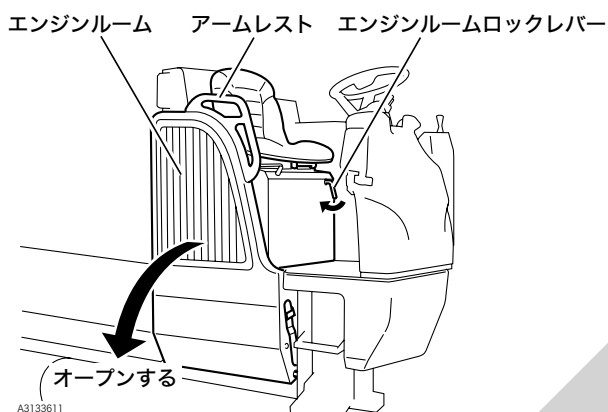
項 目		給油・給水量	種 類	交換時期	参照 ページ
燃料		73 L	ディーゼル軽油	作業前	85
冷却水	ラジエータ	7.7 L	清水・不凍液	1年ごと	88・89
	サブタンク	1.1 L	清水・不凍液	1年ごと	88・89
エンジンオイル		7.5 L	ハイパーロイヤルオイル 10W-30(CF級)	1回目:30時間または1シーズン後 2回目以降:100時間ごと、 または1シーズンごと	85
ミッションオイル		7.8 L	トランスミッション フルードTF-300	1回目:50時間または1シーズン後 2回目以降:300時間ごと、 または2年ごと	86
ペーラ駆動ケース		1.0 L	ギヤオイル90番またはVG220	300時間ごと	88
フレール駆動ケース		0.7 L	ギヤオイル90番またはVG220	300時間ごと	88
自動注油タンク		1.5 L	ギヤオイル90番またはVG220	作業前	106

[重要]

- 定期点検を実施するとともに、オイルの交換は純正（指定）オイルをご使用ください。
- オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。廃油の処分は、特販店、またはJAにご相談ください。

5. エンジンルームカバーのオープンのしかた

1. 左手でアームレストを持ってください。
2. 右手でエンジンルームロックレバーを「開」(解除) 方向に引きながら、エンジンルームを矢印方向にオープンしてください。
3. 収納は、エンジンルームを閉めると自動的にロックされます。



【参考】

- エンジンルームを閉めたときは、サイドコラムとシートコラムの間にすき間が無く、ロックが確実にできているか確認してください。

【重要】

- エンジンルームをオープンするときは、完全にオープンするまでアームレストを持ってください。オープンの途中で手を離すと、エンジンルームの変形の原因になります。

6. 燃料の点検・補給のしかた

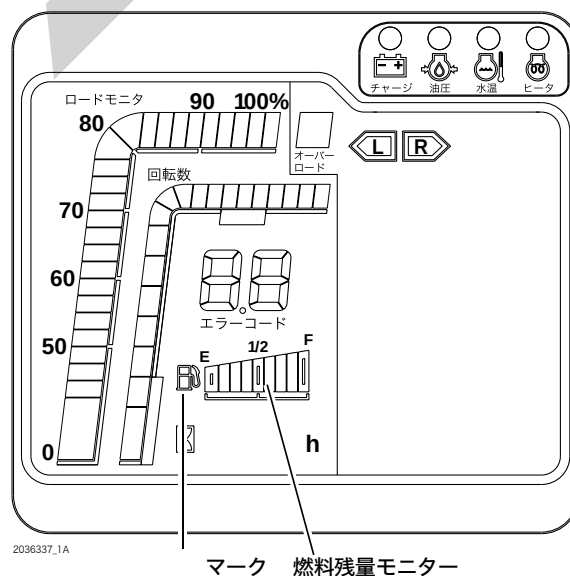
⚠ 危険

- 燃料の点検・補給をするときは、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。燃料に引火して、火災を起こす原因になります。
- 燃料の補給をしたときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと、火災やヤケドの原因になります。

燃料の残量点検のしかた

燃料の残量は、キースイッチを「入」にして、液晶コンビネーションメータの燃料残量モニターで確認してください。

燃料の残量が少なくなったときは、マークが点滅し、ブザーが断続的に鳴ります。ブザーを止めるときは、ブザー停止ボタンを押してください。ブザーは鳴り止みますが、マークは点滅したままです。



燃料の補給のしかた

燃料キャップを取り外し、燃料を、フィルターから液面が見え始めるまで補給してください。



⚠ 注意

- 燃料を補給するときは、燃料フィルターを必ず装着してください。燃料フィルターを外したまま燃料を補給すると、配管内で異物が詰まり、出力低下やエンジンストップの原因になるおそれがあります。

【重要】

- 燃料補給は、給油口のフィルター下方に液面が見えてきたら、給油をやめてください。守らないと、冬季など燃料の温度が低いときに、燃料を給油口いっぱいまで入れていると、気温の上昇とともに膨張し、ブリーザパイプからもれることがあります。

7. オイルの点検・補給・交換のしかた

【重要】

- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルター・バッテリー・その他有害物を捨てる時は、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
- オイルや燃料をクローラおよびエンジン防振ゴムにかけないようにしてください。もしオイルがかかったときは、十分に洗浄してください。そのままにしておくと、クローラやエンジン防振ゴムの劣化や寿命が短くなるおそれがあります。

エンジンオイル

エンジンオイルの点検・補給・交換は、エンジン始動前か、エンジンが冷えているときに行ってください。作業は、エンジンルームをオープンしてから行ってください。

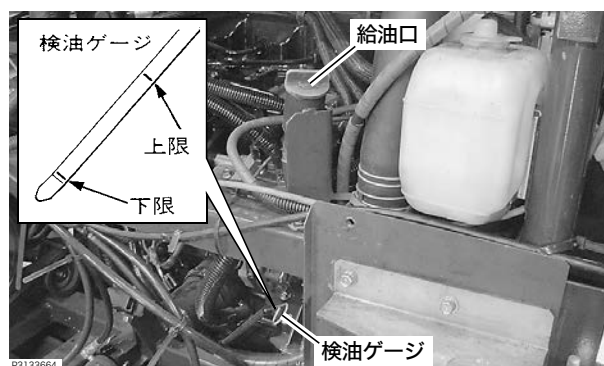
作業終了後は、元通りにセットしてください。

〈点検のしかた〉

1. ベーラ右サイドカバーを外してください。
2. 検油ゲージを抜いて、先端をきれいに拭き取ってください。
3. 検油ゲージを元通りに差し込んだ後、もう一度抜き出して、ゲージの上限と下限の間にオイルがあることを点検してください。

【参考】

- 点検時、オイルもれのないことも確認してください。



〈補給のしかた〉

オイルが不足している場合は、給油口から規定量になるまで補給してください。

〈交換のしかた〉

1. ドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。
2. 給油口のふたを外した後、ドレンプラグを取り外してください。古いオイルが流れでてきます。

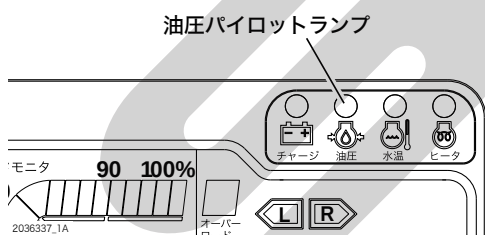
【参考】

- 給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。

3. 古いオイルが抜け切ったら、ドレンプラグを元通りに取り付けてください。



4. 給油口から、エンジンオイルを規定量まで給油してください。
5. 給油口にフタを取り付けてください。
6. エンジンを始動し、油圧パイロットランプが消えるまで、低速回転で回してください。



7. 油圧パイロットランプが消えたら、エンジンを停止し、約5分間待ってください。
8. 検油ゲージでオイル量を点検してください。不足している場合は、補給してください。

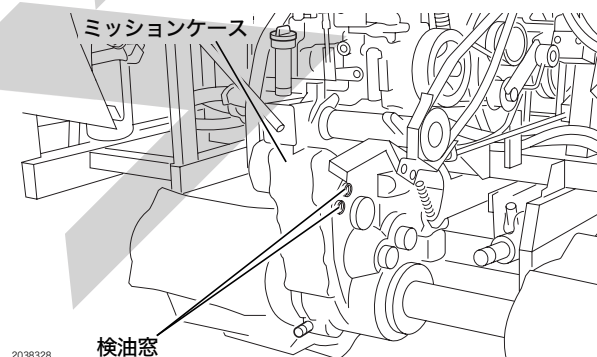
ミッションオイル

ミッションオイルの点検・補給・交換は、刈取部を最上げ状態にして、刈取部昇降ロックレバーを「閉」位置にし、刈取部が下らないようにロックしてから行ってください。

作業終了後は、元通りにしてください。

〈点検のしかた〉

1. 機体を水平にしてください。
2. 刈高さ調節レバーを「上昇」側にしてください。刈取部を最上位置にします。
3. ミッションケース左側面にある検油窓を点検してください。2つの検油窓のうち、下側の窓がオイルで満たされていれば規定量です。



検油窓の見かた

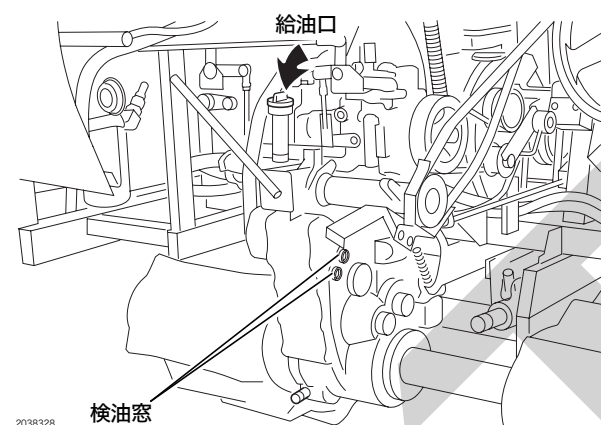
H	H	H	H	H
L	L	L	L	L
不足です	下限です	中央値	上限です	入れ過ぎ
適正範囲				

【参考】

- 上側の検油窓は、入れ過ぎ防止のために設けてあります。
- 点検時、オイルもれのないことを確認してください。

〈補給のしかた〉

オイルが不足している場合は、ルーム枠前カバーを外して、給油口から規定量（下側の検油窓がオイルで満たされる量）まで補給してください。



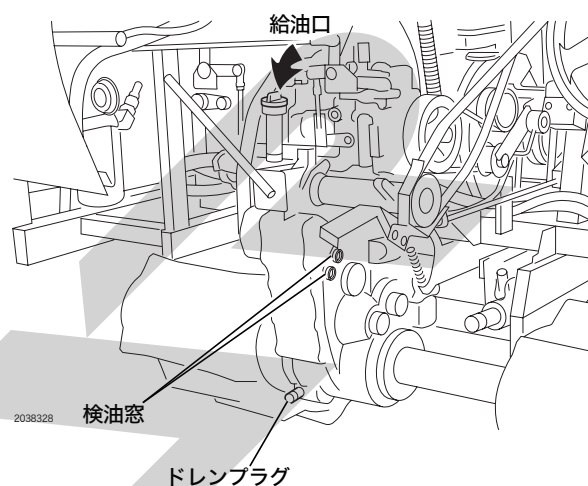
〈交換のしかた〉

1. ミッションケース下部のドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。
2. 給油口のふたを外した後、ドレンプラグを取り外してください。古いオイルが流れ出てきます。

【参考】

- 給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。

3. 古いオイルが抜け切ったら、ドレンプラグを元通りに取り付けてください。
4. 給油口からミッションオイルを給油してください。下側の検油窓がオイルで満たされれば規定量です。
5. 検油ボルトと給油口のふたを取り付けてください。

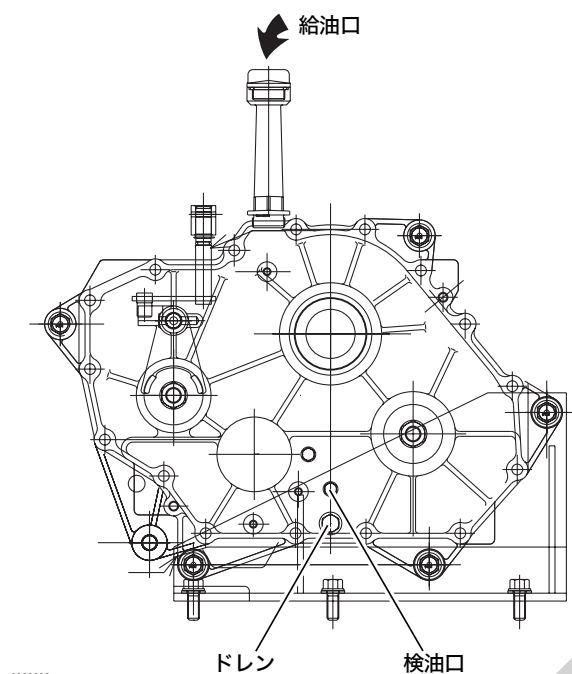


【重要】

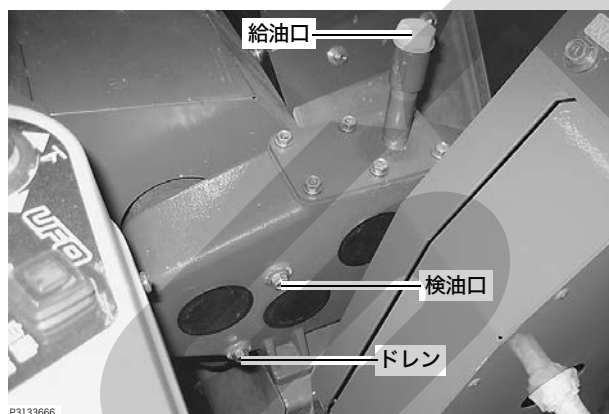
- オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。廃油の処分は、特販店、またはJAにご相談ください。
- ミッションオイルの交換後は、前述の「点検のしかた」に従って、オイルが規定量あるか確認してください。

その他の給油箇所

ペーラ駆動ケース



フレール駆動ケース



8. 冷却水の点検・補給・交換のしかた

⚠ 警告

- ラジエータキャップは、エンジン運転中や停止直後には絶対に開けないでください。開けると熱湯が吹き出し、ヤケドするおそれがあります。エンジンの停止後、30分以上経過し、エンジンが冷えてからラジエータキャップを徐々にゆるめ、蒸気の圧力を抜いて開けてください。

冷却水の点検・補給・交換は、エンジンルームをオープンして（35ページ参照）から行ってください。作業終了後は、元通りにセットしてください。

〈点検のしかた〉

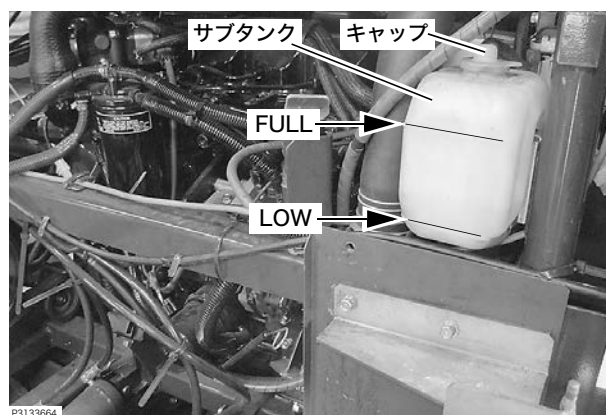
サブタンク内の冷却水が「FULL」「LOW」の範囲内にあるか点検してください。

【参考】

- 点検時、水もれのないことも確認してください。

〈補給のしかた〉

冷却水が不足している場合は、サブタンクのキャップを外し、きれいな水道水を補給してください。



〈交換のしかた〉

1. ラジエータキャップを取り外してください。



2. ドレンコックを取り外し、ラジエータ内の水をすべて抜いてください。
3. 水道水でゴミやサビが出なくなるまでラジエータ内を洗います。

【参考】

- ラジエータ内をきれいにしたいときは、ラジエータ洗浄剤を混合した水をラジエータに入れ、15分以上エンジンを空回転してから水を抜き取ってください。
4. ドレンコックを元通りに取り付け、不凍液を必要量入れた後、水道水をあふれるまで入れてください。
 5. ラジエータキャップを取り付けてください。
 6. エンジンを始動し、5分間エンジンを空運転して、不凍液の混合を早めてください。
 7. エンジン停止後、再度サブタンク内の冷却水量が規定量あるか確認してください。

〈不凍液の取扱いについて〉

- 不凍液は、水の凍結温度を下げる効果があります。不凍液の混合比によって凍結温度がことなりますので、厳寒地帯などでは下記の表を参考にして、安全な濃度で使用してください。

不凍液混合率表

外気温度(℃)		-5	-10	-15	-20	-25	-30
比率	水(%)	85	75	70	65	60	55
	不凍液(%)	15	25	30	35	40	45

- 冷却水が自然に不足した場合は、水道水だけを入れてください。また、パーマネントタイプを使用しているときは、比重を測定して確認してください。
- 不凍液の有効期限は1年です。毎年、新しい不凍液と交換してください。

【重要】

- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・溶剤・フィルター・バッテリー・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

9. エンジンオイルエレメントの交換のしかた

エンジンオイルエレメントは、エンジンオイル内の小さな異物をこし取るものです。カートリッジタイプになっていますので、掃除ができません。定期的に交換してください。

作業終了後は、元通りにセットしてください。

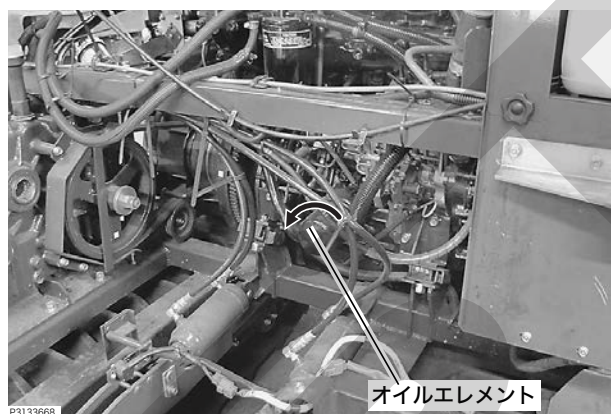
【参考】

- エンジンオイルエレメントの交換と同時に、エンジンオイルの交換も行ってください。

〈交換のしかた〉

エンジンオイルエレメントの交換は、エンジンオイルを抜き取った後に行ってください。

1. オイルエレメントを、矢印方向（左）に回して取り外してください。



2. 新しいオイルエレメントの底面にあるゴムリングに、オイルを塗布してください。
3. オイルエレメントを、ゴムリングがエンジンケースに接触する位置までねじ込んだ後、2/3回転締め付けてください。

【重要】

- 交換後は、オイルエレメント取付面からのオイル漏れやにじみがないか、必ず点検してください。
- エンジンオイルエレメントは、純正部品をご使用ください。

10. HSTフィルタの交換のしかた

HSTオイルは、ミッションオイルと兼用しています。HSTフィルタは、カートリッジタイプになっていますので、掃除ができません。定期的に交換してください。

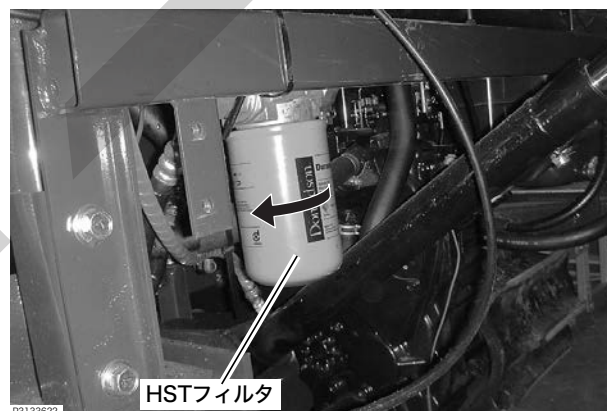
【参考】

- HSTフィルタの交換と同時に、ミッションオイルの交換も行ってください。（86ページ参照）

〈交換のしかた〉

HST フィルタの交換は、ミッションオイルを抜き取った後に行ってください。

1. ルーム枠前カバーを取り外してください。
2. HST フィルタを、左方向に回して取り外してください。



3. 新しいHSTフィルタの底面にあるゴムリングにオイルを塗布してください。
4. HST フィルタを、ゴムリングがミッションケースに接触する位置までねじ込んだ後、2/3回転締め付けてください。

【重要】

- 交換後は、HSTフィルタ取付面からオイルもれやにじみがないか、必ず確認してください。
- HSTフィルタは、純正部品をご使用ください。

11. ウォータセパレータエレメントの点検・掃除・交換のしかた

作業は、ルーム枠カバーをオープンしてから行ってください。

作業終了後は、元通りにセットしてください。

〈点検のしかた〉

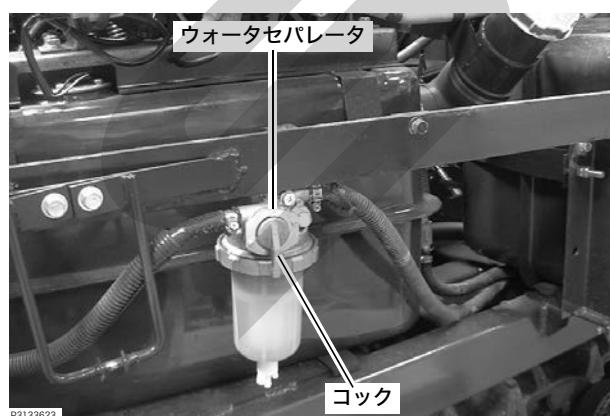
1. エンジンの後部左方に付いている透明容器が燃料コシ器です。
ルーム枠左のシャーシについている容器がウォータセパレータです。
2. コシ器にゴミや水が沈殿していないか点検してください。沈殿していたら、下記の要領で掃除をしてください。

〈掃除のしかた〉

1. 燃料コシ器とウォータセパレータのコックを「閉」位置にしてください。
2. コシ器カップとエレメントを取り外し、水・ゴミを取り除いてください。
3. コシ器の洗浄が終わったら、エレメントとコシ器カップを元通りに取り付けてください。

【重要】

- 空気が入ったときは、燃料のエア抜きをしてください。(92ページ参照)



〈交換のしかた〉

コシ器内のエレメントは、300時間ごとに交換が必要です。

要領は、掃除のしかたと同じです。前記 2. のときに、エレメントを交換してください。

12. 燃料コシ器エレメントの交換のしかた

燃料コシ器エレメントは、燃料内の小さな異物をこし取るものです。カートリッジタイプになっていますので、掃除ができません。定期的に交換してください。

作業終了後は、元通りにセットしてください。

〈交換のしかた〉

1. オイルエレメントを、左方向に回して取り外してください。
2. 新しいオイルエレメントの底面にあるゴムリングに、オイルを塗布してください。
3. オイルエレメントを、ゴムリングがエンジンケースに接触する位置までねじ込んだ後、2/3回転締め付けてください。

【重要】

- 交換後は、オイルエレメント取付面からのオイル漏れやにじみがないか、必ず点検してください。
- 燃料コシ器エレメントは、純正部品をご使用ください。

⚠ 注意

- マフラに燃料がかからないように注意してください。万一、マフラに燃料がかかった場合は、ウエスなどで拭き取ってください。守らないと、火災の原因になります。

13. 燃料タンクのドレン抜きのしかた

燃料タンクの底部には、水やゴミが沈殿しています。これらの沈殿物が燃料ポンプに入ると、不具合の原因になりますので、定期的に取り除いてください。

〈ドレン抜きのしかた〉

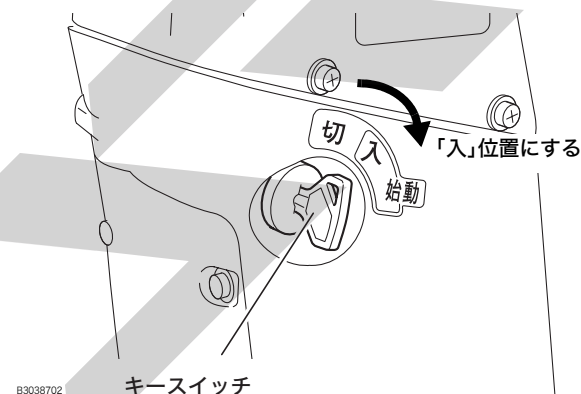
1. 燃料タンク下部にあるドレンボルトの下に、燃料を受ける容器を置いてください。
2. ドレンボルトを取り外してください。燃料が流れ出て、タンク内の沈殿物が排出されます。
3. 排出後、ドレンボルトを取り付けてください。
4. 燃料キャップを取り外し、燃料を補給してください。(84・85ページ参照)

14. 燃料の空気(エア)抜きのしかた

燃料タンクが空になったり、燃料系統に空気が入るとエンジンは止まります。下記の要領で空気抜きをしてください。

〈空気(エア)抜きのしかた〉

1. 燃料を満タンにしてください。
2. キースイッチを「入」位置にしたまま20～30秒待ち、「始動」位置にしてください。自動的に空気抜きが行われ、エンジンが始動します。



15. エアクリーナエレメントの掃除・交換のしかた

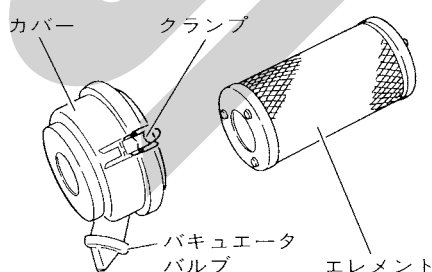
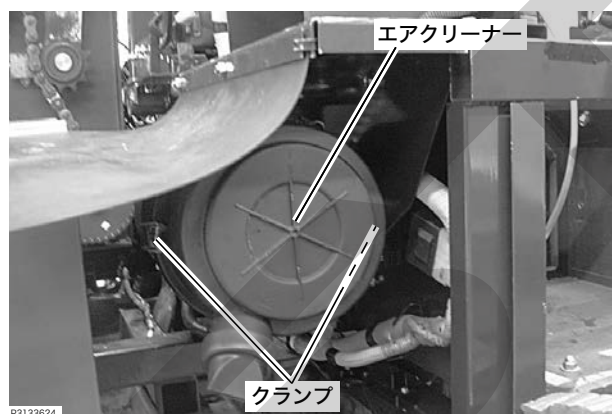
エアクリーナーは吸入された空気に含まれている砂塵を取り除き、シリンダライナやピストンリングの磨耗を防ぐ装置です。

50アールごとに掃除をし、10ヘクタールごとまたは1シーズンごとにエレメントの交換をしてください。作業は、エンジンルームをオープンしてから行ってください。(35ページ参照)

作業終了後は、元通りにセットしてください。

〈掃除・交換のしかた〉

1. カバーのクランプを外して、エレメントを取り出してください。
2. エレメントは、内側から空気 (7kg/cm² 以下) を吹きつけてください。
3. 取り付けるときは、取り外しの逆手順で行ってください。



【重要】

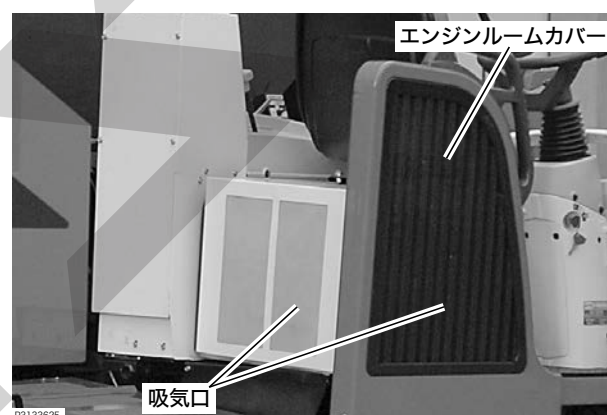
- エレメントを交換するときは、純正部品をご使用ください。

16. 吸気口・ラジエータスクリーン・ラジエータフィン・オイルクーラフィンの掃除のしかた

吸気口・ラジエータスクリーン・ラジエータ冷却フィンは、エンジンの防塵装置です。冷却風を吸入する大切な装置ですから、作業前・作業後には必ず掃除をしてください。

吸気口の掃除のしかた

吸気口の網面にゴミが付着したときは、エンジンを停止してから、軽く網面をこすってゴミを落としてください。



〈エンジンルーム内の掃除のしかた〉

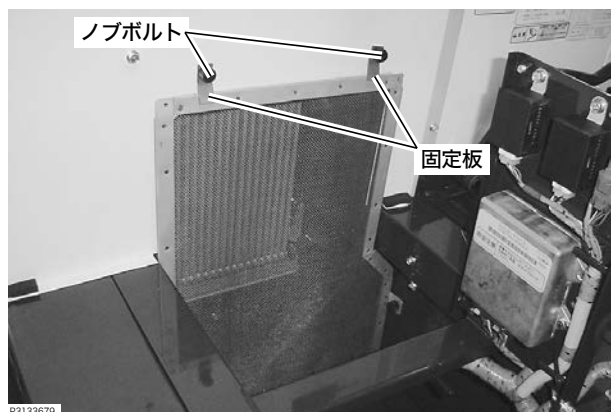
1. エンジンルームをオープンしてください。
2. エンジンルームカバー内に溜まっているゴミを取り除いてください。

【重要】

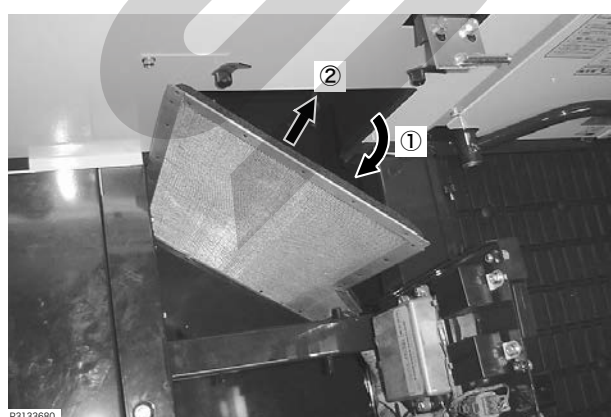
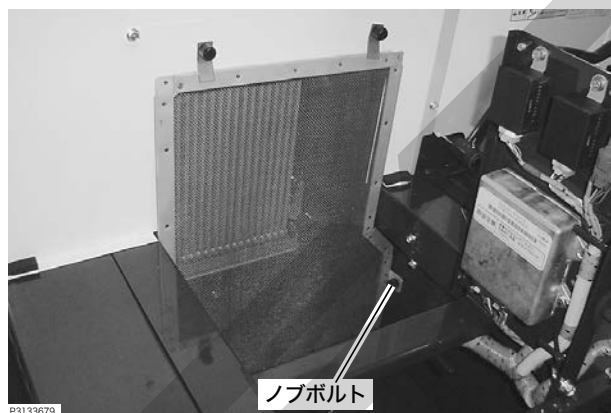
- 網面へのゴミの付着にはいつも注意し、ゴミが付着していれば、掃除するようにしてください。ゴミが付着したままにしておくと、エンジンの冷却水およびミッションオイルの冷却水およびミッションオイルの冷却不良の原因になります。

ラジエータスクリーンの掃除のしかた

1. エンジンルームをオープンしてください。
(35ページ参照)
2. ラジエータスクリーン上部のノブボルト 2 本をゆるめ、固定板をずらします。



3. ダクト前方壁下部のノブボルト1本を外し、ラジエータスクリーンを回し引き上げて取り外してください。



4. ラジエータスクリーンに付着したワラクズやホコリを、払い落としてください。

5. きれいに掃除した後、ラジエータスクリーンを元通りに取り付けてください。
6. エンジンルームを閉じてください。

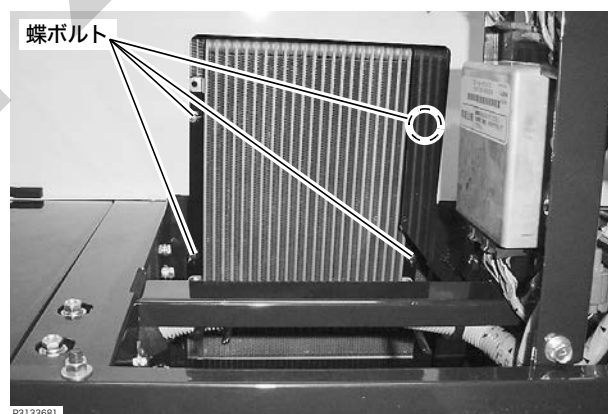
【重要】

- ラジエータスクリーンへのゴミの付着にはいつも注意し、ゴミが付着していれば掃除するようにしてください。ゴミが付着したままにしておくと、エンジンの冷却水の冷却不良の原因になります。

オイルクーラフィン・ラジエータ冷却フィンの掃除のしかた

粉塵が特に多い場合は、下記の要領でラジエータ冷却フィンを掃除してください。

1. エンジンルームをオープンしてください。
(35ページ参照)
2. ラジエータスクリーンを取り外してください。
(左記参照)
3. 蝶ボルト4本を取り外し、オイルクーラを開いてください。



4. オイルクーラフィン・ラジエータ冷却フィンに付着しているゴミを取り除いてください。
5. きれいに掃除をした後、オイルクーラとラジエータスクリーンを元通りに取り付けてください。
6. エンジンルームを閉じてください。

【重要】

- ラジエータ冷却フィンを変形させないでください。

17. バッテリーの点検・整備のしかた

⚠ 危険

- バッテリーの点検時には、保護メガネとゴム手袋を着用してください。
- バッテリーの液槽キャップを外すときは、火気厳禁です。液槽キャップをあけると、液槽口から爆発性のあるガスが出ますので、引火してヤケドや火災を引き起こすおそれがあります。
- ブースター端子にブースターケーブル（+）を接続するときは、シャーシと干渉しないように接続してください。シャーシと干渉すると火花が飛んで火災の原因になります。

⚠ 警告

- バッテリー液は、「下限（LOWER）」以下にしないでください。容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破損するおそれがあります。
- バッテリーの電解液は希硫酸ですので、取扱いには注意してください。もし、皮膚や衣服についたときは、直ちに水洗いし、石けんでよく硫酸分を洗い流してください。万一、目に入ったときは、すぐに流水で洗い流し、医師の治療をうけてください。
- バッテリー端子を取り付けるときは、（+）側を先に取り付け、取り外すときは（-）側から取り外してください。守らないと、ショートしてヤケドや火災の原因になります。
- バッテリーの上面および周辺は、常に清潔にしてください。排気穴をふさぐと、破損や火災の原因になります。

【重要】

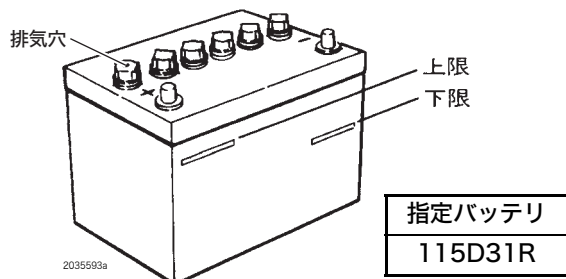
- バッテリーの各槽に電解液を入れすぎると、充電時にバッテリー液が吹き出し、機械の金属部を腐蝕させます。
- 急速充電はしないでください。
- バッテリーを交換するときは、必ず取扱説明書の指定した型式のバッテリーを使用してください。

指定バッテリー	部品コードNo.
115D31R	172460-16130

- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・溶剤・フィルタ・バッテリー・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

バッテリー液の点検・補給のしかた

各槽のバッテリー液が、上限と下限のラインの間にあることを確認してください。不足しているときは、蒸留水を補給してください。



- バッテリー液は、常に規定量を保ってください。
- バッテリー端子がゆるんでいる場合は、確実に締め付けてください。

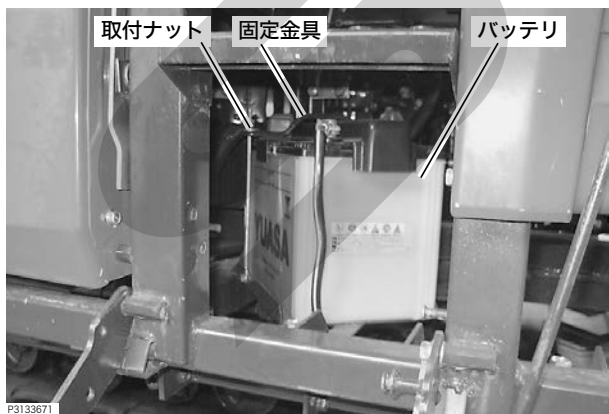
【重要】

- 液口栓の排気穴がホコリなどで詰まっている場合は、液口栓を外して清水で洗浄して、通気できる状態に掃除してください。

バッテリーの取り外しかた

バッテリーはステップ下部にあります。以下の要領に従って取り外してください。

1. バッテリーを固定している取付ナットを外し、バッテリー固定金具を取り外してください。



2. バッテリーコードの「-」端子を外した後、「+」端子を外してください。
3. バッテリーを抜き出してください。
4. バッテリーの取り付けは、取り外しの逆の手順で行ってください。

充電のしかた

寒冷地など気温の低い地域で使うとき、エンジンの始動がしにくくなったとき、ライトが暗くなったとき、自然放電によってセル始動ができないときは、下記の要領で充電をしてください。

1. バッテリーを取り外してください。
2. バッテリー液が不足している場合は、蒸留水を補充してください。
3. 液口栓を外し、バッテリーの「+」を充電器の「+」に、バッテリーの「-」を充電器の「-」に接続してください。
4. 3アンペア程度で8～10時間行ってください。

【重要】

- 急速充電はしないでください。
 - 取り付けるときは、ターミナル接触部の油分などを拭き取ってください。また、取り付け後は、ターミナル部にグリスを塗布してください。
 - バッテリーの「+」ターミナル部のゴムブーツは、必ず取り付けてください。
5. 充電後は、バッテリー液の気泡が消えてから液口栓を取り付けてください。バッテリーの上面や周囲に、バッテリー液が飛散して湿っている場合は、ぬるま湯で洗い流してください。

バッテリーの手入れのしかた

バッテリー端子が腐蝕していたり、白い粉が付いている場合は、お湯で掃除し、グリスを塗布してください。

バッテリーの自然放電について

エンジンを長期間運転しないで放置していると、バッテリーは自然放電します。使用しないときでも、ときどきエンジンがかかることを点検し、必要に応じて充電してください。

18.パイプ類の点検のしかた

警告

- 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは厚紙や板などを使って点検します。守らないと、油が皮膚に浸入した場合、強度のアレルギーを起こすおそれがあります。
- 作業前・作業後に、燃料パイプの老化や傷による燃料もれがないか点検し、燃料もれのある燃料パイプは交換してください。燃料もれがあると火災の原因になります。
- 掃除するときは、カマや刃先のような用具は使用しないでください。ハーネスやホースの切損事故の原因になります。

燃料パイプやラジエータホースなどの傷みによる燃料もれ、水もれがないか点検してください。また、締付バンドがゆるんでないか点検してください。燃料パイプやラジエータホースは、傷みがなくても2年ごとに交換してください。

燃料パイプを交換したときは、空気（エア）抜きをしてください。

【重要】

- エンジンオイルのドレンホースも必ず点検してください。エンジンオイルのドレンホースが破損していると、エンジンの焼付きの原因になります。

19.電気配線の点検のしかた

警告

- バッテリーや配線に付着しているワラクズやゴミは、作業前・作業後にきれいに取り除いてください。ワラクズやゴミが付着していると、火災の原因になります。

電気配線コードが他の部品のエッジ部に接触して、被覆のはがれや傷、接続部のゆるみがないか点検してください。配線コードが傷んでいる場合は、販売店で修理してください。

配線コードは、傷みがなくても50時間使用または1年ごとに、定期点検を受けてください。

20.ヒューズ・スローブローヒューズの点検・交換のしかた

警告

- ヒューズおよびスローブローヒューズは、必ず規定アンペアのものを使用してください。守らないと、火災につながるおそれがあります。

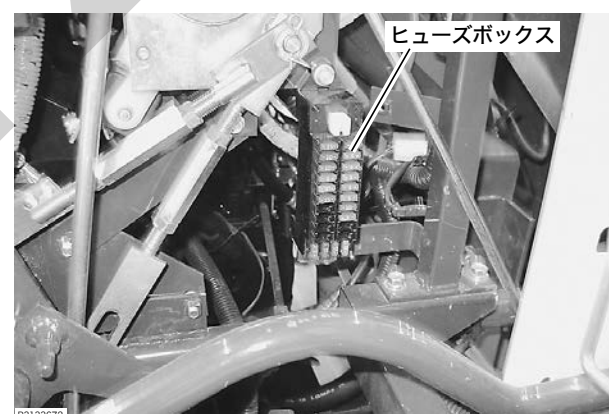
1. ヒューズボックスのふたを外して、ヒューズを点検してください。切れていれば、規定容量のものと交換してください。

【重要】

- 規定容量のヒューズと交換してもすぐに切れてしまう場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAで点検を受けてください。

〈ヒューズの場所と配置図〉

- ヒューズボックスは運転席左側サイドコラムのカバーの中にあります。



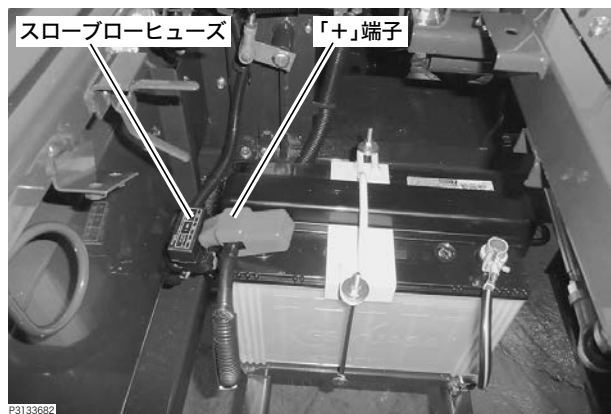
作業灯 15A	キーSW 10A
前照灯 10A	エンジン電装 5A
保安装置 10A	メータパネル 5A
走行装置 5A	燃料ポンプ 5A
ペーラ操作 30A	作業機制御 5A
乳酸菌散布装置 15A	フレール昇降 5A
	UFO電磁弁 10A
	UFO制御 5A
(予備) 5A 10A 15A 30A	

3133625

2. スローブローヒューズを点検してください。

〈スローブローヒューズの場所と配置図〉

- スローブローヒューズはバッテリーの「+」端子付近にあります。



50A	50A	50A
電源1	電源2	ジェネレータ スタータ

3133626

【参考】

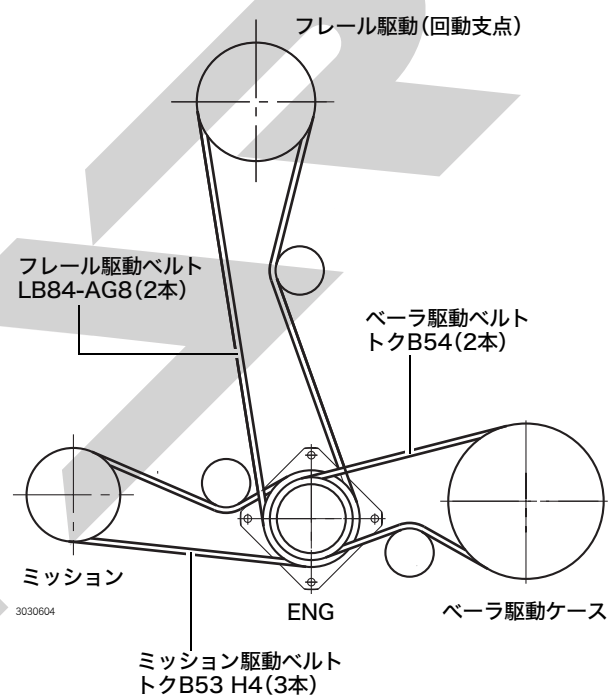
- スローブローヒューズはヒューズの一種で万一、配線回路（常時通電している回路）へ過大電流が流れた場合、溶断して電流をしゃ断します。溶断したらお買い上げいただいた特販店、またはJAで点検を受けてください。

21.各部ベルトの点検・調節のしかた

ベルトにキズがあるときや切れたときは、「2.主要消耗品」（119ページ参照）に紹介されているベルトと交換してください。

★ベルトの配置図

ベルトの位置を探すときの参考にしてください。



冷却ファンベルト(ジェネレータ駆動ベルト)

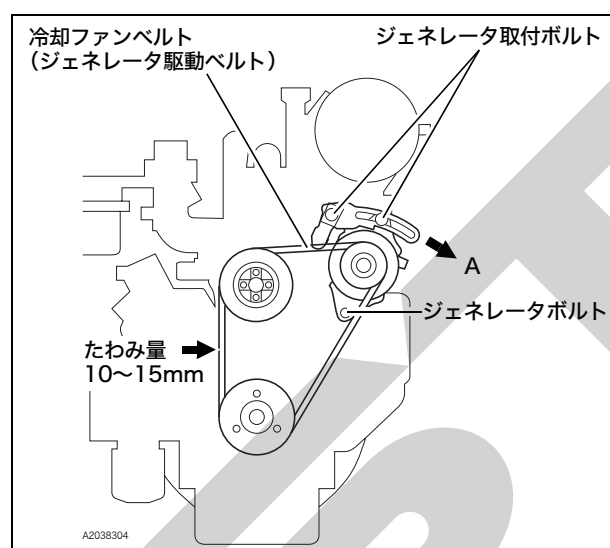
ルーム枠前カバーを外して、下記の点検・調節をしてください。点検・調節後は、元通りに閉めてください。

〈点検のしかた〉

ベルトの中央を指で押したとき、たわみ量が 10 ～ 15mm であるか確認してください。

〈調節のしかた〉

1. ジェネレータ取付ボルトをゆるめてください。
2. ジェネレータを下図の矢印 A の方向に引っ張り、ベルトを張ってください。
3. ジェネレータ取付ボルトを締め付けて固定してください。

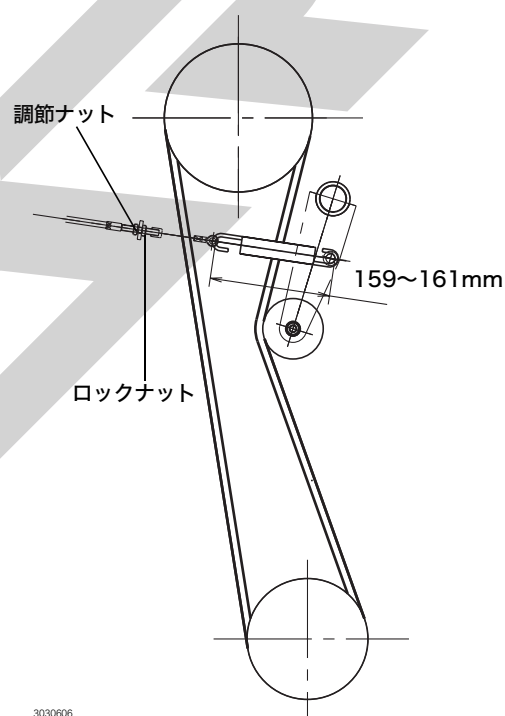


フレイル駆動ベルト

ルーム枠カバー、およびルーム枠前カバーを取り外して、下記の 2 か所の点検調節をしてください。点検・調節後は、元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた-1〉

1. フレールクラッチレバーを「入」位置にしてください。
2. テンションバネのフック長を測り、159～161mm であるか確認してください。



〈調節のしかた〉

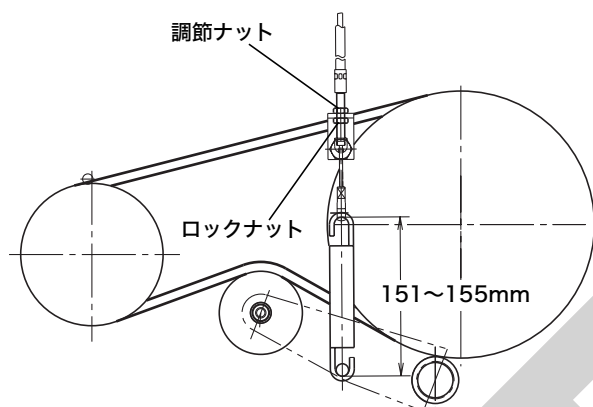
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。

ペーラ駆動ベルト

ルーム枠カバーを取り外して、下記の点検・調節をしてください。点検・調節後は、元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉

1. ペーラクラッチレバーを「入」位置にしてください。
2. テンションバネのフック長を測り、151～155mmであるか確認してください。



〈調節のしかた〉

1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。

ミッション駆動ベルト

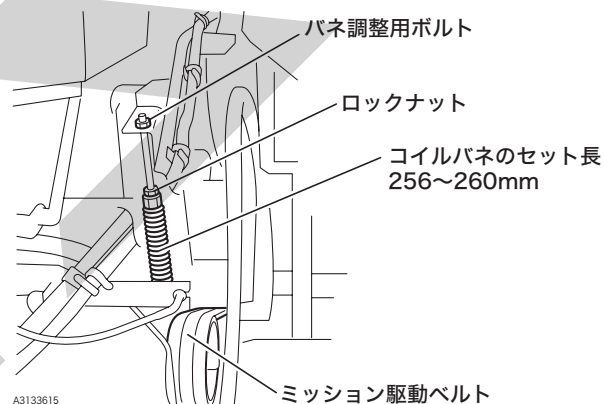
ルーム枠カバーを取り外してから、下記の点検・調節をしてください。点検・調節後は、元通りに下げてください。

〈点検のしかた〉

コイルバネのセット長を測り、256～260mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

1. ロックナットをゆるめてください。
2. バネ調整用ボルトを回して、コイルバネのセット長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。

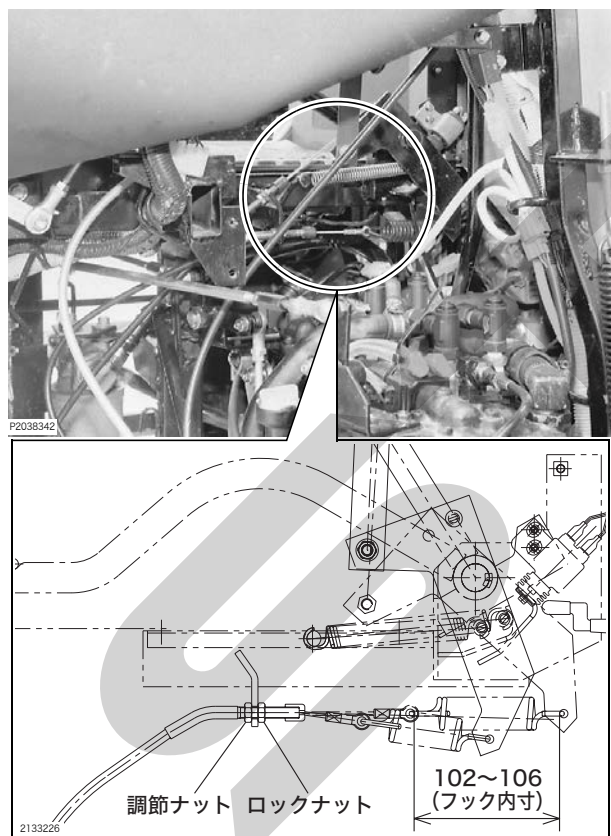


22. 駐車ブレーキワイヤの点検・調節のしかた

サイドコラムカバーを取り外し、下記の点検・調節をしてください。点検・調節後は、元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉

1. 駐車ブレーキをかけてください。
(28ページ参照)
2. バネのフック長を測り、102～106mmであるか確認してください。
3. 調節後、駐車ブレーキを解除して、バネが自由長になっていることを確認してください。



〈調節のしかた〉

1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを締め込みながら調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。

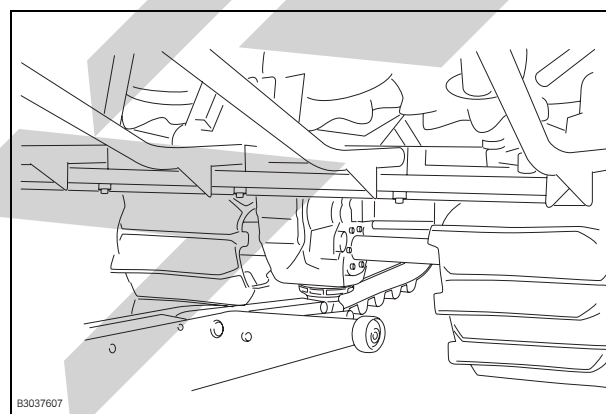
23. クローラの点検・調節のしかた

ミッション下部およびシャーシ左後・右後の3か所を同時にジャッキアップし、クローラを浮かせた状態で下記の点検・調節をしてください。

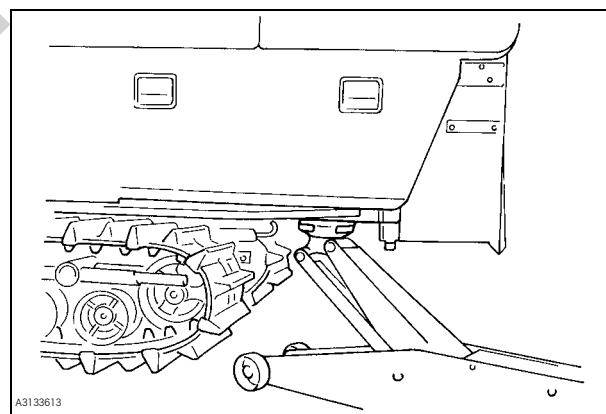
〈ジャッキアップ時の注意事項〉

ジャッキアップをするときは、地面が固く、平坦な場所で、必ず2トン以上の容量のジャッキを使用して行ってください。

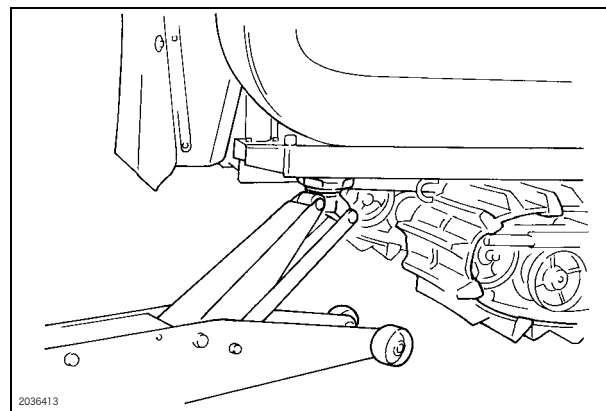
ミッション下部



シャーシ左後

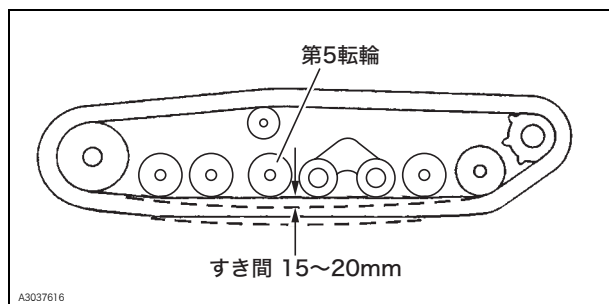


シャーシ右後



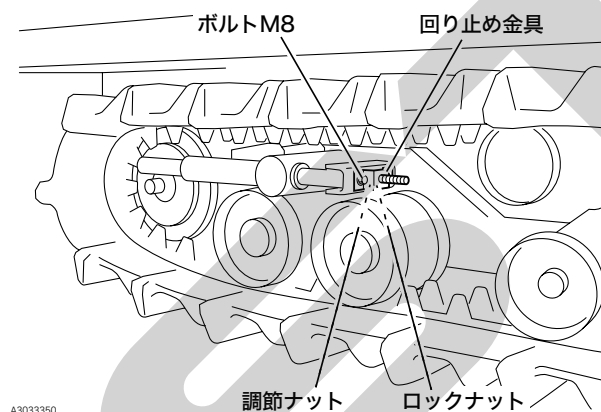
〈点検のしかた〉

第5転輪とクローラのすき間を測り、15～20mmであるか確認してください。



〈調節のしかた〉

1. ボルトM8を外してください。
2. 回り止め金具を取り外してください。
3. ロックナットをゆるめてください。
4. 調節ナットを回して、すき間を調節してください。
5. ロックナットを締め付けて固定してください。
6. 回り止め金具を取り付けて、ボルトM8で固定してください。



24.排気ガスの色について

エンジンの始動時は、少し黒色の排気ガスがでますが、通常は無色です。

黒色……燃料が濃すぎるための不完全燃焼。

白色……エンジンオイルが燃焼しています。ただし、気温の低い場合は水蒸気で白く見えることもあります。

黒色・白色の排気ガスがエンジンに負荷をかけなくてもでるときは、特販店、またはJAで整備してください。

25. 作業部の点検・調節のしかた

機械の性能を引き出し、長く使用させるため、作業前には必ず行ってください。

各部の点検

各部のボルト・ナットのゆるみ、ピン類の脱落などがないか点検してください

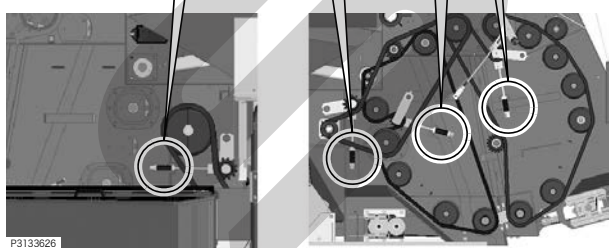
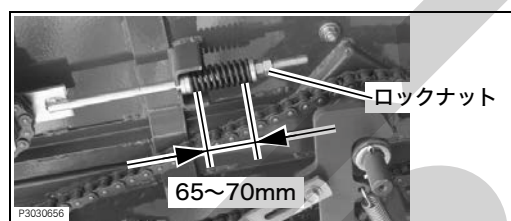
ペーラ部

〈ペーラ駆動チェン、メイン駆動チェン、フロント駆動チェン、ゲート駆動チェン〉

フロントカバー L・R、ゲートカバー Lを開けて、下記の調節をしてください。

調節後は、元通りに取り付けてください。

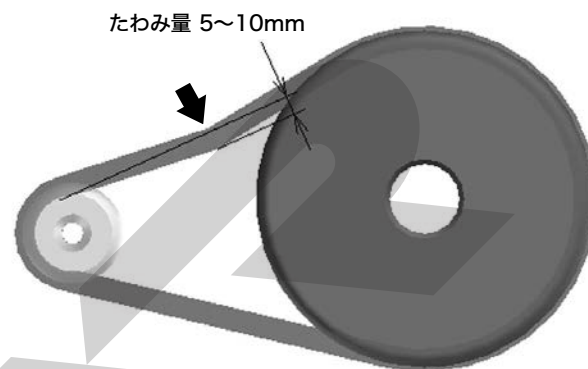
1. 各テンションバネのバネ長が65～70mmであるか確認してください。
2. ロックナットをいったんゆるめ、バネ長を調節した後、締め付けて固定してください。



〈油圧パッケージチェン〉

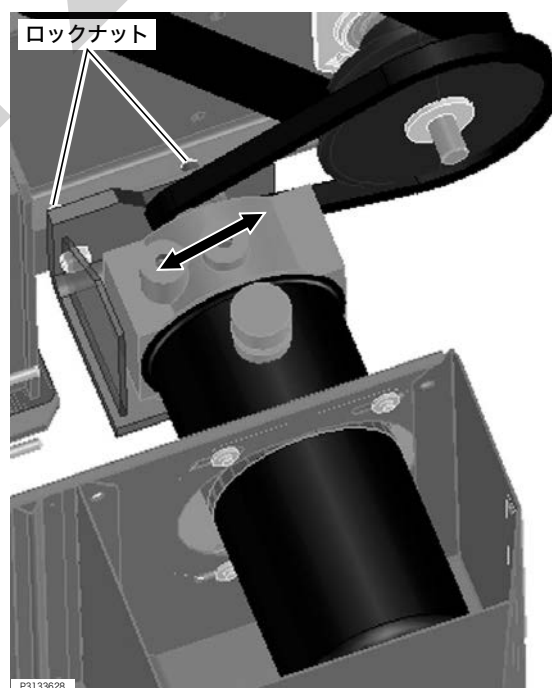
フロントカバー Rを開けて、下記の調節をしてください。

1. チェーンの中央部を指で押して、たわみ量が5～10mmあるか確認してください。



〈調節のしかた〉

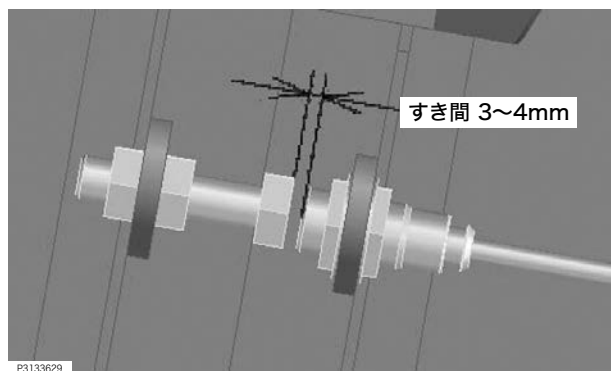
1. ベースのロックナットをゆるめてください。
2. ベースを横にスライドさせてチェーンのたるみを調節してください。



〈ゲート閉センサ〉

フロントカバー R を開けて、下記の調節をしてください。

1. キンセツスイッチとボルトとのすき間が3~4mm あるか確認してください。
2. ロックナットをいったんゆるめ、すき間を調節したあと、締め付けて固定してください。



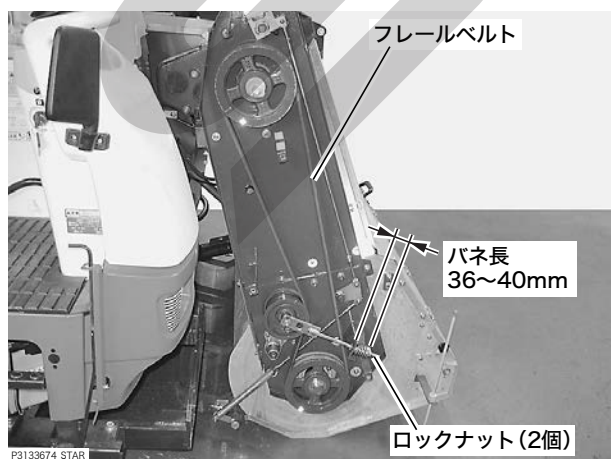
刈取部

〈フレールベルト〉

フレールカバーを外して、下記の調節をしてください。

調節後は、元通りに取り付けてください。

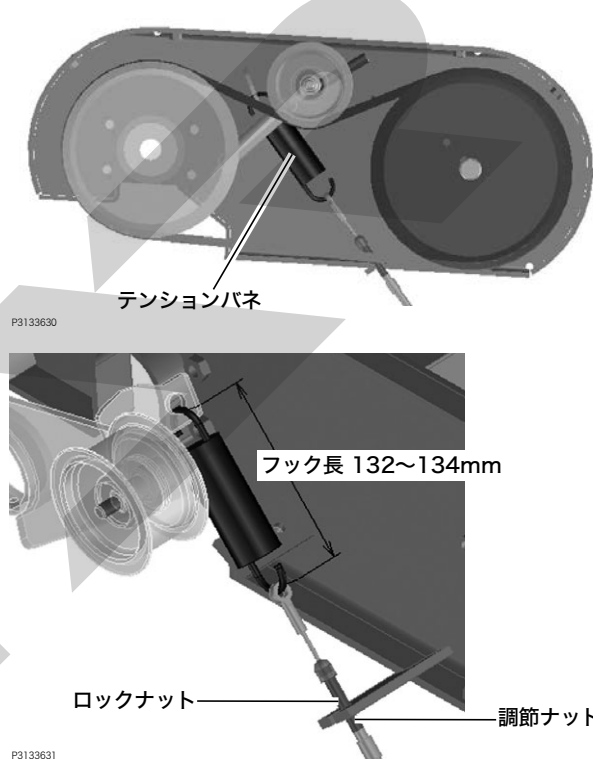
1. テンションバネのバネ長が36~40mm であるか確認してください。
2. ロックナット（2個）をいったんゆるめ、バネ長を調節した後、締め付けて固定してください。



〈フレール駆動ケースベルト〉

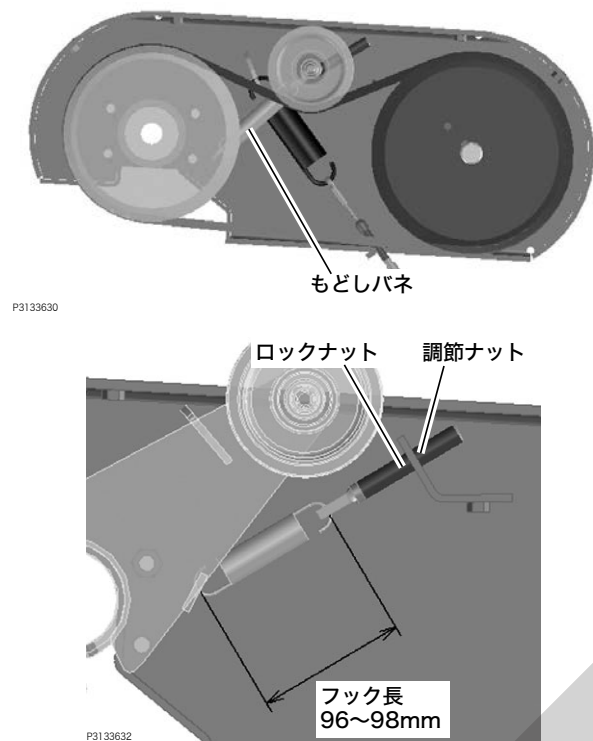
ベルトカバーを外して、下記の調節をしてください。
調節後は、元通りに取り付けてください。

1. フレールクラッチレバーを「入」位置にしてください。
2. テンションバネのフック長を測り、132~134mm であるか確認してください。



3. フレールクラッチレバーを「切」位置にしてください。

4. もどしバネのフック長を測り、96～98mmであるか確認してください。

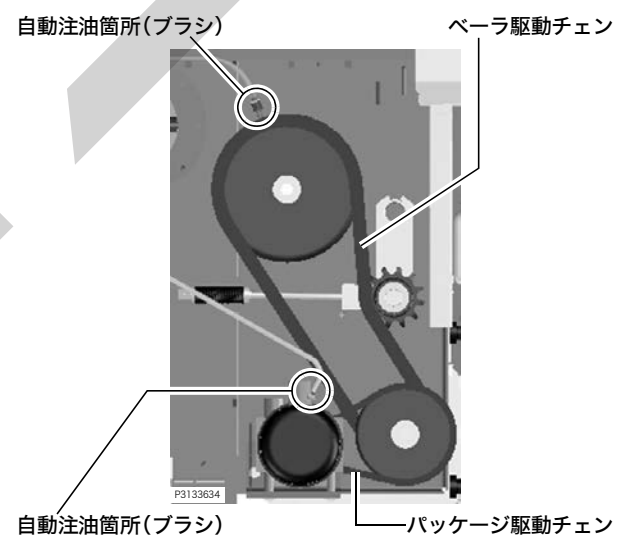
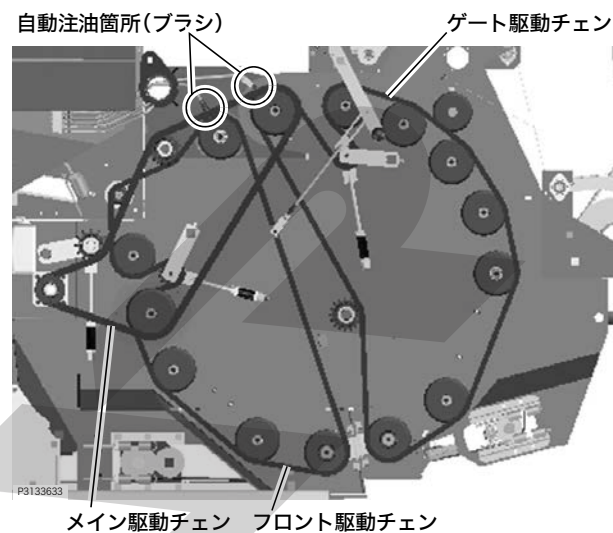


〈調節のしかた〉

1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。

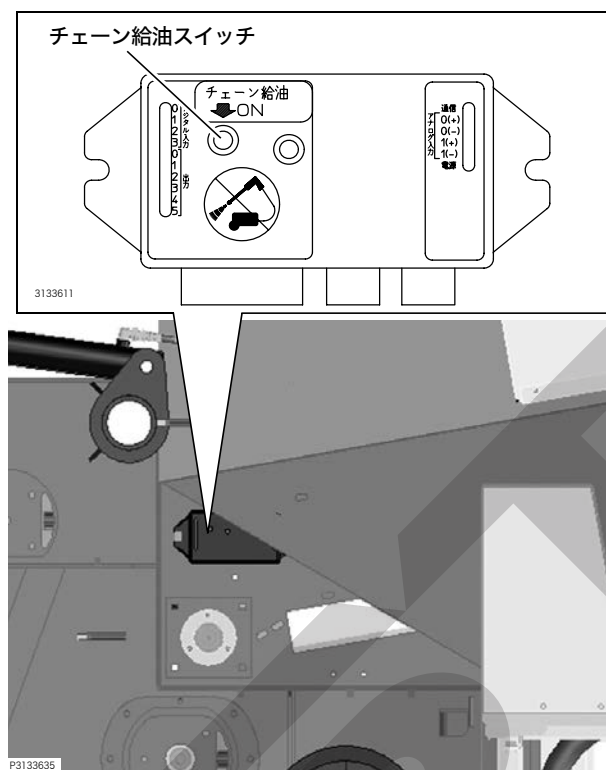
26.自動注油装置について

ベアラ駆動チェン、パッケージ駆動チェン、メイン駆動チェン、フロント駆動チェン、ゲート駆動チェンに注油します。



自動注油のしかた

1. エンジンを始動してください。
2. ベーラクラッチレバーを「入」位置にしてください。
3. コンベア右側面のコントローラのチェーン給油スイッチを押してください。
4. スイッチを押している間、自動注油ができます。
5. 注油が終わったらベーラクラッチレバーを「切」位置にし、エンジンを停止してください。

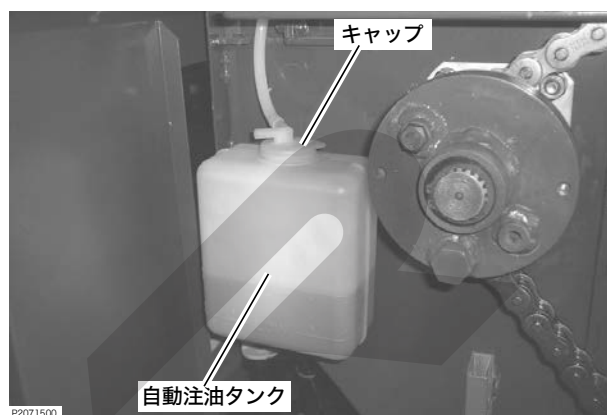


【重要】

- 注油量が多いとオイルが垂れます。クローラなどに付着したオイルは拭き取ってください。
- チェン全体へ注油するためにも、ベーラクラッチ「切」状態で注油しないでください。オイルが垂れます。

自動注油タンクへに補給のしかた

1. フロントカバー Lを開いてください。
2. 自動注油タンクのキャップを外して、オイルを補給してください。



【参考】

- タンクに指示されている上限位置は、本装置とは関係ありません。タンクいっぱいまで最大 (1.5L) 補給してください。

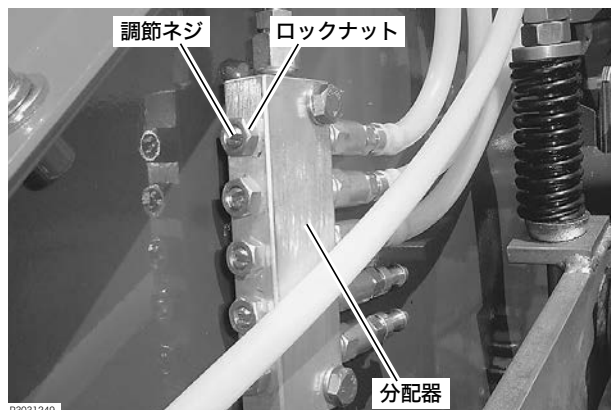
3. キャップを取り付け、フロントカバー Lを閉めてください。

【重要】

- 自動注油タンクに入れるオイルは、ギヤオイル90番を使用してください。ミッションオイルや排油などを使用すると、注油ができなかったり、注油ブラシが詰まるおそれがあります。

自動注油量の調節のしかた

1. 分配器のロックナットをゆるめてください。



2. 調節ネジを右（減少）、または左（増加）に回転して調節します。
3. 分配量の確認は、エンジンを始動して、ベアラクラッチレバーを「入」位置にして、コンベア右側面にあるコントローラのチェーン給油スイッチを押してブラシからの注油量を確認します。（106ページ参照）

【重要】

- 分配器は、アルミニウム製のためロックナットを締めすぎると、ネジ部が破損することがあります。締めすぎないように注意してください。

27. フレールカッター・受刃の研磨のしかた

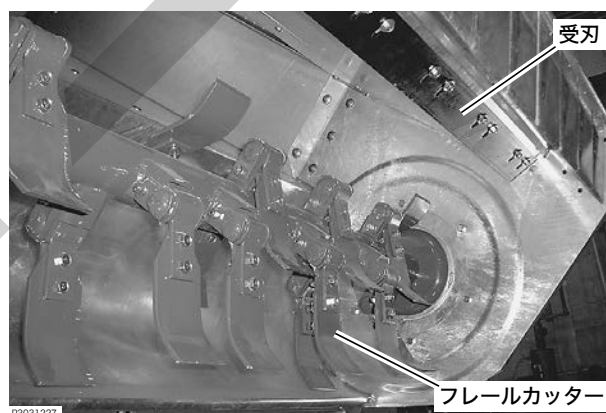
⚠ 警告

- 刈取部は、必ず刈取昇降ロックレバーを「閉」位置にして、歯止めをし、刈取部が下がらないように固定してください。

⚠ 注意

- グラインダーを使用して、フレールカッター・受刃の研磨を行う場合は、万力などでしっかり固定し、防護メガネをかけてください。

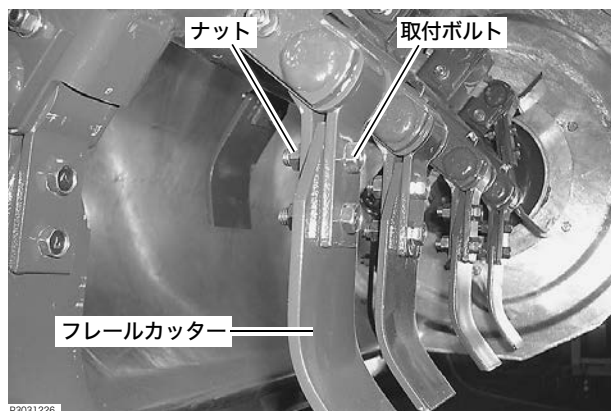
フレールカッター・受刃が磨耗していると、作物の切断性能が低下し、刈取部に詰まりやすくなったり、刈り跡が揃わなかったりします。取り外して研磨してください。



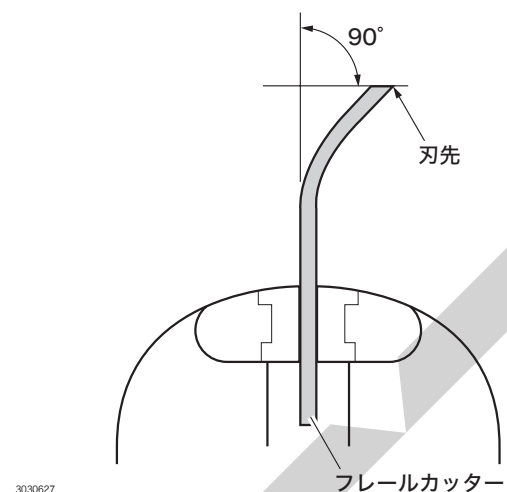
〈フレールカッターの研磨のしかた〉

1. エンジンを始動してください。
2. 刈取昇降ロックレバーを「開」位置、刈高さ調節レバーを「上昇」にして刈取部を最上げにしてください。
3. 刈取昇降ロックレバーを「閉」位置にし、エンジンを停止してください。

4. 取付ボルト・ナット（各2個）を外して、フレールカッターを取り外します。



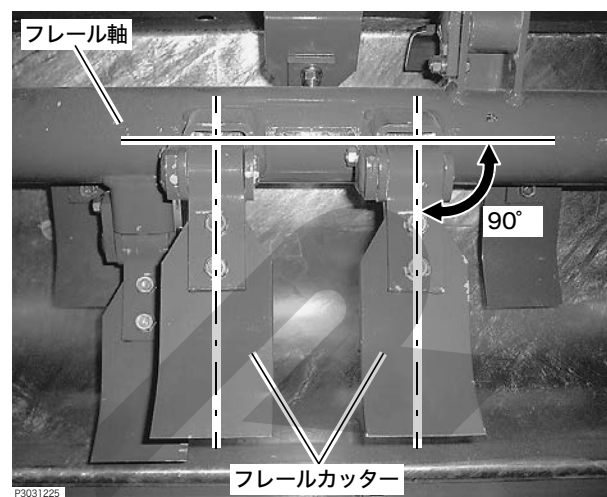
5. フレールカッターを万力などで固定し、研磨してください。



【重要】

- フレールカッターの磨耗が著しい場合は、新品に交換してください。
- 研磨は、フレールカッターが変色しないように時間をおいて行うか、水で冷やしながらかけてください。

6. フレールカッター、ボルト、ナットの方向（左記 4. 項参照）に注意して、フレール軸に 90° になるように取り付けてください。

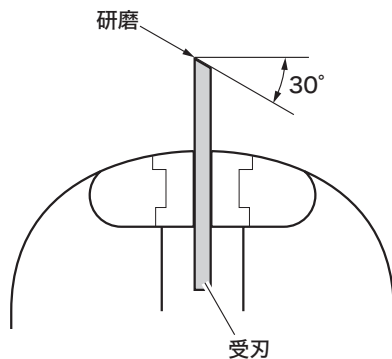


〈受刃の研磨のしかた〉

1. エンジンを始動してください。
2. 刈取昇降ロックレバーを「開」位置、刈高さ調節レバーを「上昇」にして刈取部を最上げにしてください。
3. 刈取昇降ロックレバーを「閉」位置にし、エンジンを停止してください。
4. 受刃カバーを開けてください。
5. 受刃を「短」位置にしてください。
(59ページ参照)
6. 取付ボルト・ナット（14個）を取り外して、受刃を取り外してください。



7. 受刃を万力などで固定し、研磨してください。

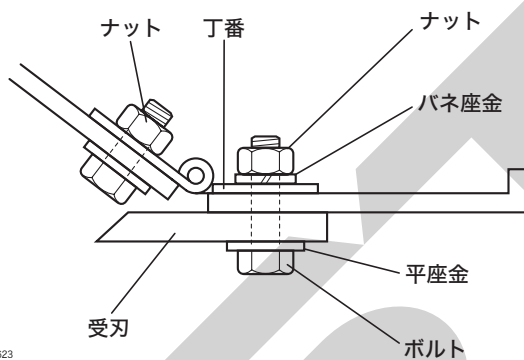


3030628

【重要】

- 受刃の磨耗が著しい場合は、新品に交換してください。
- 研磨は、受刃が変色しないように時間をかけて行うか、水で冷やしながら行ってください。

8. 受刃・ボルト・ナットの方に注意して、取り付けてください。



3030623

28. ネットナイフの交換のしかた

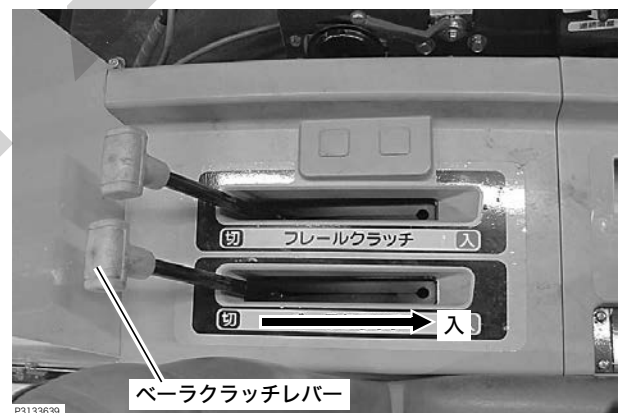
⚠ 警告

- ゲートを開けて点検・整備をするときは、必ずゲート開閉ロックレバーを「閉」位置にするとともに歯止めをし、ゲートが閉じないように固定してください。

⚠ 注意

- ネットナイフが不意に作動しないようにナイフアーム先端のラッチがストッパにかかっているか確認するとともに歯止めをし、ナイフが切断状態にならないように固定してください。
- ナイフを交換するときは、刃先をさわらないでください。ケガをするおそれがあります。

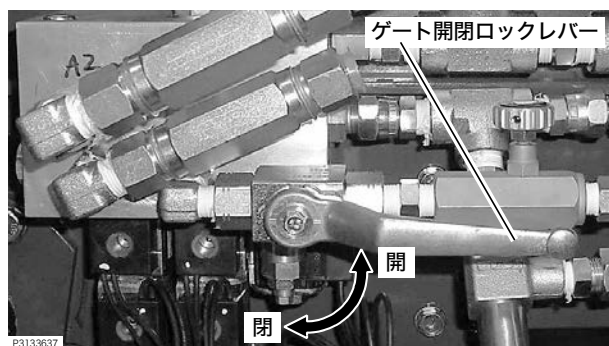
1. エンジンを始動してください。
2. ベーラクラッチレバーを「入」位置にしてください。



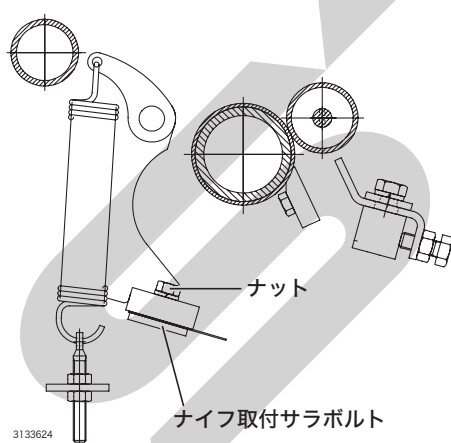
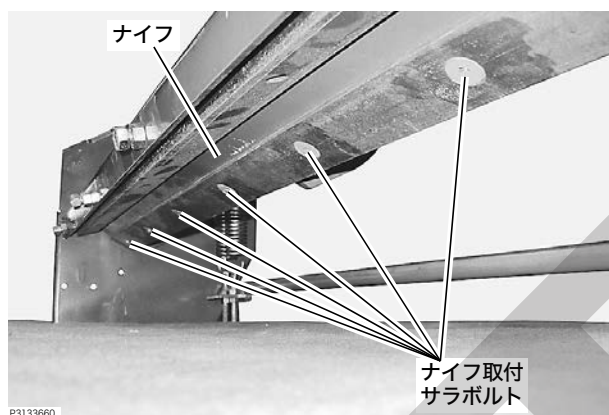
3. ゲート開閉レバーを「開」位置にして、ゲートを開けてください。



4. ゲート開閉ロックレバーを「閉」位置にしてください。



5. ナイフ取付サラボルトを外してナイフを交換してください。



6. 「ネットナイフとシャバーの調節」(60 ページ)を参照のうえ調節してください。

11章 不調診断のしかた

警告

- 機械の調子が悪いときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてから診断してください。
守らないと、回転物にはさまれて傷害事故の原因になります。

下記の処置をしても改善されないときは、最寄の販売店に連絡してください。

1. キースイッチを「始動」位置にしてもスタータが回らない場合

この確認をしてください	処置	参照ページ
セフティペダルを踏み込んでいますか。	セフティペダルを完全に踏み込んでから、キースイッチを「始動」位置にしてください。	27
バッテリーが放電していませんか。	バッテリーを満充電にしてください。	95～96
バッテリー端子部のゆるみ・外れ、または腐蝕していませんか。	端子部を清掃し、確実に締め付けて、グリスを塗布し防錆してください。	96
スローブローヒューズ、またはヒューズが溶断していませんか。	スローブローヒューズ、またはヒューズ「キースイッチ」「走行装置」「作業機制御」を交換してください。	97・98
バッテリーの接続がプラス・マイナス逆になっていませんか。	プラス・マイナスを正しく接続してください。	95
ボール・フレールの各クラッチレバーが「入」位置になっていませんか。	ボール・フレールの各クラッチレバーを「切」位置にしてください。	24～25

2. スタータは回るがエンジンが始動しない場合

この確認をしてください	処置	参照ページ
燃料ポンプが作動していますか。 (ヒューズ溶断、燃料ポンプの不良)	ヒューズ「燃料ポンプ」の交換、または燃料ポンプを交換してください。	97
燃料タンクに燃料が入っていますか。	燃料を満タンに給油し、エア抜きをしてください。	84・92
燃料にエアが混入していませんか。	燃料のエア抜きを行ってください。	92
燃料に水が入っていませんか。	ウォータセパレータに水が溜まっていれば、水を抜いてください。	91
副変速レバーが「N」(中立)位置になっていますか。	副変速レバーを「N」(中立)位置にしてください。(走行中または作業中にエンジンが停止したときは、副変速レバーを「N」(中立)位置にしないと、エンジンが始動しない場合があります。)	27
ヒューズが溶断していませんか。	ヒューズ「エンジンコントローラ」「エンジン電装」を交換してください。	97
エンジンモニターのランプが点滅していませんか。	販売店へ連絡してください。	

3. 運転中に水温パイロットランプが点灯し、ブザーが鳴る場合

[重要]

- エンジンのオーバーヒートですので、すみやかに本機を停止し、作業クラッチを「切」、エコモード切替スイッチを「切」位置にして、エンジン回転をローアイドルリング（低回転）に下げ、冷却運転をしてください。水温パイロットランプが消灯してから、エンジンを停止し、エンジンが十分に冷えてから適正な処置を行ってください。

この確認をしてください	処置	参照ページ
冷却水が不足していませんか。	冷却水を補給してください。	88
ファンベルトがゆるんでいませんか、または破損していませんか。	ベルトの張り調整、または交換してください。	99
エンジン吸気口、ラジエータスクリーンが目詰まりしていませんか。	清掃してください。	93・94
ラジエータ冷却フィン・オイルクーラ冷却フィンが目詰まりしていませんか。	清掃してください。	94
エンジンオイルが不足していませんか。	オイルを規定量まで補給してください。	85
過負荷運転をしていませんか。	負荷を軽くしてください。(作物の状態に応じて、適切な作業速度を選んでください。)	—

4. 運転中に油圧パイロットランプが点灯した場合

この確認をしてください	処置	参照ページ
エンジンオイル量が少なくなっていますか。	オイルを規定量まで補給してください。	85
エンジンオイルの粘度が低くありませんか。	適正粘度のオイルと交換してください。	83

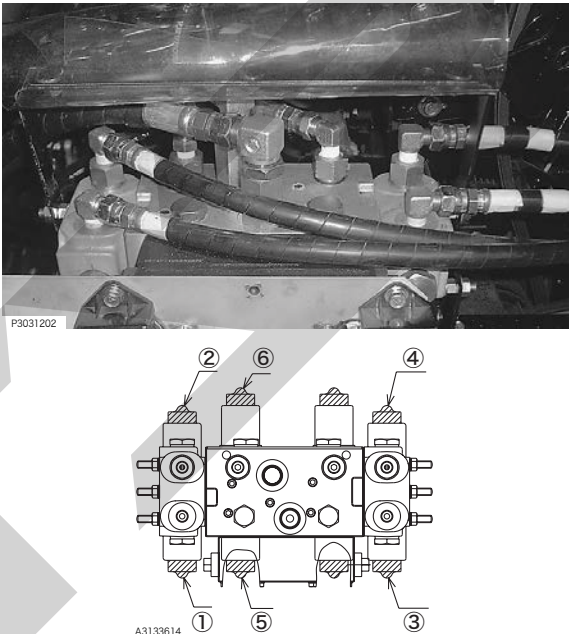
5. 運転中にチャージパイロットランプが点灯した場合

この確認をしてください	処置	参照ページ
ファンベルトのゆるみ、または破損していませんか。	ベルトの張り調整、または交換してください。	99

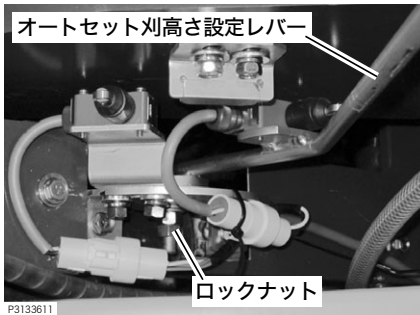
6. 機体が水平にならない(UFO装置)

この確認をしてください	処置	参照ページ
傾斜角調節ダイヤルが中央位置になっていますか。	傾斜角調節ダイヤルを中央位置にあわせてください。	32
傾斜センサの水平は出ていますか。	傾斜角調節ダイヤルを中央位置に合わせて、傾斜センサの傾きを調整し、水平を出してください。	32

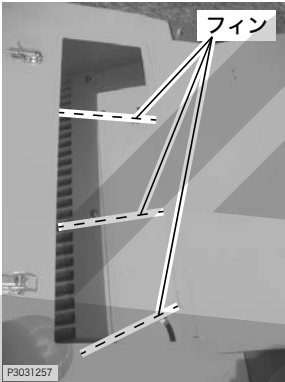
7. 油圧が作動しない場合

この確認をしてください	処 置
刈取部昇降ロックレバー、ゲート開閉ロックレバーが「閉」位置になっていませんか。	「開」位置にしてください。
油圧バルブを操作する各操作レバーと、電磁弁のカブラの接続を確認してください。	各カブラを確実に差し込んでください。
	作動しない場合の応急処置 ルーム枠カバーを外して、油圧バルブを下記要領で手動操作してください。  ●印は各電磁弁の両端の黒いゴムキャップです。強く押して操作してください。 ●車体左を上げるとき、●印①を押し、下げるとき、●印②を押す。 ●車体右を上げるとき、●印③を押し、下げるとき、●印④を押す。 ●刈取部を上げるとき、●印⑤を押す。 ●刈取部を下げるとき、●印⑥を押す。
ペーラクラッチレバーが「切」位置になっていませんか。(ゲート開閉のみ)	ペーラクラッチレバーを「入」位置にしてください。(ゲート開閉のみ)

8. 作業部で下記の現象が出た場合

現 象	この確認をしてください	処 置	参照ページ
刈取部(シュート・エアシュート)で詰まる	● エンジン回転が低くないですか。 ● 作物の草丈が適応範囲を越えていませんか。 ● 切断長調節(受刃位置)が長くなっていませんか。 ● フレールカッターが磨耗していませんか。 ● Vベルトがスリップしていませんか。 ● シュート・エアシュート内に泥や作物が付着していませんか。 ● 8章2項の「拾い上げ～梱包作業」の内容を全て行っても解消されないですか。	● エコモード「入」、またはエンジン回転数を2500rpmにしてください。 ● 少し速度を下げて作業をしてください。 ● 受刃位置を「短」位置にしてください。 ● 研磨または交換してください。 ● 駆動系ベルトのテンションバネを規定量に調節してください。 ● 付着している泥や作物を除去してください。 ● 乾燥した切断長の短い作物(特に切ワラ)の場合は、シュート先端部のフィンを取り外してください。(ただし、ペール形状が多少変形することがあります)	33 — 59 107 99 67・77 69
ベアラ入り口で詰まっている	● ベアラ駆動チェンが歯飛びしていませんか。 ● ベアラ駆動部のシャーボルトが切れていませんか。 ● Vベルトがスリップしていませんか。	● チェンのテンションバネを規定量に調節してください。 成形ベルト部の詰まりを取り除いてください。 ● シャーボルトを交換してください。 ● 駆動系ベルトのテンションバネを規定量に調節してください。	103 68 99
刈り跡がきたない	● フレールカッターが磨耗していませんか。 ● 刈高さが高くないですか。 ● エンジン回転が低くないですか。	● 研磨または交換してください。 ● 低く調節して作業してください。 (刈高さが高く、速度が速いほど刈り跡は、きたなくなる傾向があります) ● エコモード「入」、またはエンジン回転数を2500rpmにしてください。	107 60 33
刈り高さが揃わない	● 本機が傾いていませんか。 ● OK リフトが作動し、刈取部が上がっていませんか。 ● オートセット刈高さ設定レバーが動いていませんか。	● UFO を「自動」にし、傾斜角調節ボリュームを中央(水平)にしてください。 ● OK リフトが作動(上げ)後は、「下げ」調節をしてください。 ● オートセット刈高さ設定レバー支点のロックナットを少し締めてください。 	31・32 33 72

現 象	この確認をしてください	処 置	参照ページ
ベアラが満杯になる前にネットが繰り出される	● ネットの切れが悪くありませんか。(切り口が長くなっていませんか。)	● ナイフとシャーバーのすき間を調節してください。それでも切れが悪い場合は、ナイフを新品に交換してください。	60
ベールが満杯になってもネットが繰り出されない	● 指定以外のネットを使用していませんか。 ● ネットが引っ掛かったり、からまったりしていませんか。 ● ネットの通し方が間違っていないですか。 ● ネット繰り出しスイッチが「自動」になっていますか。 ● ベアラクラッチレバーが「入」位置になっていますか。 ● 繰り出しローラに巻付いていませんか。 ● ネットが雨などで濡れていませんか。 ● 繰り出しローラにチリが引っ掛かっていませんか。 ● ネット繰り出しベルトのテンションモータは作動していますか。 ● ネット繰り出しベルトがスリップしていませんか。	● 指定ネット (NET1020) を使用してください。 ● 引っ掛かり、からまりを除去してください。 ● 正しく通してください。 ● 「自動」位置にしてください。 ● 「入」位置にしてください。 ● 巻付きを除去してください。 ● 水や油分を除去してください。 ● チリを除去してください。 ● ネット強制スイッチを押して電装品が正常か確認してください。 ● モータベースを下げてベルト張りを確認してください。それでもスリップする場合は、ベルトを交換してください。	57 — 58 25 25 — — — —
強制でネットが繰り出されない	● ベアラクラッチレバーが「入」位置になっていますか。 ● ベールが回転していますか。 ● ネット繰り出しスイッチを「強制」位置にする時間が短くないですか。 ● ネット繰り出しベルトのテンションモータは作動していますか。 ● ネット繰り出しベルトがスリップしていませんか。	● 「入」位置にしてください。 ● ベールが回転する量まで作業をしてください。 ● ベールに巻き込まれるまで、1～2 秒「入」位置にする動作を繰り返してください。 ● 電装品が正常か確認してください。 ● モータベースを下げてベルト張りを確認してください。それでもスリップする場合は、ベルトを交換してください。	25 — 25 — —
ネットが切れない	● ナイフが磨耗していませんか。 ● ブレーキアームの動きが悪く、ネットを押えていないのではありませんか。 ● ナイフ部にチリがたまっていないですか。	● 新品に交換してください。 ● チリを除去してください。また、電装品 (モータ) が動作するか確認してください。 ● チリを除去してください。	109・110 — —
ベールが排出されない	● ベアラクラッチレバーが「入」位置になっていますか。	● 「入」位置にしてください。	25
ナイフ部にネットが詰まった	● ベール排出時にゲートをいっぱいまで開いていますか。	● ベアラ排出時は、ゲートをいっぱいまで開いてください。 詰まった場合は、参照ページの要領に従って処置してください。	66

現 象	この確認をしてください	処 置	参照ページ
排出したペールが 変形している	● 刈幅に対して偏った刈取り・拾い上げをしていませんか。 ● シュート先端のフィンの向きが左右で異なっていませんか。	● 均等に刈取り・拾い上げをしてください。 残りの条数が少ない場合は蛇行し、左右均等になるように刈取りをしてください。 ● コンベア掃除口を開けて、左右同じ向きに取り付けて、中央のフィンを真っすぐに取り付けてください。 	54 —
	● 左右の刈高さが異なっていませんか。 ● 作物の水分が多くないですか。	● UFO を「自動」にし、傾斜角調節ボリウムを中央(水平)にしてください。 ● 適正水分になってから収穫してください。	31 54

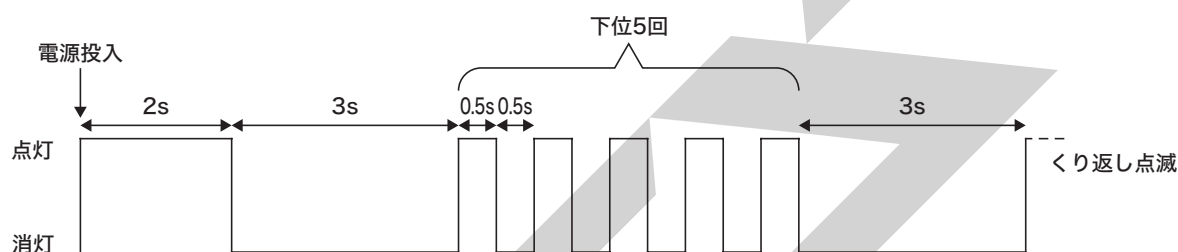
9. エンジンコントローラ自己診断について

エンジン関係のセンサやコントローラに異常が発生したときに、エンジンモニターの点滅回数により異常を知らせます。

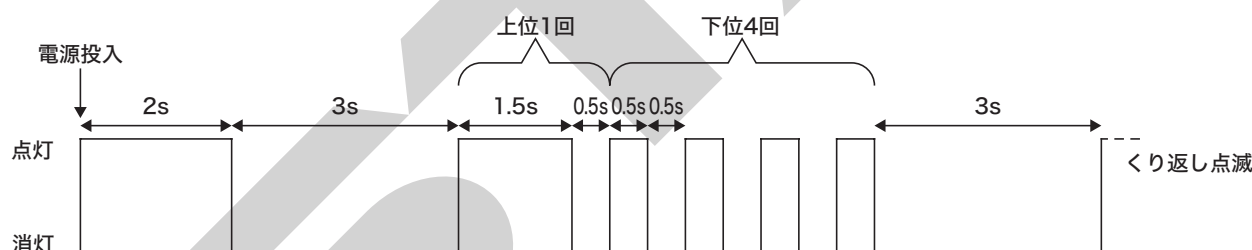
ランプが点滅している場合は、販売店に連絡してください。



例：アクセルセンサ異常



例：CSD電磁弁の異常



ランプ点滅回数		状況	不具合現象
長い点滅	短い点滅		
—	4	冷却水温センサの異常です	通常運転可能
—	5	アクセルセンサの異常です	アクセルダイヤルでエンジン回転の調節ができません。
—	6	回転センサの異常です	エンジン停止
—	7	ラック位置センサの異常です	エンジン回転は正常なのに、エンジンに粘りがありません。
—	8	ラックアクチュエータの異常です	エンジン停止
—	9	過回転異常です	エンジン停止
1	4	CSD電磁弁の異常です	寒冷時の始動性が悪くなる。通常運転可能。
1	5	始動補助リレーの異常です	寒冷時の始動性が悪くなる。通常運転可能。
1	6	メインリレーの異常です	通常運転可能可能ですが、バッテリー上がりのおそれがあります。
1	7	ラックアクチュエータリレーの異常です	エンジン停止
2	3	電源電圧の異常です	通常運転可能
2	4	センサ5Vの異常です	通常運転可能
2	5	エンジンコントローラの温度上昇警報です	通常運転可能
3	6	冷却水温上昇警報です	冷却水の温度が高すぎます。
4	1	エンジンコントローラの異常です	エンジン停止または通常運転可能。

12章 その他

1. 主要諸元

名 称			コンピネーションペーラ			
型式名			JCB1500			
機体寸法	全 長	(mm)	4435			
	全 幅	(mm)	2335(2435)			
	全 高	(mm)	2375			
機体質量(重量)		(kg)	3767			
エンジン	型式名		4TNV98T-ZXNWH			
	種 類		水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル			
	総排気量		(L{cc})	3.318{3318}		
	最大出力		(kW{PS})	60.7{82.5}		
	使用燃料		ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量		(L)	73		
走行部	クローラ	幅×接地長	(mm)	450×1700		
		転輪中心距離	(mm)	1025		
		クローラ中心距離	(mm)	965		
		平均接地圧	(kPa{kgf/cm ² })	24.1{0.246}		
		種 類	JW450×90×52リンク			
	変速方式		HST無段変速×副変速			
	変速段数		(段)	前進3・後進3		
	旋回方式		FDS			
	走行速度	前 進	(m/s)	低速0～0.79	標準0～1.65	走行0～2.99
		後 進	(m/s)	低速0～0.77	標準0～1.57	走行0～2.78
刈取部	刈取方式		フレール式			
	刈 幅		(mm)	1500		
	刈取条数		(条)	5		
	刈高さ調節段数		(段)	3		
切断部	切断方式		フレール式			
	平均切断長		(mm)	100～150		
	切断長調整		3段階(スライド)			
梱包部	梱包方式		スチールローラ+平ベルト			
	ベールサイズ		(mm)	直径1000×幅860		
	ベール質量		(kg)	300(含水率60%)		
	乾物密度		(kgDM/m ³)	150～180		
	梱包圧調節		油圧式			
	ベールイジェクタ		有り			
結束部	結束方式		ネット巻き			
	巻数		(巻)	3・5・7		
	結束資材		1m幅ネット(NET1020)			
自動化	セフティーリフト		有り			
	オートセット・リフト		有り			
	水平制御		有り(左右)			
その他	乳酸菌散布装置		オプション			
	対象作物		イネ・麦・牧草(ソルガム・イタリアンライグラス等)			
	予乾体系		適応			
安全鑑定番号			申請中			
作業能率(計算値)		(分/10a)	10～52			

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

※ソルガム等の長程作物および収量の多いほ場での作業は、速度を落として作業してください。

※梱包サイズ・作業能率は、梱包する作物の種類・水分および作業形態等により、異なる場合があります。

2. 主要消耗品

区分	No.	部品名称	部品コード	個数	備考
駆動ベルト	1	Vベルト LB-54 スーパーゴールド	1K1190-21010	2	フレール駆動ケースベルト
	2	Vベルト LC-109 スーパーゴールド	1K1190-22030	2	フレール駆動ベルト
	3	Vベルト LA-54 オレンジ	1K1190-14110	1	ネット繰出しベルト
	4	Vベルト コグA44	25152-004400	1	冷却ファン、ジェネレータ駆動
	5	Vベルト トクB53 H4	25123-005304	3	エンジン〜トランスミッション
	6	Vベルト LB84-AG8	1K1190-57230	2	エンジン〜フレーム
	7	Vベルト トクB54	1E8680-51080	2	エンジン〜ベアラ
コンベア	8	コンベアベルト;MC400	1K1190-27240	1	コンベア搬送ベルト
	9	コンベアプレート	1K1190-27250	2	コンベア左右
セイケイベルト	10	セイケイベルト;2750	1K1190-13000	1	フロント側成形ベルト
	11	セイケイベルト;2100	1K1190-13010	1	ゲート側成形ベルト
	12	レール	1K1190-13080	4	フロント側成形ベルトテンション部
	13	スクレーパ;1	1K1190-13130	1	ゲート側成形ベルトスクレーパ
	14	スクレーパ;2	1K1190-13140	2	ゲート側成形ベルトスクレーパ
ワイヤー	15	ブレーキワイヤー	1E3100-63550	1	
	16	クラッチワイヤー	1K1140-65161	2	
チェン	17	ローラチェーン 80×59L	1K1190-12100	1	ベアラ駆動チェン
	18	ローラチェーン 80×100L	1K1190-12110	1	メイン駆動チェン
	19	ローラチェーン 60×180L	1K1190-12120	1	フロント駆動チェン
	20	ローラチェーン 60×201L	1K1190-12130	1	ゲート駆動チェン
	21	ローラチェーン 40×58L	1K1190-31080	1	パッケージ駆動チェン
	22	ブラシ	1K1140-18000	5	自動注油ブラシ
ネット	23	シャバー	1K1190-15100	1	ネット切断用受歯
	24	ナイフ	1K1190-15160	1	ネット切断歯
	25	ゴムプレート	1K1190-15290	1	ネット繰出し部
フレール	26	フレールカッタ;9	1K1190-22010	24	フレール歯
	27	フレールブッシュ	1K1140-21030	24	フレール歯取付部
	28	フレールピンCP	1K1140-21040	24	フレール歯取付部
	29	ナイフプレート	1K1190-23060	1	受歯
防塵シール・ パッキン他	30	スポンジパッキン;700	1K1190-24020	2	刈取掃除口カバー部
	31	スポンジパッキン;840	1K1190-26040	2	コンベア掃除口カバー部
	32	スポンジパッキン;325	1K1190-26050	4	コンベア掃除口カバー部
	33	アクリルプレート;510	1K1190-26090	1	コンベア;左
	34	アクリルプレート;710	1K1190-26100	1	コンベア;右
	35	スポンジパッキン;200	1K1190-26130	4	コンベアアクリルプレート;左右
	36	スポンジパッキン;510	1K1190-26140	2	コンベアアクリルプレート;左
	37	スポンジパッキン;710	1K1190-26150	2	コンベアアクリルプレート;右
	38	ゴムプレート;U	1K1190-26220	1	エアシュート;上
	39	ゴムプレート;LO	1K1190-26230	1	エアシュート;下
	40	ゴムプレート;S	1K1190-26240	2	エアシュート;左右
	41	スクレーパ	1K1190-27150	1	コンベア後下
	42	アクリルプレート	1K1190-27300	1	コンベア;右下
	43	スクレーパ	1K1190-10040	1	コンベア後上
	44	スポンジパッキン;60	1K1190-15340	2	ネットカバー部
	45	ゴムプレート	1K1190-17070	1	ネットボックス
	46	ゴムプレート	1K1190-28030	1	エンジンルーム上部
	47	ゴムプレート	1K1190-28150	1	エンジンルーム右側
	48	カバー	1K1190-18210	1	ベアラ上部
	49	カバー	1K1190-18240	1	ネットカバー部
	50	カバー	1K1190-18190	1	ネットブレーキ部
	51	スポンジパッキン	1K1190-31040	1	パッケージ部
	52	シールプレート	1K1190-32130	3	操作ボックス部・CANコントローラ部
その他	53	シャーボルト;M10×55	1K1190-12080	1	10本セット(ボルト・ナット・Sワッシャ)
	54	バッテリー	172460-16130	1	115D31R
	55	フィルタ80×L80	129150-35153	1	エンジンオイルエレメント
	56	FOフィルタ	123907-55801	1	燃料コシ器
	57	エレメント	119802-55710	1	ウォーターセパレータ
	58	エレメント7インチ	129935-12520	1	エアクリーナ
	59	エレメントASY	1E8560-66370	1	HSTフィルタ
	60	クローラ 450×52×90JW	1E9330-73020	2	

3. 主要消耗部品の点検・交換時期の目安表

※下記の表は、主要消耗部品の点検・交換時期の目安表です。

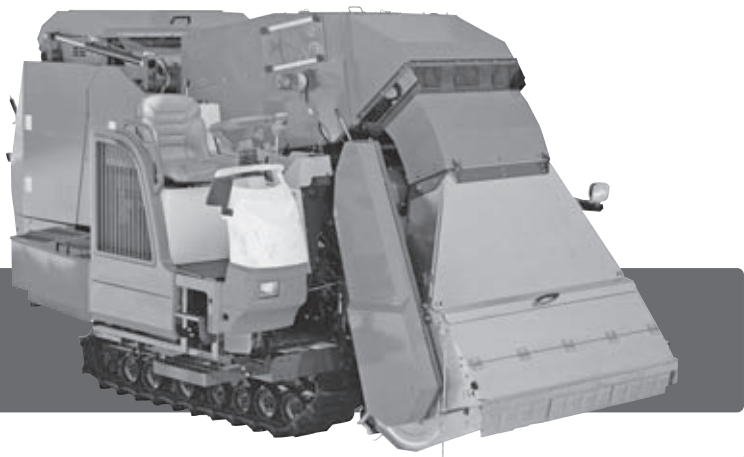
作物条件・作業条件により交換時期が異なりますので注意してください。

○：点検と調整・掃除・締結 ▲：交換 ●：初期運転後の点検と調整

点検箇所	点検・交換時期																							
	アワメータ表示時間(時間)																				それ以降(時間:h)		点検	交換
	20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	800	900	1000	1年	2年				
エンジン	ラジエータファンベルト	●	○								▲	●			○	○	○	▲			100hごと			500hごと
	エアクリーナエレメント	○	○	○	○		▲	○	○	○	○	○	▲					▲			50aごとと掃除			300hごと
	FOフィルタエレメント(カートリッジ)		○		▲				▲		○		▲			○	▲	○	▲		100hごと			200hごと
	油水分離器エレメント		○		○		○		○		○		○		○	○	○	○			毎日点検、100hごとと洗浄			
	燃料タンク清掃		○		○		○		○		○		○		○	○	○	○			毎日点検、100hごとと清掃			
	燃料ホース																				▲毎日点検			2年ごと
	エンジンドレンホース																				▲毎日点検			2年ごと
	ラジエータホース																				▲毎日点検			2年ごと
	エアクリーナホース																				▲毎日点検			2年ごと
	LOフィルタ 80×L80	▲				▲					▲					750			▲		—			最初50h、250hごと
	エンジンオイル(7.5L)	▲				▲					▲					750			▲		—			最初50h、250hごと
	エンジン冷却水(7.7L)																		▲		毎日点検、冬季抜き取り			1年ごと
ミッション	防振ゴム									○											500hごと			1000hごと
	マフラー排気管周囲清掃																				▲毎日点検			2年ごと
	マフラー(排気サイレンサ)		○		○		○		○		○		○		○	○	○	▲		○	100hごと			1000hごと
	サクシオンフィルタ	▲								▲							850				—			400hごと
	ブレーキ摩擦板								▲								▲				—			400hごと
	ブレーキスティールプレート								▲								▲				—			400hごと
走行	車軸オイルシールセット								▲								▲				—			800hごと
	車軸シールカバー								○								▲				400hごと			800hごと
	トランスミッションオイル(7.8L:ケース内)	▲				○				▲				○			850				—			400hごと
	クローラ	●			○				▲	●			○			▲		○			200hごと			400hごと
	クローラガイド								○							▲					400hごと			800hごと
	CRガイドザガネ								○							▲					400hごと			800hごと
	スプロケット		○		○		▲		○		○		▲		○	○	▲	○			100hごと			300hごと
	トラッククローラ				○				▲				○			▲		○			200hごと			400hごと
	トラッククローラBB				○				▲				○			▲		○			200hごと			400hごと
	トラッククローラオイルシール				○				▲				○			▲		○			200hごと			400hごと
	トラッククローラスリーブ				○				▲				○			▲		○			200hごと			400hごと
	アイドラ				○				▲				○			▲		○			200hごと			400hごと
	アイドラクローラ				○				▲				○			▲		○			200hごと			400hごと
	アイドラクローラオイルシール				○				▲				○			▲		○			200hごと			400hごと
	アイドラクローラスリーブ				○				▲				○			▲		○			200hごと			400hごと
	キャリアクローラ				○				▲				○			▲		○			200hごと			400hごと
	キャリアクローラBB				○				▲				○			▲		○			200hごと			400hごと
	キャリアクローラオイルシール				○				▲				○			▲		○			200hごと			400hごと
	キャリアクローラスリーブ				○				▲				○			▲		○			200hごと			400hごと
	イコライザー				○				▲				○			▲		○			200hごと			400hごと
	イコライザーBB				○				▲				○			▲		○			200hごと			400hごと
	イコライザーオイルシール				○				▲				○			▲		○			200hごと			400hごと
	キャリアクローラ支点軸BB				○				▲				○			▲		○			200hごと			400hごと
	キャリアクローラ支点軸オイルシール				○				▲				○			▲		○			200hごと			400hごと
	キャリアクローラ支点軸スリーブ				○				▲				○			▲		○			200hごと			400hごと
	テンションボルト	●			○				▲	●			○			▲		○			200hごと			400hごと
	油圧ホース		●																	▲	毎日点検			2年ごと
電装	ラインフィルタ	▲							▲												—			最初50h、400hごと
	オイルクーラの清掃																				毎日点検清掃			—
	ラジエータの清掃																				毎日点検清掃			—
	走行駆動ベルト	●	○	○	○	○	○	○	▲	●	○	○	○	○	○	▲	○	○			20、50hごと			400hごと
	ペーラ駆動ベルト	●	○	○	○	○	○	○	○	○	▲	●	○	○	○	▲	○	○			20、50hごと			500hごと
	フレール駆動ベルト	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▲	○	○			20、50hごと			500hごと
	駐車ブレーキワイヤ		●		○				○		▲		○			○		▲			50、200hごと			500hごと
	反射器			○		○		○		○		○		○		○	○	○			毎日点検			
	バッテリー			○					○		○					○	▲	○			100hごと			800hごと
	ジェネレータ				○													○	○	○	200hごと			
	スイッチ類																		○	○	1年ごと			
	ハーネス																		○	○	1年ごと			
	ヒューズ・スローブローヒューズ			○		○			○		○		○		○	○	○	○			100hごと			
	ランプ(電球)																				毎日点検			
	ホーンスイッチ																				毎日点検			

上手に作業をするポイント

- ① 茎葉・穀実が破碎
 - ② 均一な穀実混合
 - ③ 高い梱包密度
- これにより高品質サイレージができます。



高品質サイレージを作るために

■ 作物の条件

飼料イネの収穫適期は糊熟期から黄熟期、茎葉・子実の全体水分が65%以下を推奨します。

- ・葉や茎を手でしごいて濡れない状態を確認して刈り取りましょう。
- ・倒伏した作物に土が付着している場合は収穫しないでください。サイレージの品質が悪くなります。
- ・熟期が遅れると脱粒しやすくなり、損失が多くなります。

本機を使えば籾や茎葉を傷つけ
碎きながら、均一混合・高密度梱包
するから高品質サイレージができる



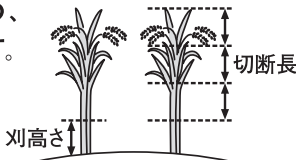
■ 収穫体系

作物やほ場の条件に合わせて、
2通りの収穫体系から選択して
ください。

作物水分	ほ場状態	収穫体系
適 正	乾いている	ダイレクトカット体系（刈り取り→梱包まで一行程）
	湿っている	
多 い	乾いている	予乾体系＜青刈イネ・牧草＞（刈り落とし→予乾→拾い上げ→梱包）
	湿っている	作業できません

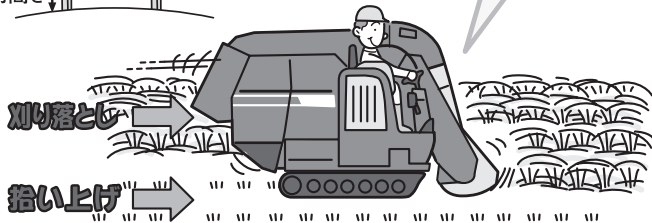
■ 刈高さ、切断長について

株元は水分が高い上に、土が付着しているため、
サイレージ品質を低下させる恐れがあります。
株元を避けた、高刈りを推奨します。



予乾体系の場合は…

- ・拾い上げ方向は、刈り落としのときと同じ方向からしてね
- ・切断長を「短」にして刈り落としをすると、拾い上げたときに短くなり過ぎることがあるので注意！



● 刈高さ・切断長の目安

収穫体系		刈高さ(cm)	切断長
ダイレクトカット体系	乾 田	10	短
	湿 田	15	短
予 乾 体 系	刈り落とし	15	中・長
	拾い上げ	10	短

その他のポイント

ネットは巻き方向に注意して 伝線しないように注意

ネットの巻き方向に注意して取り付けます。
また、ネットの通りに異物や突起がないか確認してください。異物や突起があるとネットが伝線するので、注意が必要です。
また、ネットには静電気が発生する場合がありますので、新しいネットロールを装着するときには、取り付けローラーに静電気防止スプレー、ベビーパウダーなどを振りかけてください。

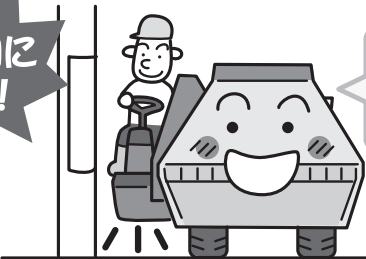


ご注意ください

移動するときは 路肩と障害物に注意

- ・運転席の真下にはクローラはありません。フレール部を目安にして、移動してください。
- ・特に狭い道を走行している時は、壁や電柱などの障害物に注意してください。

障害物に
注意！



運転席の下には
クローラがないから
注意してね

ご使用前にチェックしましょう

フレールカッターの刃先

フレールカッターの刃先が磨耗する（エッジがなくなる）と、刈跡が汚くなります。また、エンジン回転が下がりやすくなり、フレール部で作物が詰まる原因となりますので、研磨してください。

エッジがなくなったら研磨してね

刃先

ご使用後のお手入れ

その日に水洗い＆掃除

- ・機械はその日のうちに水洗いし、取扱説明書に従って掃除をしてください。
- ・塵やホコリは入念に取り除いてください。
- ・特に乳酸菌散布装置（オプション）を使った場合は、必ず水洗いをしてください。



機械はその日の
うちに水洗い

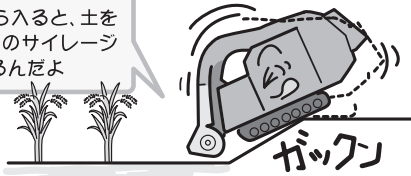
＜ベアラ内の掃除＞

ゲートを少し開け、ベアラ部を空回りさせて、塵やホコリを落としてください。

上手に作業をするポイント

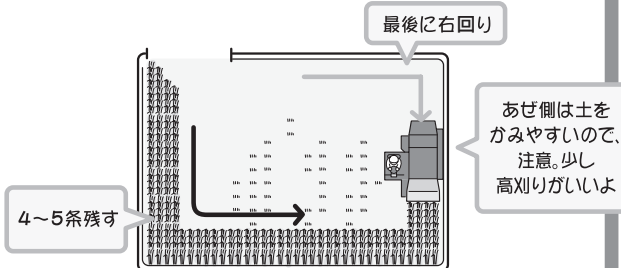
1 急傾斜・段差のある入口では、フレールクラッチを切って入ってください。

フレールを回しながら入ると、土を噛んでしまって、良質のサイレーシにならない場合があるんだよ



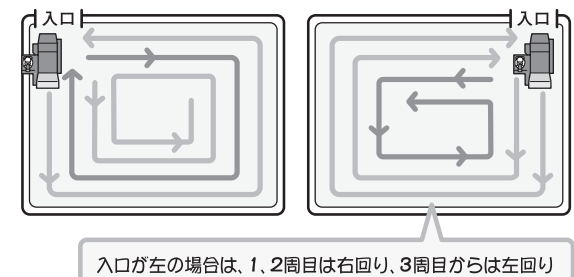
2 あぜが高くステップが接触するときは、4～5条残しましょう。

- ・ほ場の出入りが右側にあり、あぜが高くステップが接触したり、あぜ際に障害物がある場合などは、4～5条残し、最後に右回りで仕上げましょう。
- ・あぜ側は土をかみやすいので注意し、少し高刈りをしましょう。



3 2周目だけは右回り、3周目からは左回りが、能率的。

- ・左回りであぜ際1周目を刈り終わった後、2周目は右回り刈りをすると、あぜ際刈りで排出したバールを寄せたり、ほ場から搬出しなくてすみ、能率的です。

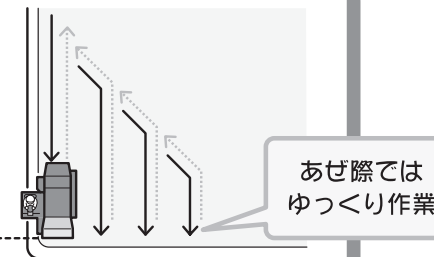


※倒伏時は、入口に関係なく、向い刈りの方が効率的に作業が行えます。

4 四隅を3～4回斜め刈りすると、手刈りの手間が省けます。

- ・あぜ際で、刈取部が前方のあぜと平行になるように方向修正をすると、手刈りをしなくて済みます。
- ・あぜ際ではゆっくり刈り取り、土をかまないようにしましょう。
- ・図のように、斜め刈りの距離を少しずつ短くしていくと、後進時に踏み倒しが少なくなります。

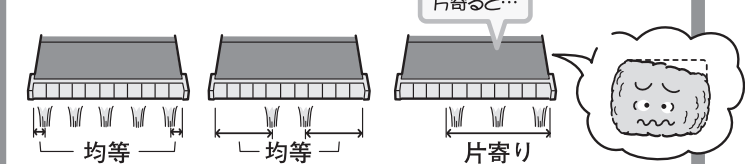
あぜと平行に



ほ場が広い場合は
中割り作業が能率的！
バール運搬の時も
能率的だよ！

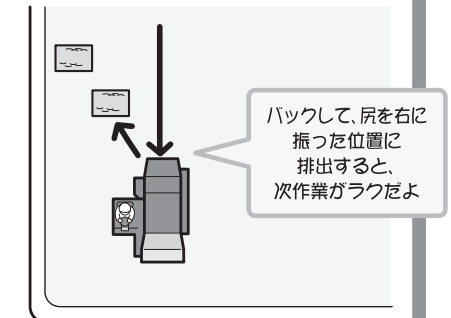
5 条合わせは左右均等にして、キレイなバールを作りましょう。

- ・条合わせを均等にしないと、バールの形が変形する場合があります。
- ・刈り終いに1～3条残った場合も、刈取部の真ん中になるように心がけてください。



6 土が付着しないよう、バールの排出は平らなところで行いましょう。

- ・四隅(旋回・コーナー)は土が付着しやすいので、避けましょう。
- ・次作業の邪魔になりそうな場合は、少しバックし、尻を右に振った位置に排出しましょう。

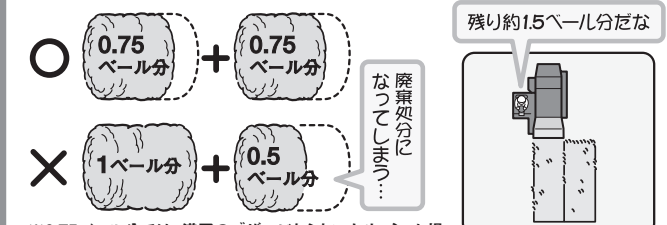


7 刈り終いは、あと何バールできるかを推測して、ムダのないように。

- ・残り少ない作物でバールを作ろうとすると、梱包密度が低くなり、発酵品質が悪くなりやすく、廃棄処分しなければならない場合があります。また、作物の量が少ないためネットが巻けなかったり、ラッピングマシンでフィルムが巻けない場合もあります。
- ・下の例のように作業をしてください。

例1) 1.5バール分の作物が残っている場合

1バールと0.5バールに分けず、0.75バールを2個作るようにしてください。



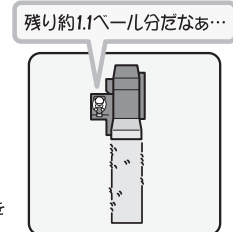
※0.75バール分では、満了のプザーがならないため、ネット操出スイッチを「強制」にして結束してください。

例2) 1.1バール分の作物が残っている場合

ネット操出スイッチを「切」位置にして全て刈り取ります。

↓
ネット操出スイッチを「強制」にして、結束してください。

※「自動」にしたままだと、1バールが終わった時点で結束を始めてしまい、残りの0.1バール分が余ってしまいます。



本 社	066-8555	千歳市上長都1061番地2 TEL 0123-26-1123 FAX 0123-26-2412
千歳営業所	066-8555	千歳市上長都1061番地2 TEL 0123-22-5131 FAX 0123-26-2035
豊富営業所	098-4100	天塩郡豊富町字上サロベツ1191番地44 TEL 0162-82-1932 FAX 0162-82-1696
帯広営業所	080-2462	帯広市西22条北1丁目12番地4 TEL 0155-37-3080 FAX 0155-37-5187
中標津営業所	086-1152	標津郡中標津町北町2丁目16番2 TEL 0153-72-2624 FAX 0153-73-2540
花巻営業所	028-3172	岩手県花巻市石鳥谷町北寺林第11地割120番3 TEL 0198-46-1311 FAX 0198-45-5999
仙台営業所	983-0013	宮城県仙台市宮城野区中野字神明179-1 TEL 022-388-8673 FAX 022-388-8735
小山営業所	323-0158	栃木県小山市梁2512-1 TEL 0285-49-1500 FAX 0285-49-1560
岡山営業所	700-0973	岡山県岡山市北区下中野704-103 TEL 086-243-1147 FAX 086-243-1269
熊本営業所	861-8030	熊本県熊本市小山町1639-1 TEL 096-389-6650 FAX 096-389-6710
都城営業所	885-1202	宮崎県都城市高城町穂満坊1003-2 TEL 0986-53-2222 FAX 0986-53-2233